

# NEC Hyper Converged System for Microsoft S2D スタートアップガイド

2024 年 1 月

日本電気株式会社

第 3.1 版

文書番号：NHS-E-088-031

# 目次

1	本ガイドについて .....	3
1.1	本製品について.....	3
1.2	お問い合わせ先.....	3
1.3	用語の定義 .....	4
1.4	表記 .....	5
2	事前準備 .....	6
2.1	ご用意いただくもの .....	6
3	受入確認 .....	7
3.1	概要 .....	7
3.2	構成品の確認.....	8
3.3	本製品の設置.....	9
3.4	ネットワーク装置への接続.....	9
3.5	電源の接続 .....	9
3.6	管理ノードの電源オン.....	10
3.7	クラスターノードの電源オン .....	11
3.8	Windows PC の準備 .....	12
3.9	Windows PC から管理ノードに接続.....	13
3.10	管理ノードの仮想マシン確認.....	15
3.11	DNS 疎通確認 .....	16
3.12	Windows PC からクラスターノードに接続.....	17
3.13	クラスターノードの Ping 応答確認.....	19
3.14	クラスターの検証.....	20
3.15	WindowsPC から Windows Admin Center への接続確認.....	25
3.16	WindowsPC から Windows Admin Center での状態確認.....	27
3.17	クラスター環境の動作確認.....	29
3.18	動作確認設定の削除.....	37
3.19	クラスター管理 AD 用仮想マシンのバックアップ設定の確認.....	40
3.20	システムバックアップの確認.....	47
3.21	SNMP アラートのテスト送信と確認 .....	51
3.22	NEC ESM PRO Extension for Windows Admin Center の動作確認 .....	57
3.23	AD ドメインの保守用アカウントのログイン確認 .....	59
4	ライセンス登録 .....	60

4.1	Windows Server のライセンス登録 .....	60
5	パスワード変更 .....	63
5.1	概要 .....	63
5.2	管理ノード、クラスターノードの BMC のパスワード変更 .....	65
5.3	Active Directory(AD)ドメインアカウントのパスワード変更 .....	68
5.4	ローカル管理者(Administrator)パスワード変更 .....	70
5.5	ディレクトリサービス復元モードのパスワード変更 .....	74
5.6	サーバ管理用仮想マシンの ESMPRO/ServerManager のパスワード変更 .....	78
5.7	ESMPRO/ServerManager のコンポーネント登録情報の変更 .....	82
5.8	ESMPRO/SM Web Service サービスの証明書の再作成とパスワード変更 .....	89
5.9	ESMPRO/ServerManager SSL の鍵の再作成とキーストアのパスワード変更 .....	90
5.10	UPS の SNMP カードログインユーザ(管理者権限ユーザー)パスワード変更 .....	91

# 1 本ガイドについて

この度は、NEC Hyper Converged System for Microsoft S2D(以下、本製品)をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

本書では、NEC Hyper Converged System 構築サービス（以下、HCS 構築サービス）を利用した場合に、本製品がお引き渡しされてから使えるようになるまでの手順を説明します。

HCS 構築サービス（オフサイト）を利用した場合は、ご購入された環境にあわせ 2 章から 5 章を実施してください。

HCS 構築サービス（オンサイト）を利用した場合は、3 章は実施済みですのでご購入された環境にあわせ 2 章、4 章、5 章を実施してください。

本書の確認事項や不明点がありましたら、[1.2 節](#)の問い合わせ窓口までご連絡ください。

## 1.1 本製品について

本製品は、Express5800 シリーズにコンピューティング機能とストレージ機能を統合した仮想化基盤製品です。HCI の検討から構築、運用、保守までトータルで支援します。また、高い柔軟性により既存環境や運用プロセスに合うようにシステムインテグレーション作業を行いながら、導入する事が出来ます。

ご購入いただいた本製品は、Windows Server, Hyper-V, S2D、Windows Admin Center のインストール、セットアップ作業が完了した状態となっております。面倒なセットアップ作業を実施することなく、Windows Admin Center を利用して S2D ボリュームの作成から利用することが出来ます。

本製品を設置し、電源を入れ、仮想化基盤として使用可能となるまでに必要な準備作業を本書にてご説明します。本書に従って準備作業を実施しても正しく動作しない場合は、お手数をおかけしますが下記までお問い合わせをお願いします。

## 1.2 お問い合わせ先

問題が解決しない場合、NEC Hyper Converged System の構築サービス窓口にお問い合わせ下さい。

メールアドレス      [hcss2d-inquiry@cpf.jp.nec.com](mailto:hcss2d-inquiry@cpf.jp.nec.com)




### 1.3 用語の定義

本書に記載させている用語の定義は以下の通りです。

名称	説明
NEC Hyper Converged System for Microsoft S2D	Windows Server (Datacenter エディション) で利用可能な Software Defined Storage 機能『Storage Spaces Direct (S2D:記憶域スペースダイレクト)』で実現する、Hyper-V を仮想化基盤とした HCI。
HCS 構築サービス	お客様がすぐに HCS を利用開始できるように、NEC でソフトウェアインストールやセットアップ作業を代行するサービス。
Windows Admin Center	ブラウザベースの Windows Server 管理ツール。
管理ノード	クラスターノードを管理するための物理サーバ。Active Directory ドメインコントローラ、クォーラム監視、Windows Admin Center を仮想マシン上に搭載。
クラスターノード	NEC Hyper Converged System for Microsoft S2D を構成する物理サーバ。
Storage Spaces Direct (S2D)	Windows Server の Software Defined Storage 機能。
Hyper-V	Windows Server の仮想化基盤機能。
Active Directory(AD) ドメインコントローラ	Active Directory は Windows のディレクトリサービスで、ドメインコントローラはディレクトリサービスを提供するサーバ。
クォーラム監視	Windows フェールオーバークラスターで、各ノードが正常に動作しているか監視する機能。
ESMPRO/SM	Express5800 サーバにバンドルされる SW 製品である ESMPRO/ServerManger の略。
クラスター管理 AD 用仮想マシン	管理ノード上で動作する Windows Server の仮想マシン。 フェールオーバークラスターを管理する Active Directory の実行環境として使用します。 AD を冗長化するため S2D 上に 2 台目を作成する場合があります。 AD を冗長化している場合、管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンを「クラスター管理 AD 用仮想マシン 1」、S2D 上のクラスター管理 AD 用仮想マシンを「クラスター管理 AD 用仮想マシン 2」と記載します。
サーバ管理用仮想マシン	管理ノード上で動作する Windows Server の仮想マシン。 管理対象の Windows Server を集中管理する Windows Admin Center の実行環境として使用します。
管理用ネットワーク (管理用 LAN)	管理用通信をやり取りするネットワーク。
S2D 用ネットワーク(S2D 用 LAN)	S2D クラスター間の通信をやり取りするネットワーク。
現調	「現地調整」の略。機器搬入後、設置する場所で機器のラッキングを行うこと。
DNS、DNS サーバ	IP アドレスとホスト名を変換する仕組み・機能。HCS の動作に必要。
Administrator	管理者を示す英単語。HCS の管理者ユーザの初期値として使用。
保守アカウント	HCS でクラスターノードの HDD/SSD の交換作業などを行う保守作業員が使用するユーザアカウント。
Windows Server Backup(WSB)	Windows OS の標準のバックアップソフト。
タスクスケジューラ	Windows OS の標準のタスクのスケジュールソフト。

## 1.4 表記

本書では次の記号を使用しています。この記号は、次のような意味を持ちます。

	知っておくと役に立つ情報、便利なことについて示しています。
---	-------------------------------

## 2 事前準備

### 2.1 ご用意いただくもの

本製品をご利用いただく前に、下記のご準備をお願いいたします。本製品に同封もしくは別途送付するものと Web からダウンロードするものがあります。

- NEC Hyper Converged System モデル
  - 同時購入いただいたオプション製品等
  - NEC Hyper Converged System 構成品表（以下、HCS 構成品表。HCS 構築サービス（オフサイト）のみ本製品に同封）
  - ExpressSupportPack, PPSupportPack（パック型保守製品を購入頂いた場合。別途納品）
- ドキュメント一式
  - Express サーバベースモデルの製品マニュアル（ユーザーズガイド、Web ダウンロード）
  - NEC Hyper Converged System for Microsoft S2D 構築サービス SG 仕様書（以下、SG 仕様書。別途送付）
  - NEC Hyper Converged System for Microsoft S2D スタートアップガイド（以下、本書。HCS 構築サービス（オフサイト）は別途送付。HCS 構築サービス（オンサイト）は Web ダウンロード）
  - NEC Hyper Converged System for Microsoft S2D 初期パスワード通知書（以下、初期パスワード通知書。別途送付）
  - NEC Hyper Converged System 組込製品・添付品リスト（以下、HCS 組込製品・添付品リスト。HCS 構築サービス（オフサイト）で作業を行った組込製品がある場合。別途送付）
- Windows Server ライセンス
- その他
  - 下記要件を満たす Windows PC（Windows10 バージョン 1709 以降）
    - ✧ LAN インタフェース、LAN ケーブル等（管理ネットワーク接続用、有線必須）
    - ✧ Web ブラウザ（Microsoft Edge）
- （本書対象外、ご参考）
  - Windows Admin Center セットアップ用インストーラ（最新版、Web ダウンロード）
  - NEC ESMPRO Extension for Windows Admin Center（最新版、Web ダウンロード）
  - NEC Hyper Converged System for Microsoft S2D 運用ガイド（Windows Server 2019 版または、Windows Server 2022 版）（最新版、Web ダウンロード）
  - ネットワーク機器類一式（ネットワークスイッチ（購入時）、LAN ケーブルなど）
  - サーバを設置するための設備一式（19 インチラック、商用電源など）
  - ディスプレイ、キーボード（LCD コンソールユニット等も可）

### 3 受入確認

2章の事前準備が完了後、本章の受入確認手順を実施してください。本章の手順が全て完了すると、本製品が正しく動作することの確認が完了します。 本紙最終頁の「別紙 受け入れチェックシート」も必要に応じてご利用ください。

#### 3.1 概要

本節は受入確認手順を示します。

本製品をご利用頂くためには、下記 22 点の実施をお願いいたします。

1. 構成品の確認
2. 本製品の設置
3. ネットワーク装置への接続
4. 電源の接続
5. 管理ノードの電源オン
6. クラスターノードの電源オン
7. Windows PC の準備
8. Windows PC から管理ノードに接続
9. 管理ノードの仮想マシン確認
10. DNS 疎通確認
11. Windows PC からクラスターノードに接続
12. クラスターノードの Ping 応答確認
13. クラスターの検証
14. Windows PC から Windows Admin Center への接続確認
15. Windows PC から Windows Admin Center での状態確認
16. クラスター環境の動作確認
17. 動作確認設定の削除
18. クラスター管理 AD 用仮想マシンのバックアップ設定の確認  
※本項目は、クラスター管理 AD 用仮想マシンをバックアップしている場合に実施してください。
19. システムバックアップの確認  
※本項目は、HCS 構築サービスでシステムバックアップを取得している場合に実施してください。
20. SNMP アラートのテスト送信と確認
21. NEC ESM PRO Extension for Windows Admin Center の動作確認
22. AD ドメインの保守用アカウントのログイン確認

## 3.2 構成品の確認

### 3.2.1 構成表の取り出し

機器本体の構成物を示す構成表は、組込製品・添付品リストと一緒に本製品の各梱包箱と一緒に納品されます。HCS 構成表と一緒に構成表、組込製品・添付品リストを取り出してください。

### 3.2.2 構成表の確認

本製品と、その他同時手配いただいた製品がそれぞれ別の梱包箱に納められた状態でお客様ご指定先へ送付されます。本製品が到着されましたら、構成表をご参照の上、お買い求めいただいた構成品から過不足がないかご確認をお願いします。

また、HCS 構成表に梱包箱の個数が記載されます。HCS 構成表の梱包箱の個数と、提供物の梱包箱の個数が一致していることを確認してください。

構成品は、ケーブル・レールなどの添付品を除き、組み付けられた状態で出荷されます。HCS 構築サービス後も本製品の内部に組みつけられた状態となっているため、分解しないと確認できない物も含まれます。内部に組みつけられた構成品は、構成表と一緒に送られてきた組込製品・添付品リストと、HCS 構築サービス（オフサイト）にて作業を行った場合のみ別途送付される HCS 組込製品・添付品リストにてご確認ください。

・添付品は、なくさないよう大切に保管してください。

#### 《参考》

本製品と同時にご注文いただいた、NEC Hyper Converged System 以外の製品(例: LCD コンソールユニット、Windows Server CAL など)は、3.2.1 節の HCS 構成表には記載されておりません。同時にご注文いただいた NEC Hyper Converged System 以外の製品は、納品書と納品物の梱包箱の数量、型番が一致していることを確認してください。

### 3.2.3 製品の外観確認

本製品(クラスターノード、管理ノード、ネットワークスイッチ(購入時))を梱包箱から取り出し、へこみや汚れ等がないか確認してください。

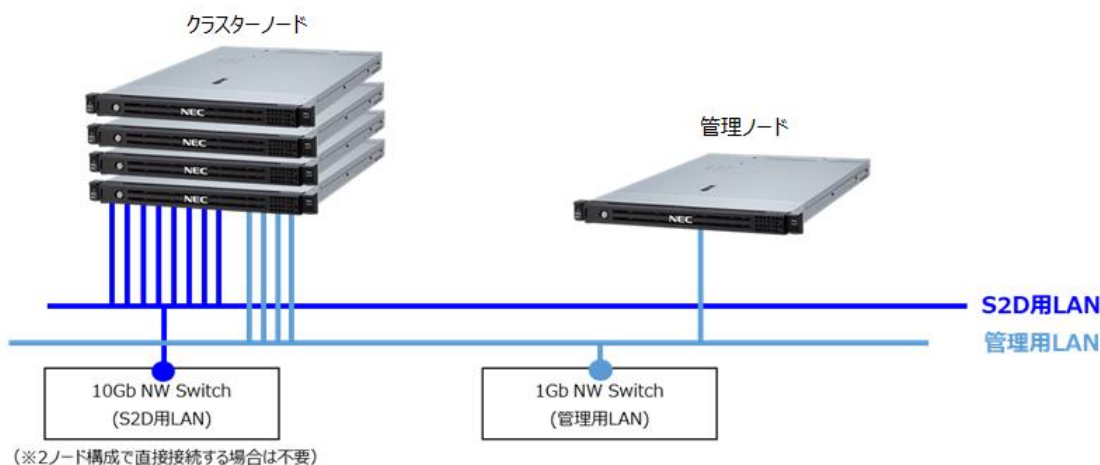
### 3.3 本製品の設置

本製品を使用する前に、19 インチラックなど安全に固定できる器具に搭載し、電源を接続する必要があります。本製品に同封されるスタートアップガイド、または NEC Web サイトから入手できる HCS ベースモデル (R120h-1M/2M 等) の製品マニュアル(ユーザーズガイド一式)を元に、設置を行ってください。

### 3.4 ネットワーク装置への接続

本製品の電源を入れる前に、SG 仕様書に記載されている「サーバ LAN ポート対応表」シート、「ケーブル接続表」シート、「クラスターノードの設定」シートの『11.管理用ネットワークのチーミング設定(全クラスターノードで共通)』項目の「物理ネットワークアダプタ名」もしくは、『12.管理用ネットワークの設定(全クラスターノードで共通)』項目の「物理ネットワークアダプタ名」と『13.S2D 用ネットワークの設定』項目の「物理ネットワークアダプタ名」、「管理ノードの設定」シートの『10.管理用ネットワークのチーミング設定』項目の「物理ネットワークアダプタ名」もしくは、『11.管理用ネットワークの設定』項目の「物理ネットワークアダプタ名」に従ってネットワーク機器と本製品を正しく接続してください。

接続例



### 3.5 電源の接続

すべての製品の設置が完了後、各管理ノード、クラスターノードに同封されるスタートアップガイド、または NEC Web サイトから入手できる HCS ベースモデル(R120h-1M/2M)の製品マニュアル(ユーザーズガイド)を元に、電源ケーブルを AC 電源に正しく接続して下さい。NEC ネットワーク機器(10G スイッチ)を同時に購入された場合は、製品マニュアルを参照して電源を接続して電源をオンにしてください。

<<https://jpn.nec.com/qxseries/download.html>>

### 3.6 管理ノードの電源オン

本製品の管理ノード(サーバ)の電源をオンにします。ネットワーク機器の電源オン確認後、管理ノードの電源をオンしてください。

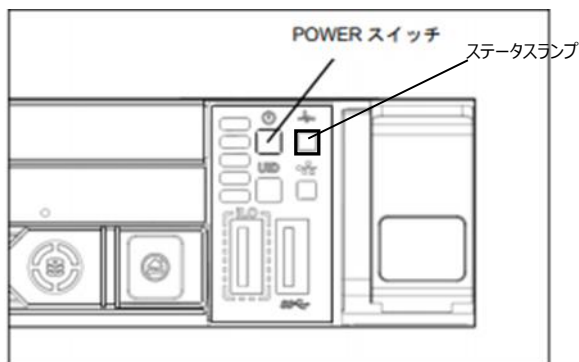
電源をオンにする方法は、以下を参照ください。

R120h-1M を例としていますが、該当機器のユーザズガイドをご参照ください。

#### R120h-1M の電源オン：

以下の図の POWER スイッチを押下して、電源オンしてください。

正しく電源オンされると、ステータスランプが緑色に点灯します。



#### 《参考》

管理ノードにディスプレイを接続している場合、ローカルコンソールで下記のような画面が表示されれば、Windows Server が起動しています。



管理ノードにディスプレイを接続していない場合、十分な時間を待ってください。

### 3.7 クラスターノードの電源オン

本製品の全てのクラスターノード(サーバ)の電源をオンにします。クラスターノードの電源オンの順序指定はありません。

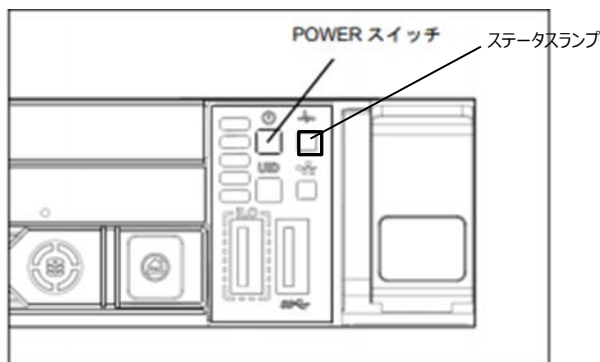
電源をオンにする方法は、以下を参照ください。

R120h-1M、R120h-2M を例としています。該当機器のユーザズガイドをご参照ください。

#### R120h-1M の電源オン：

以下の図の POWER スイッチを、各ノード分、順次、押下して、電源オンしてください。

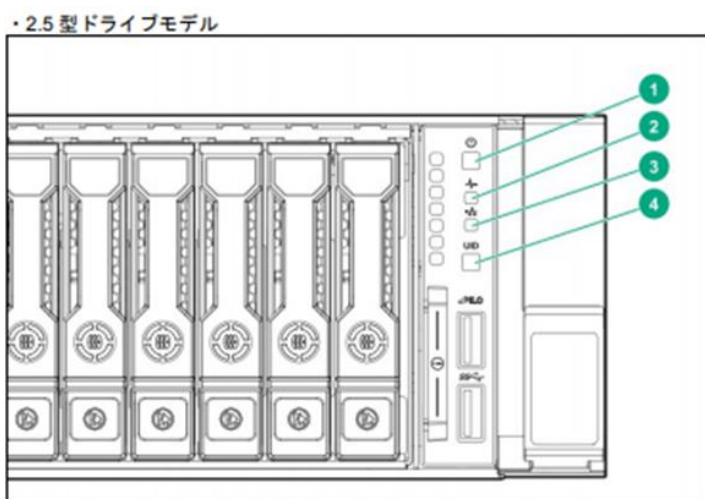
正しく電源オンされると、ステータスランプが緑色に点灯します。



#### R120h-2M の電源オン：

以下の図の POWER スイッチを、各ノード分、順次、押下して、電源オンしてください。

正しく電源オンされると、ステータスランプが緑色に点灯します。



①POWER スイッチ、②ステータスランプ、③LINK/ACT ランプ、④UID スイッチ/ランプ

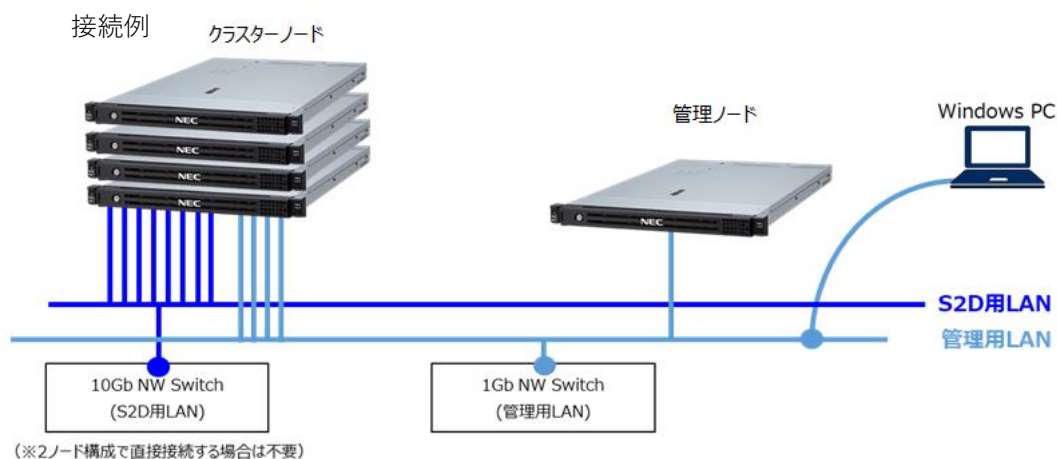


### 3.8 Windows PC の準備

Windows PC を、管理用ネットワークに接続します。

手順

1. Windows PC のネットワーク設定を、管理用ネットワーク上の管理ノード(ホスト OS、クラスター管理 AD 用仮想マシン、サーバ管理用仮想マシン)、クラスターノード(ホスト OS、クラスター管理 AD 用仮想マシン(AD 冗長化を実施している場合))に接続できるよう、変更します。
2. Windows PC を管理用ネットワークに接続してください。



《注意》

Windows PC に設定する IP アドレスは、本製品や管理用ネットワークで使われていない IP アドレスを割り当ててください。重複した IP アドレスを設定した場合、システムの動作に影響を与えることがあります。

### 3.9 Windows PC から管理ノードに接続

Windows PC を管理用ネットワークに接続し、管理ノードに接続します。

手順実施に必要なパラメータ

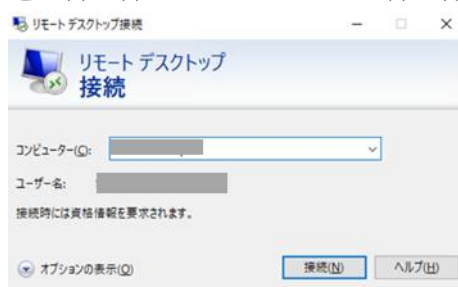
ドキュメント	項目	パラメータ/値 (メモ用)
初期パスワード通知書	Administrator ユーザのパスワード	
SG 仕様書	管理ノードの IP アドレス ([管理ノードの設定]シート「10.管理 用ネットワークのチーミング設定」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホ スト OS)」の「IP アドレス」 もしく は、「11.管理用ネットワークの設定」 -「仮想ネットワークアダプター名(ホ スト OS)」の「IP アドレス」 )	
SG 仕様書	管理ノードのサブネットマスク ([管理ノードの設定]シート「10.管理 用ネットワークのチーミング設定」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホ スト OS)」の「サブネットマスク」 も しくは、「11.管理用ネットワークの設 定」 -「仮想ネットワークアダプター 名(ホスト OS)」の「サブネットマス ク」 )	
	Windows PC に設定する IP アドレス	

手順

1. Windows PC から管理ノードにリモートデスクトップ接続します。

Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、SG 仕様書「管理ノードの IP アドレス」を入力し、管理ノードに接続します。アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインできるかどうかを確認します。

- コンピューター：SG 仕様書「管理ノードの IP アドレス」
- ユーザー名：初期パスワード通知書「管理ノードのローカル管理者(Administrator)の ID」
- パスワード：初期パスワード通知書「管理ノードのローカル管理者(Administrator)のパスワード」



2. 管理ノードへのリモートデスクトップ接続が成功し、管理ノードのデスクトップ画面が表示されることを確認します。


- 正しく接続できた場合:管理ノードのデスクトップ画面が表示される。(下記図)
- 接続できない場合: リモートデスクトップ接続できない。またはアカウント情報がエラー。



管理ノードにリモートデスクトップ接続ができない場合は、下記を再確認してください。下記を確認しても接続できない場合は、お手数をおかけしますが [1.2](#) 節の問い合わせ窓口までご連絡ください。

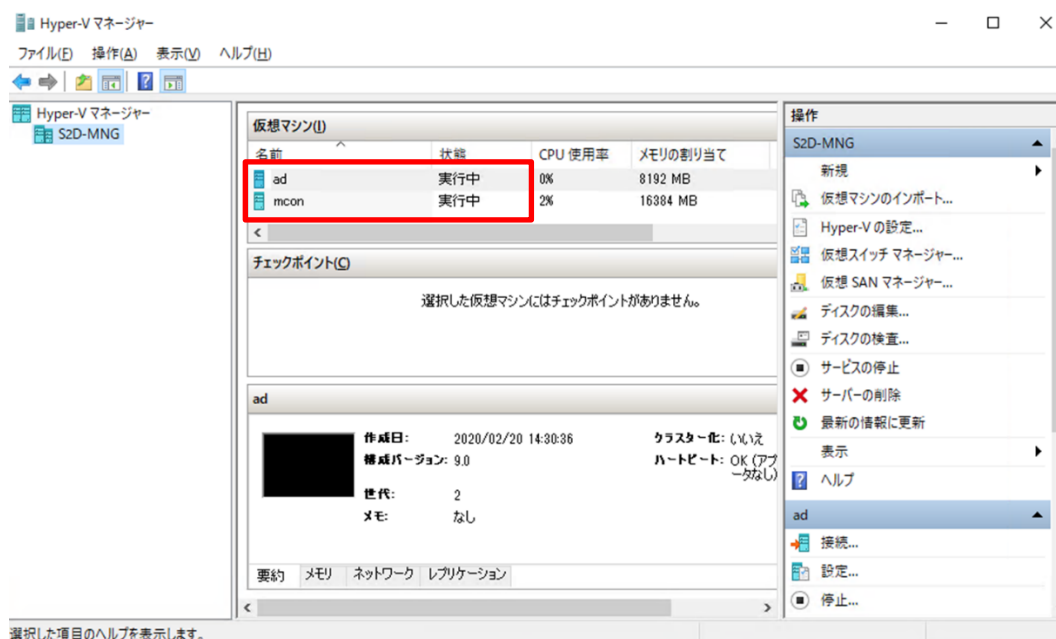
- 電源: 管理ノードの電源がオンになり、Windows Server が起動していることを [3.6](#) 節を参考に確認してください。
- ネットワーク: Windows PC より、SG 仕様書「管理ノードの IP アドレス」に ping を実施し、通信ができていることを確認してください。

### 3.10 管理ノードの仮想マシン確認

1. 管理ノード上で Hyper-V マネージャーを起動し、仮想マシンの状態を確認します。管理ノードのデスクトップ画面の「Windows キー (  )」をクリックして「Windows 管理ツール」「Hyper-V マネージャー」をクリックして起動します。
2. 中央のペインで仮想マシン (クラスター管理 AD 用仮想マシン 1、サーバ管理用仮想マシン) の状態が実行中であることを確認します。それぞれの仮想マシン名は以下を確認します。

- ・クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 の名前：SG 仕様書の[管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シートの「1.仮想マシンの設定」の「仮想マシン名」

- ・サーバ管理用仮想マシンの名前：SG 仕様書の[管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築]シートの「1.仮想マシンの設定」の「仮想マシン名」



選択した項目のヘルプを表示します。

状態がオフの場合は、画面中央の「仮想マシン」ペインから該当の仮想マシンを選択し、画面右側の「操作」ペインの「接続」をクリックし、「仮想マシン接続」ウィンドウの「起動」ボタンをクリックしてください。

### 3.11 DNS 疎通確認

管理ノードで、DNS 疎通確認を実施します。

- 3.9 節でリモートデスクトップ接続した管理ノード上で、コマンドプロンプト(cmd)を起動します。
- 管理ノードのコマンドプロンプト上で以下のコマンドを実行し、管理ノードから SG 仕様書に記載されている管理ノード/クラスターノード/クラスター管理 AD 用仮想マシン 1/クラスター管理 AD 用仮想マシン 2/サーバ管理用仮想マシンのホスト名、管理用ネットワークの IP アドレスを正引き可能であることを確認してください。

※クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 の疎通確認は、AD を冗長化している場合に実施してください。

- 正引き確認（通常）：nslookup [SG 仕様書に記載された各ノードのホスト名(FQDN)]
- 正引き確認（2 台目の DNS）：nslookup [SG 仕様書に記載された各ノードのホスト名(FQDN)] [クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 の IP アドレス]

※2 台目の DNS での疎通確認は AD を冗長化している場合に実施してください。

<ホスト名(FQDN)の例>

ノード名称	ホスト名(FQDN)	IP アドレス(管理用 LAN)
例)クラスターノード 1	s2d-clstr01.hci.local	192.168.0.101
例)管理ノード	s2d-mng.hci.local	192.168.0.100

以下は SG 仕様書の情報を転記し、疎通確認のチェック用メモとしてご利用ください。

ノード名称	ホスト名(FQDN)	IP アドレス(管理用 LAN)
管理ノード		
クラスターノード 1		
クラスターノード 2		
...		
クラスター管理 AD 用 仮想マシン 1		
クラスター管理 AD 用 仮想マシン 2 ※AD を冗長化している場合		
管理ノードのサーバ管理用 仮想マシン		

```
管理用: コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.17763.1039]
(c) 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator.HCI-S2D>nslookup s2d-clstr01.hci.local
DNS request timed out.
    timeout was 2 seconds.
サーバー:  Unknown                -> 参照元のDNSサーバホスト名(逆引きの設定が無い場合Unknownとなります。)
Address:  192.168.0.50             -> 参照元のDNSサーバIPアドレス

名前:  s2d-clstr01.hci.local       -> nslookupしたホスト名
Address: 192.168.0.101             -> nslookupしたホスト名のIPアドレス
```

3. 正引き結果が SG 仕様書のホスト名、IP アドレスと一致していることを確認後、コマンドプロンプトを終了し、管理ノードからログオフしてください。

《参考》

正引きができない場合、DNS サーバに SG 仕様書に記載頂いた各ノードのホスト名、IP アドレスが登録されていることやネットワークケーブルが正しく接続されているかを確認して下さい。

### 3.12 Windows PC からクラスターノードに接続

Windows PC をクラスターノードに接続します。

手順実施に必要なパラメータ

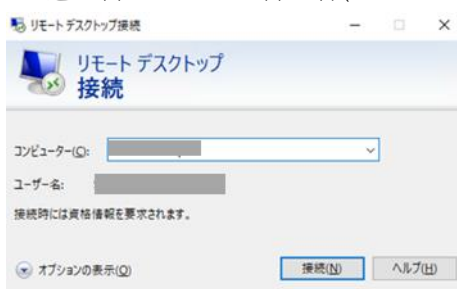
ドキュメント	項目	パラメータ/値 (メモ用)
初期パスワード通知書	ドメイン管理者(Administrator)の ID とパスワード	
SG 仕様書	クラスターノード 1 の IP アドレス ([クラスターノードの設定]シート「11.管理用ネットワークのチーミング設定(全クラスターノードで共通)」の「IP アドレス(クラスターノード 1 台目)」もしくは、「12.管理用ネットワークの設定(全クラスターノードで共通)」の「IP アドレス (クラスターノード 1 台目)」)	
SG 仕様書	クラスターノード 1 のサブネットマスク ([クラスターノードの設定]シート「11.管理用ネットワークのチーミング設定(全クラスターノードで共通)」の「サブネットマスク」もしくは、「12.管理用ネットワークの設定(全クラスターノードで共通)」の「サブネットマスク」)	
	Windows PC に設定する IP アドレス	

手順

1. Windows PC からクラスターノード 1 にリモートデスクトップ接続します。

Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、SG 仕様書「クラスターノード 1 の IP アドレス」を入力し、クラスターノード 1 に接続します。アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインできるかどうかを確認します。

- コンピューター：SG 仕様書「クラスターノード 1 の IP アドレス」
- ユーザー名：初期パスワード通知書「ドメイン管理者(Administrator)の ID」
- パスワード：初期パスワード通知書「ドメイン管理者(Administrator)のパスワード」



2. クラスターノード 1 へのリモートデスクトップ接続が成功し、クラスターノード 1 のデスクトップ画面が表示されることを確認します。

- 正しく接続できた場合: クラスターノード 1 のデスクトップ画面が表示される。(下記図)
- 接続できない場合: リモートデスクトップ接続できない。またはアカウント情報がエラー。



クラスターノード 1 にリモートデスクトップ接続ができない場合は、下記を再確認してください。下記を確認しても接続できない場合は、お手数をおかけしますが [1.2](#) 節の問い合わせ窓口までご連絡ください。

- 電源: クラスターノード 1 の電源がオンになり、Windows Server が起動していることを確認してください。
- ネットワーク: Windows PC より、SG 仕様書「クラスターノード 1 の IP アドレス」に ping を実施し、通信ができていることを確認してください。

### 3.13 クラスターノードの Ping 応答確認

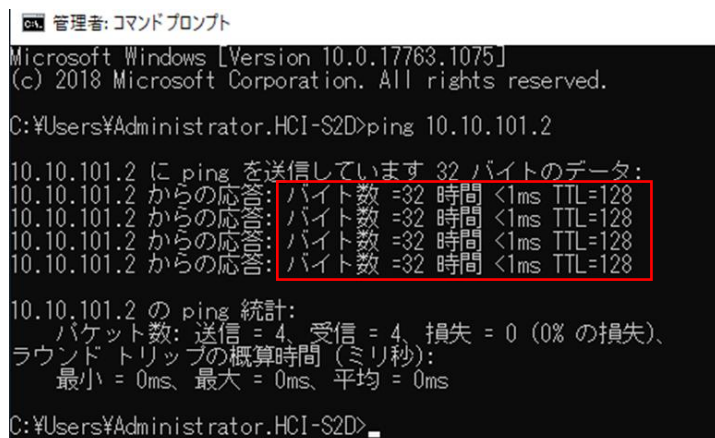
各クラスターノードの IP アドレスへ到達できることを ping により確認します。クラスターノード 1 からクラスターノード全台に対して下記手順を実施します。

1. 3.12 節でリモートデスクトップ接続したクラスターノード 1 上で、コマンドプロンプト(cmd)を起動します。
2. SG 仕様書の[クラスターノードの設定]シート「13.S2D 用ネットワークの設定」に記載されている IP アドレスを確認し、コマンドプロンプトへ「ping IP アドレス」を入力し、「ENTER」キーを押下します。  
(例:ping 10.10.101.2)

正常に通信できている場合

ping コマンドが実行されると、下記図のように画面が変化し、

「バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128」と表示され、各 IP アドレスと通信できていることを確認します。



```
管理: コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.17763.1075]
(c) 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator.HCI-S2D>ping 10.10.101.2

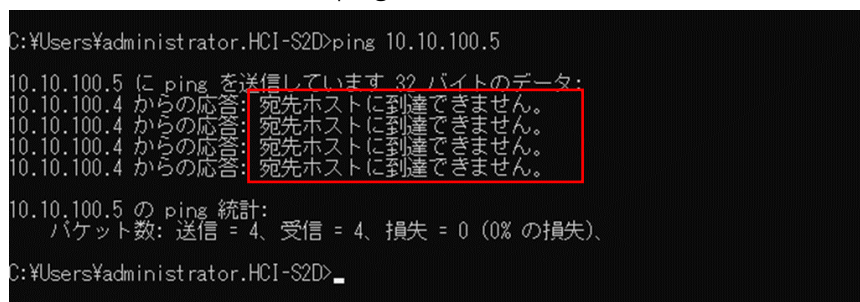
10.10.101.2 に ping を送信しています 32 バイトのデータ:
10.10.101.2 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128
10.10.101.2 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128
10.10.101.2 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128
10.10.101.2 からの応答: バイト数 =32 時間 <1ms TTL=128

10.10.101.2 の ping 統計:
    パケット数: 送信 = 4, 受信 = 4, 損失 = 0 (0% の損失),
    ラウンドトリップの概算時間 (ミリ秒):
        最小 = 0ms、最大 = 0ms、平均 = 0ms

C:\Users\Administrator.HCI-S2D>
```

正常に通信できていない場合

「宛先ホストに到達できません。」と表示されます。その場合は、ネットワーク接続やネットワーク機器の状態等を確認した上で、再度 ping コマンドを実行し IP アドレスに到達できることを確認してください。



```
C:\Users\Administrator.HCI-S2D>ping 10.10.100.5

10.10.100.5 に ping を送信しています 32 バイトのデータ:
10.10.100.4 からの応答: 宛先ホストに到達できません。
10.10.100.4 からの応答: 宛先ホストに到達できません。
10.10.100.4 からの応答: 宛先ホストに到達できません。
10.10.100.4 からの応答: 宛先ホストに到達できません。

10.10.100.5 の ping 統計:
    パケット数: 送信 = 4, 受信 = 4, 損失 = 0 (0% の損失),

C:\Users\Administrator.HCI-S2D>
```

3. SG 仕様書の[クラスターノードの設定]シート「13.S2D 用ネットワークの設定」に記載されている IP アドレスに対して 2. の手順を繰り返し、全てのクラスターノードへ正常に通信できていることを確認します。

以降の作業も引き続きクラスターノード 1 で実施するため、ログオフは必要ありません。

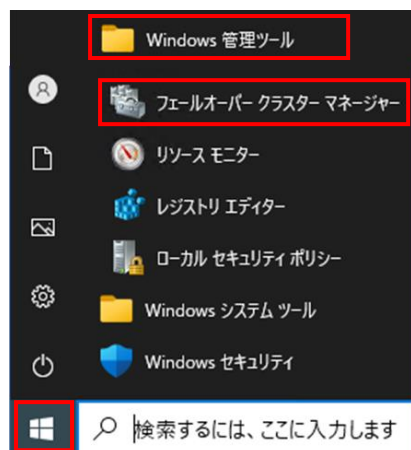


### 3.14 クラスターの検証

以下は、Windows Server 2022 の画面を例としていますが、Windows Server 2019 でも操作は同じです。

1. 3.12 節でリモートデスクトップ接続したクラスターノード 1 上で、フェールオーバークラスターマネージャーを起動します。

「スタート」「Windows 管理ツール」「フェールオーバークラスターマネージャー」をクリックします。



2. 左ペインの「フェールオーバークラスターマネージャー」直下の「クラスター名」をクリックし、右ペインの「操作」下の「クラスターの検証」をクリックします。

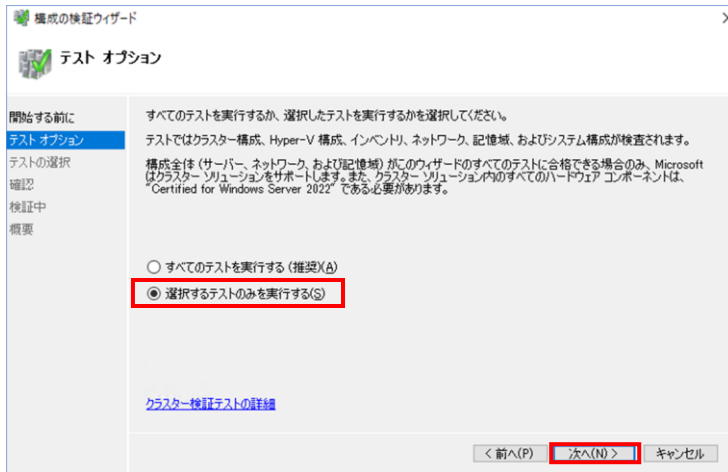


クラスター名が表示されていない場合は、右ペインで「クラスターへの接続」をクリックし、クラスター名へ<このサーバー上のクラスター>が表示されていることを確認して「OK」をクリックしてください。

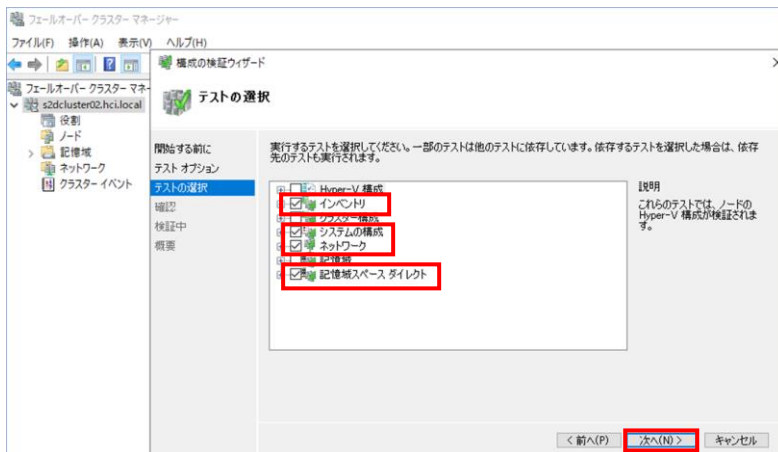
3. 「開始する前に」の画面で「次へ」ボタンをクリックします。



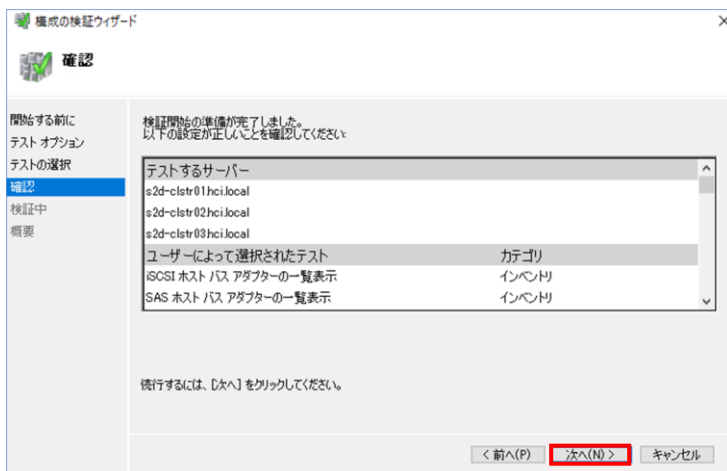
4. 「テスト オプション」の画面で「選択するテストのみを実行する」を選択し、「次へ」をクリックします。



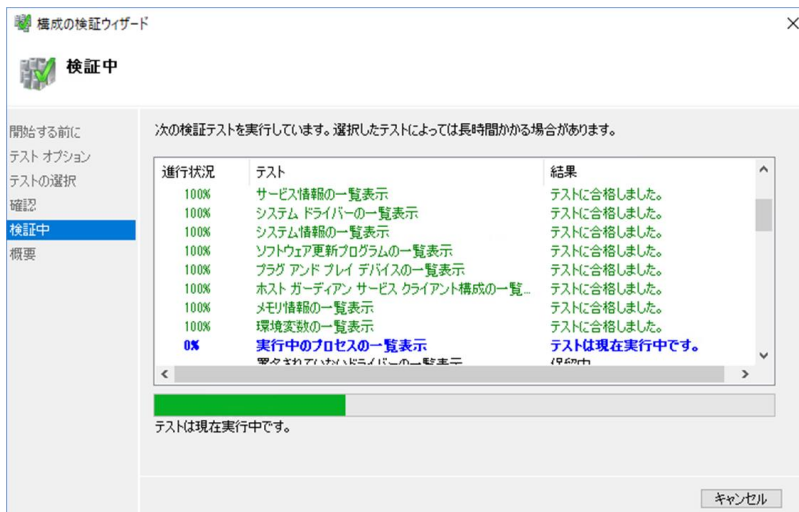
5. 「テストの選択」の画面で「インベントリ」、「システムの構成」、「ネットワーク」、「記憶域スペースダイレクト」の4つのテスト項目を選択し、「次へ」をクリックします。



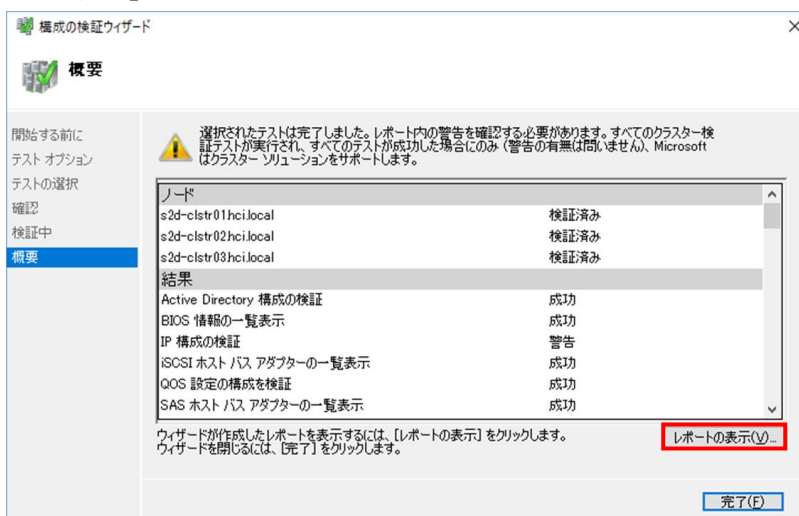
6. 「確認」の画面で「次へ」ボタンをクリックします。



7. 「検証中」の画面が表示されますので終了するまで待ちます。



8. 「概要」の画面が表示されたらクラスターの検証は終了です。「レポートの表示」ボタンをクリックします。



9. カテゴリ別の結果で「警告」や「失敗」となっていないことを確認します。

なお、以下は問題の無い警告となります。

[警告 1]

- ・カテゴリ別の結果で「システムの構成」が警告、「ソフトウェア更新プログラム レベルの検証」が警告となっている原因が、「QFE 情報を取得中にエラーが発生しました。」の場合は、インターネット接続ができず、ソフトウェア更新情報が取得できないことが要因ですので問題ありません。

[警告 2]

- ・カテゴリ別の結果で「ネットワーク」が警告、「IP 構成の検証」が警告となっている原因が「デフォルトゲートウェイが定義されたクラスターが使用できるアダプターがノードにありません。」や「DNS サフィックス検索順序リストがすべてのノードで一致しないか、いくつかのノードに対して構成されていません。」の場合は、S2D 用ネットワークが他ネットワークや複数ドメインと通信を行わない設定となっていることが要因となりますので問題ありません。

[警告 3]

- ・OS が Windows Server 2022 の場合、カテゴリ別の結果で「ネットワーク」が警告、「スイッチ対応チームing構成の検証」が警告となっている原因が、「すべてのノードに同数の SET スイッチがありますが、一貫した名前が付けられていません。」となっている場合は、Windows Server 2022 の既知の事象ですので無視して結構です。また、「関連付けられているすべてのアダプターが同じ RDMA テクノロジーの種類であることを確認できません。」が表示されている場合は、SET スイッチへ関連付けているネットワークアダプターが RDMA 対応していないことが要因ですので該当する場合は、無視して結構です。

その他で「警告」や「失敗」となっている場合は、お手数をおかけしますが 1.2 節の問い合わせ窓口までご連絡ください。

フェールオーバー クラスター検証レポート		
ノード:	s2d-clstr01.hci.local	検証済み
ノード:	s2d-clstr02.hci.local	検証済み
ノード:	s2d-clstr03.hci.local	検証済み
開始	2022/06/02 10:41:48	
完了	2022/06/02 10:47:05	
クラスターやハードウェアの構成に変更を加えたら、構成の検証ウィザードを実行する必要があります。詳細については、 <a href="https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=280145">https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=280145</a> (英語の可能性あり) を参照してください。		
<b>カテゴリ別の結果</b>		
名前	結果概要	説明
<a href="#">インベントリ</a>		成功
<a href="#">システムの構成</a>		警告
<a href="#">ネットワーク</a>		警告
<a href="#">記憶域スペースダイレクト</a>		成功

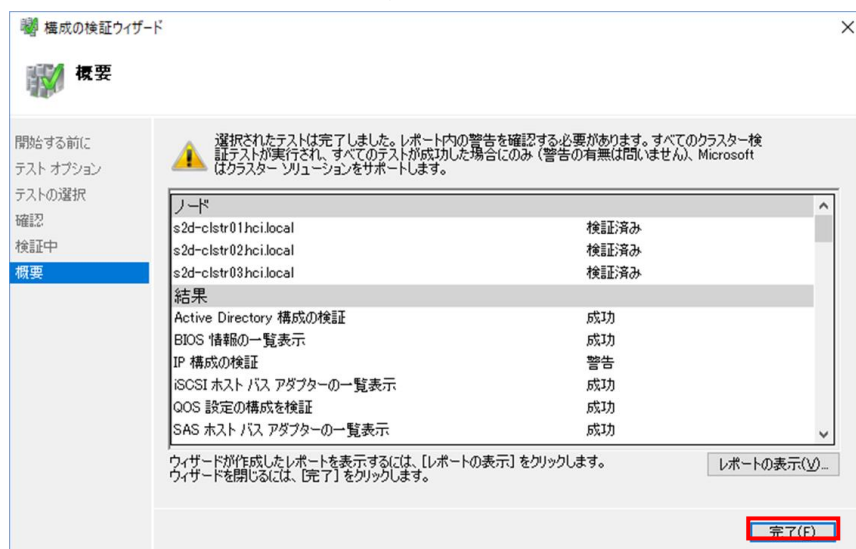
10. 画面右のスクロールバーで下へスクロールし、「全体の結果」の項目を確認します。「テストは正常に完了しました。構成はクラスタリングに適しています。」の表示がされていれば問題ありません。また、手順9で記載されている警告の場合も問題ありません。

それ以外の表示の場合は、お手数をおかけしますが [1.2](#) 節の問い合わせ窓口までご連絡ください。

#### 全体の結果

選択されたテストは完了しました。レポート内の警告を確認する必要があります。すべてのクラスター検証テストが実行され、すべてのテストが成功した場合にのみ（警告の有無は問いません）、Microsoft はクラスター ソリューションをサポートします。

11. 「フェールオーバークラスター検証レポート」の画面は右上の「×」をクリックして閉じ、「完了」ボタンをクリックして終了します。



## 3.15 WindowsPC から Windows Admin Center への接続確認

### 3.15.1 Windows Admin Center ログイン

- WindowsPC から Web ブラウザ(Microsoft Edge)を起動し、Windows Admin Center へログインします。

1. WindowsPC の Web ブラウザ(Microsoft Edge)を起動します。

2. Web ブラウザのアドレス欄へ以下の URL を入力します。

- ・ <https://サーバ管理用仮想マシンのホスト名または IP アドレス>

サーバ管理用仮想マシンのホスト名または IP アドレス：SG 仕様書の[管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築]シート「4.コンピュータ名とネットワーク設定」の「コンピュータ名」または「IP アドレス」

3. 以下の画面が表示されたら「詳細」をクリックします。

証明書エラーを回避するには自己署名 SSL 証明書のエクスポートとインポートで対応が可能です。

詳しくは Windows Admin Center インストール手順書をご覧ください。

<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140106727>>

尚、自己署名 SSL 証明書の有効期限は 60 日間です。

(期限を過ぎた場合は IP アドレスで継続利用が可能ですが、警告メッセージが表示されます。)

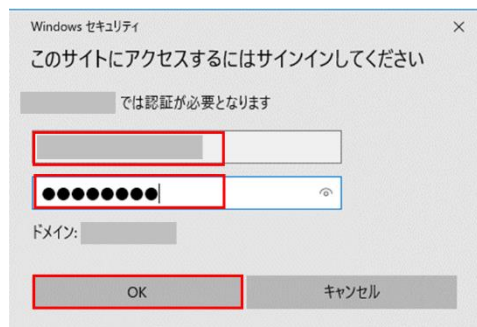
正規の証明書が準備されている場合はそちらをご利用ください。



4. 「Web ページへ移動(非推奨)」をクリックします。



5. 認証画面が表示されますので管理者の ID とパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。
- 管理者の ID：初期パスワード通知書「AD ドメインのドメイン管理者(Administrator)の ID」
- パスワード：初期パスワード通知書「AD ドメインのドメイン管理者(Administrator) のパスワード」



6. 正しく Windows Admin Center へ接続されると「すべての接続」画面が表示されることを確認します。



Windows Admin Center へ接続ができない場合は、下記を再確認してください。下記を確認しても接続できない場合は、お手数をおかけしますが 1.2 節の問い合わせ窓口までご連絡ください。

- ブラウザ：利用しているブラウザが Microsoft Edge であることを確認してください。
- アドレス：3.15.1 節の 2 以降を参照してアドレス等に誤りが無いか再度確認してください。

### 3.16 WindowsPC から Windows Admin Center での状態確認

WindowsPC から Web ブラウザ(Microsoft Edge)を起動し、Windows Admin Center へログインして状態を確認します。ログイン手順は 3.15.1 節の 1.～5.を参照ください。

既に Windows Admin Center へログイン済みの場合は、次へ進んでください。

1. 正しく Windows Admin Center へ接続されると「すべての接続」画面が表示されます。

種類が「Windows Server クラスター」となっている行の名前のリンク（クラスター名）をクリックします。

※クラスター名は、SG 仕様書の[クラスターノードの設定]シートの「6.クラスター管理用アクセスポイント情報」の「クラスター名」になります。



2. 「資格情報を指定してください」の画面が表示されますので「この接続では別のアカウントを使用する」の左へチェックを入れ、ユーザー名とパスワードを入力し、「これらの資格情報をすべての接続で使用します。」の左へチェックを入れ、「続行」をクリックします。

ユーザー名とパスワードは 3.15.1 の 5.で入力したものと同一ものを入力します。



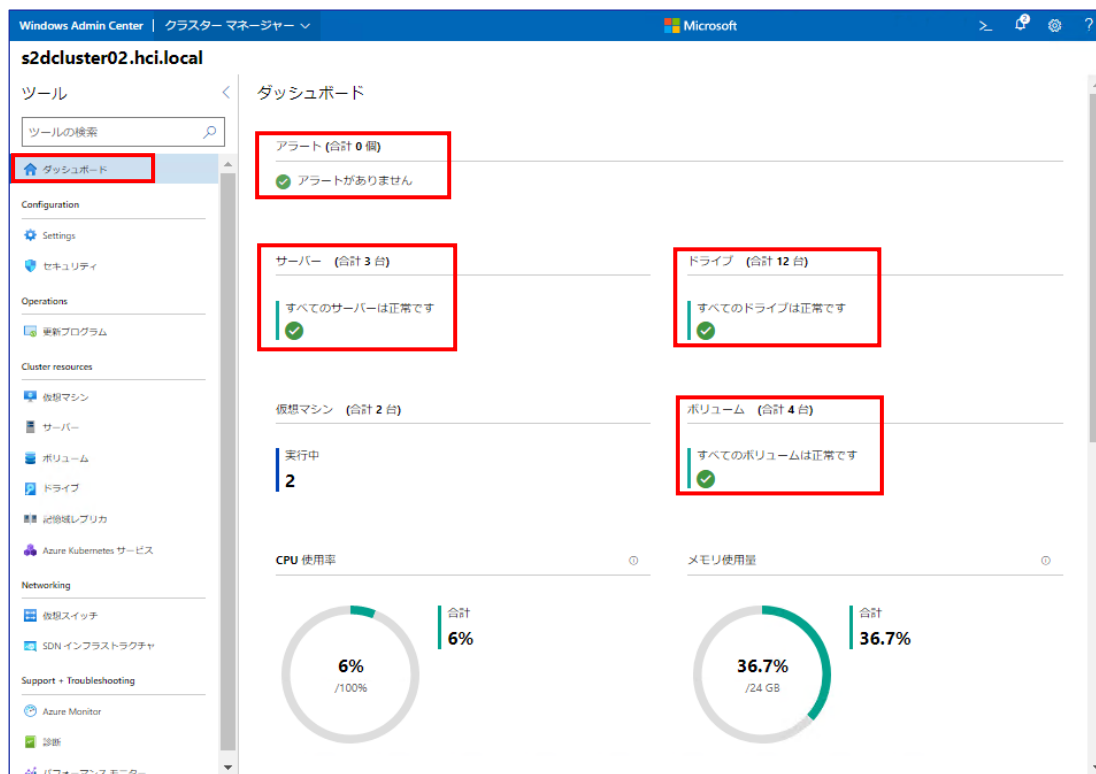
3. ダッシュボード画面が表示されます。アラート表示が無いことと各リソースが正常であることを確認します。

確認しましたら画面右上の「×」をクリックして終了します。

アラートが表示されている場合はお手数をおかけしますが 1.2 節の問い合わせ窓口までご連絡ください。

《注意》

クラスターノードを起動して間もない場合はアラートが表示されます。起動後、10 分程度経過しても表示されている場合は 1.2 節の問い合わせ窓口までご連絡ください。



## 3.17 クラスター環境の動作確認

### 3.17.1 S2D ボリュームの作成

#### 1. Windows Admin Center ログイン

3.15.1 の 1.~5.を実行して Windows Admin Center の「すべての接続」画面を表示します。

種類が「Windows Server クラスター」となっている行の名前のリンク（クラスター名）をクリックします。

※クラスター名は、SG 仕様書の[クラスターノードの設定]シートの「6.クラスター管理用アクセスポイント情報」の「クラスター名」になります。



#### 2. Windows Server クラスター接続

「資格情報を指定してください」の画面が表示されますので「この接続では別のアカウントを使用する」の左へチェックを入れ、ユーザー名とパスワードを入力し、「これらの資格情報をすべての接続で使用します。」の左へチェックを入れ、「続行」をクリックします。

ユーザー名とパスワードは 3.15.1 の 5.で入力したものと同一ものを入力します。

資格情報を指定してください

s2dcluster02.hci.local への接続に使用する管理者アカウントを指定してください。

☐ この接続で マイ Windows アカウント を使用する

☒ この接続では別のアカウントを使用する

ユーザー名 \*

hci.local\administrator

パスワード \*

\*\*\*\*\*

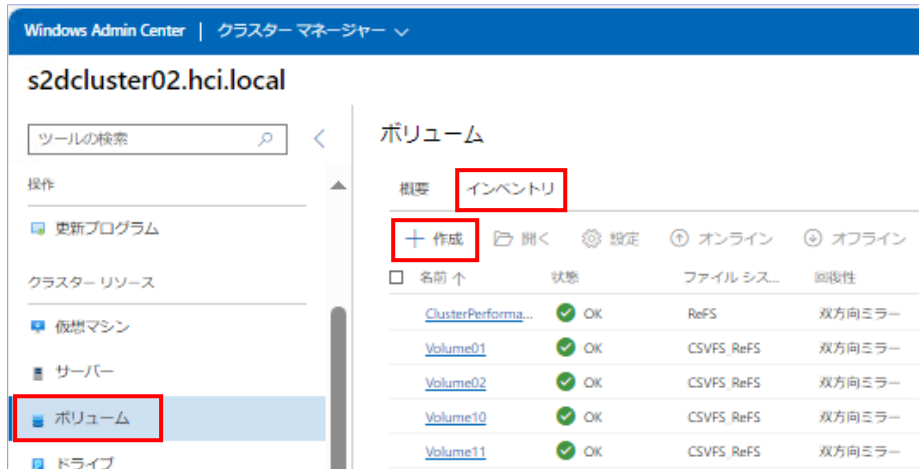
☒ これらの資格情報をすべての接続で使用します。

⚠ Windows アカウントを使用してシングル サインインするには、Kerberos の制約付き委任のセットアップが必要になる場合があります。

**続行** キャンセル

3. 「クラスターマネージャー」の画面が表示されます。

左ペインのツールから「ボリューム」をクリックし、右ペインのボリューム情報の画面から「インベントリ」「作成」をクリックします。



4. 「ボリュームの作成」画面が表示されますので「名前」「回復性」「HDD 上のサイズ」を入力し、「作成」をクリックします。

(例) 名前: Volume001、回復性: 双方向ミラー、HDD 上のサイズ: 300GB

ボリュームの作成

名前\*

Volume001

回復性

双方向ミラー

HDD 上のサイズ\*

300

サイズの単位

GB

HDD の最大ボリューム サイズ ①

6.24 TB

ファイル システム

CSVFS\_ReFS

その他のオプション

整合性チェックサム、暗号化

作成

キャンセル

5. 「ボリューム」情報画面の「インベントリ」の画面で S2D ボリュームが作成されたことを確認します。

ボリューム

概要 インベントリ

+ 作成 開く 設定 オンライン オフライン ... 8個の項目 検索

名前	状態	ファイル シス...	複製性	サイズ	サーバー	記憶域プール	記憶域の使用量	IOPS
<a href="#">ClusterPerforma...</a>	OK	ReFS	双方向ミラー	20 GB	s2d-clstr02	S2D on S2DClus...	6%	-
<a href="#">Volume001</a>	OK	CSVFS, ReFS	双方向ミラー	300 GB	s2d-clstr02	S2D on S2DClus...	1%	-
<a href="#">Volume01</a>	OK	CSVFS, ReFS	双方向ミラー	1 TB	s2d-clstr01	S2D on S2DClus...	10%	95
<a href="#">Volume02</a>	OK	CSVFS, ReFS	双方向ミラー	500 GB	s2d-clstr01	S2D on S2DClus...	12%	39
<a href="#">Volume10</a>	OK	CSVFS, ReFS	双方向ミラー	200 GB	s2d-clstr02	S2D on S2DClus...	11%	0
<a href="#">Volume11</a>	OK	CSVFS, ReFS	双方向ミラー	150 GB	s2d-clstr01	S2D on S2DClus...	10%	8

### 3.17.2 クラスターノードの仮想マシン確認

※本項目は、AD を冗長化している場合に実施してください。

AD を冗長化している場合、S2D クラスター上には、すでにクラスター管理 AD 用仮想マシン 2 とそれが設置されたボリュームが作成されています。

クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 はシステム全体の正常性を確保するために必要なコンポーネントです。クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 およびそれが設置されたボリュームは誤って削除しないように注意してください。

1. 左ペインのツールから「仮想マシン」をクリックします。
2. 右ペインで仮想マシン（クラスター管理 AD 用仮想マシン 2）の状態が実行中であることを確認します。  
仮想マシン名は以下を確認します。
  - ・クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 の名前：SG 仕様書の[S2D 上のクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シートの「1.仮想マシンの設定」の「仮想マシン名」



### 3.17.3 仮想マシンの作成

1. 左ペインのツールから「仮想マシン」をクリックし、右ペインから「追加」―「新規」をクリックします。



2. 「新しい仮想マシン」の画面が右側に表示されます。

作成する仮想マシンの「名前」を入力し、世代(第2世代を選択してください)を選択します。

ホストで仮想マシンのオーナーとなるクラスターノード(推奨のものを選択してください)を選択します。パスで下向き矢印をクリックして 3.17.1 の 4.で作成した S2D ボリュームの名前を選択します。

仮想プロセッサでプロセッサ数を指定します。

3. 画面右のスクロールバーでウィンドウを下へスクロールし、続きを入力します。

仮想メモリサイズを指定します。「記憶域」で「追加」をクリックします。

4. 「空の仮想ハードディスクを作成する」を選択し、サイズを入力します。  
設定内容を確認し、「作成」をクリックします。

新しい仮想マシン

記憶域

新しいディスク 1

☒ 空の仮想ハードディスクを作成する

サイズ (GB)

100

☐ 既存の仮想ハードディスクを使用する

パス\*

参照

+ 追加

オペレーティング システム

☒ 後でオペレーティング システムをインストールする

☐ 画像ファイル (.iso) からオペレーティング システムをインストールする

パス\*

参照

作成 キャンセル

5. 「仮想マシン」情報画面の「インベントリ」の画面上で仮想マシンが作成されたことを確認します。

Windows Admin Center | クラスタ マネージャー

Microsoft

s2dcluster02.hci.local

ツール

仮想マシン

インベントリ 概要

2 個の項目

名前	状態	仮想プロ...	CPU の使...	割り当て...	メモリ使...	メモリ...	DVD の数	NIC の数	ハートビ...	稼働時間	タグ
s2d-clstr03 (1)											
AD2	実行中	2	1%	2 GB	0%	0 B	0	1	接続なし	0:00:36:55	
s2d-clstr02 (1)											
VM1	停止	1	-	-	-	-	0	0	通信の切断	-	

### 3.17.4 仮想マシンの起動

- 1 左ペインのツールから「仮想マシン」をクリックし、右ペインで起動する仮想マシンの左ヘチェックを入れて選択し、「電源」-「開始」をクリックします。

Windows Admin Center | クラスタ マネージャー

Microsoft

s2dcluster02.hci.local

ツール

仮想マシン

インベントリ 概要

2 個の項目

名前	状態	仮想プロ...	CPU の使...	割り当て...	メモリ使...	メモリ...	DVD の...	NIC の...	ハート...	稼働時間	タグ
s2d-clstr03 (1)											
AD2	実行中	2	1%	2 GB	0%	0 B	0	1	接続なし	0:02:06:55	
s2d-clstr02 (1)											
VM1	停止	1	-	-	-	-	0	1	通信の...	-	

電源

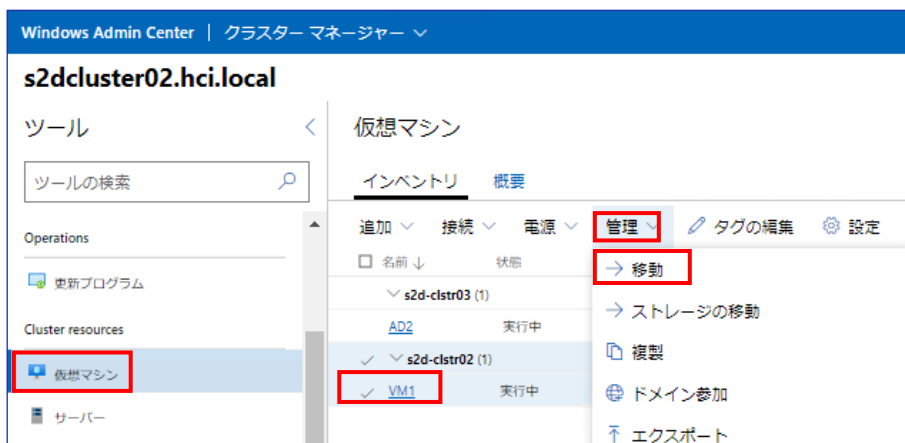
- 開始
- 保存
- シャットダウン
- オフにする
- リセット
- 一時停止
- 再開

- 2 「仮想マシン」情報画面の「インベントリ」の画面上で状態が「実行中」となったことを確認します。

仮想マシン										
インベントリ 概要										
追加 ▼ 接続 ▼ 電源 ▼ ... 2 個の項目 検索										
<input type="checkbox"/> 名前...	状態	仮想ブ...	CPU の...	割り当...	メモリ...	メモリ...	DVD の...	NIC の数	ハート...	稼働時...
▼ s2d-clstr01 (1)										
VM1	実行中	1	1 %	2 GB	0 %	0 B	0	1	接続なし	0:16:39:46
▼ s2d-clstr03 (1)										
AD2	実行中	2	1 %	2 GB	0 %	0 B	0	1	接続なし	0:16:39:41

### 3.17.5 仮想マシンの移動

- 1 左ペインのツールから「仮想マシン」をクリックし、右ペインで移動する仮想マシンの左ヘチェックを入れて選択し、「管理」→「移動」をクリックします。



- 2 移行先のクラスター及びメンバーサーバーを選択して、「移動」をクリックします。  
クラスターは一つのみですのでそのままとしてください。メンバーサーバーは選択した仮想マシンが稼働していないクラスターノード（ホストサーバ）を選択してください。

仮想マシンを移動する

VM またはそのストレージを別のクラスターまたはサーバーに移動します。実行中の VM は、移動中は正常に動作します。

移行先

宛先タイプ

☒ フェールオーバー クラスター ☐ サーバー

クラスター

s2dcluster02.hci.local

メンバー サーバー

s2d-clstr01.hci.local (推奨)

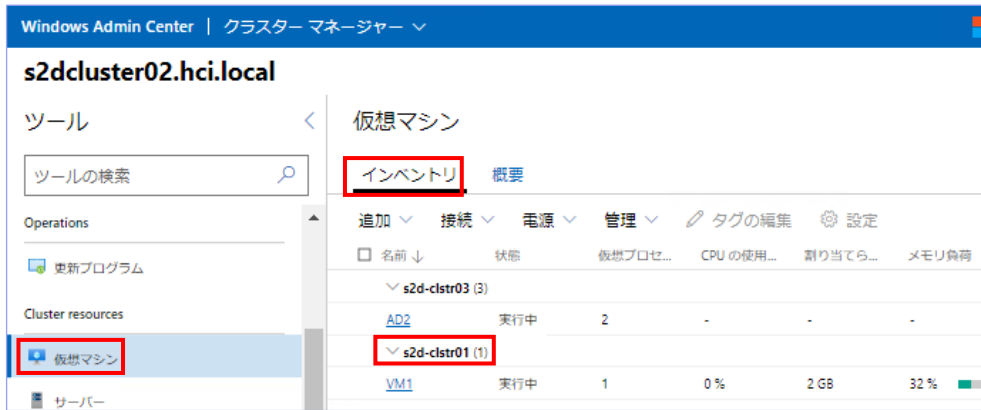
宛先は現在のサーバーと同じクラスター内にあるため、VM のストレージは現在の場所に残します。

移動

キャンセル



- 3 「仮想マシン」情報画面の「インベントリ」の画面上でホストノードが移動したことを確認します。



※仮想マシンが正常に移動されれば、クラスター環境の動作確認は終了です。

## 3.18 動作確認設定の削除

### 3.18.1 仮想マシンの停止

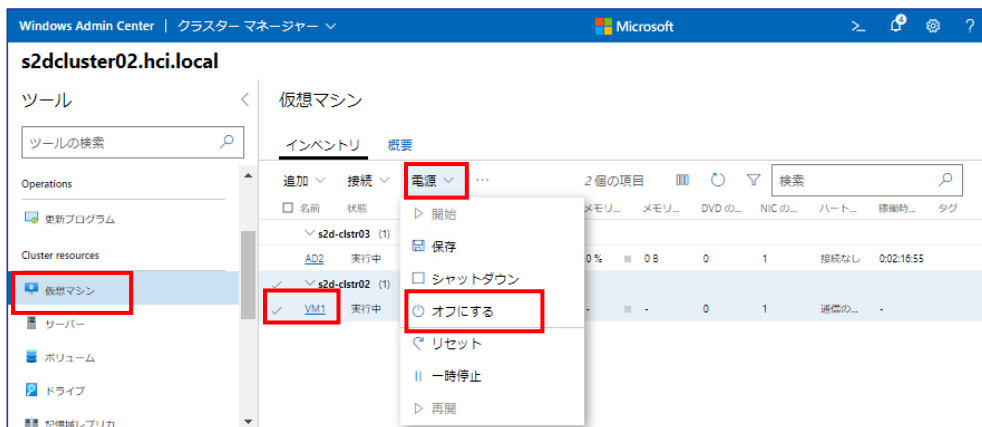
クラスター環境の確認で使用した仮想マシンを停止します。

- 1 左ペインのツールから「仮想マシン」をクリックし、右ペインから停止する仮想マシンの左へチェックを入れて選択し、「電源」―「オフにする」をクリックします。

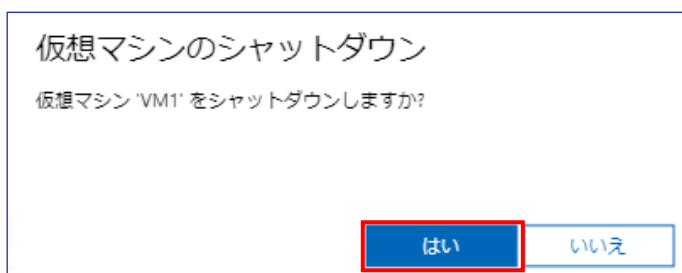
《注意》

AD を冗長化している場合は、3.17.2 節で確認した仮想マシンと 3.17.3 節の 5. で作成した仮想マシンが表示されていますので、3.17.3 節の 5. で作成した仮想マシンを選択してください。

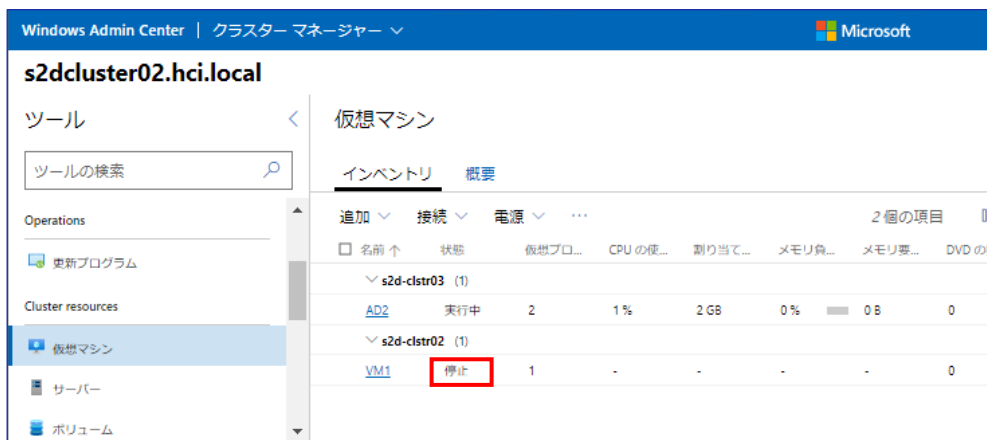
3.17.2 節で確認した仮想マシンは停止しないでください。



- 2 確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



- 3 「仮想マシン」情報画面の「インベントリ」の画面上で仮想マシンが停止したことを確認します。



### 3.18.2 仮想マシンの削除

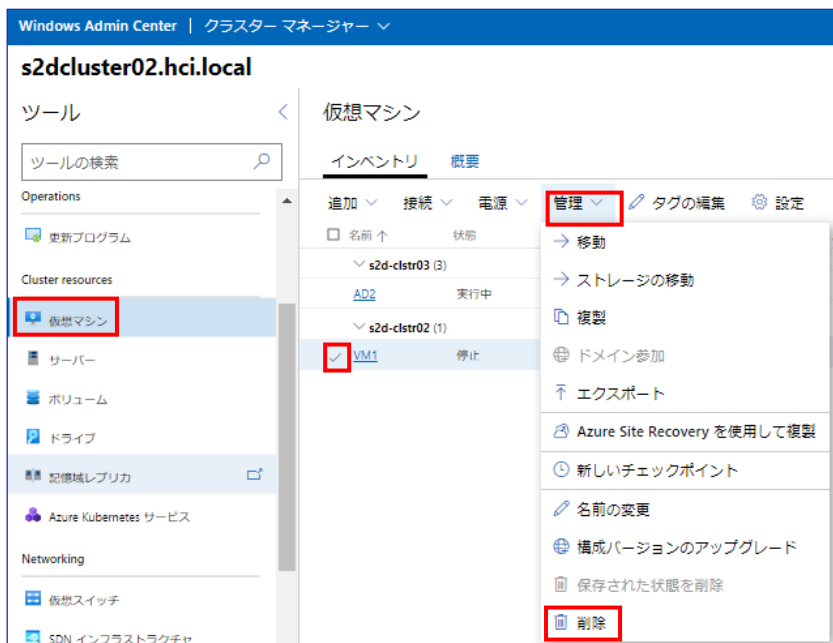
クラスター環境の確認で使用した仮想マシンを削除します。

- 1 左ペインのツールから「仮想マシン」をクリックし、右ペインから削除する仮想マシンの左へチェックを入れて選択し、「管理」→「削除」をクリックします。

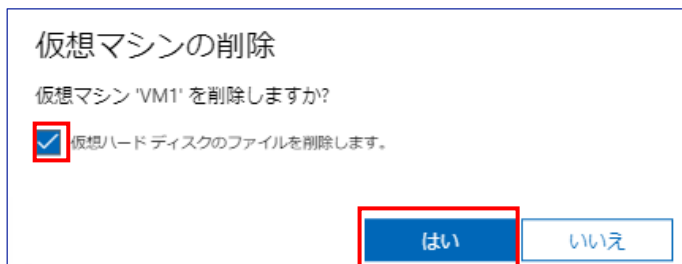
《注意》

AD を冗長化している場合は、[3.17.2](#) 節で確認した仮想マシンと [3.17.3](#) 節の [5](#) で作成した仮想マシンが表示されていますので、[3.17.3](#) 節の [5](#) で作成した仮想マシンを選択してください。

[3.17.2](#) 節で確認した仮想マシンは削除しないでください。



- 2 確認のメッセージが表示されますので「仮想ハードディスクのファイルを削除します。」の左へチェックを入れ、「はい」をクリックします。



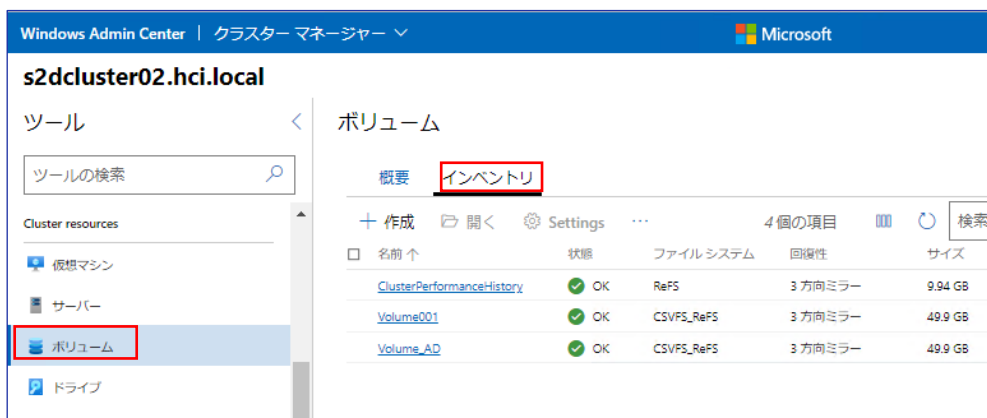
- 3 「仮想マシン」情報画面の「インベントリ」の画面上で作成した仮想マシンが削除されたことを確認します。



### 3.18.3 S2D ボリュームの削除

クラスター環境の確認で使用する S2D ボリュームを削除します。

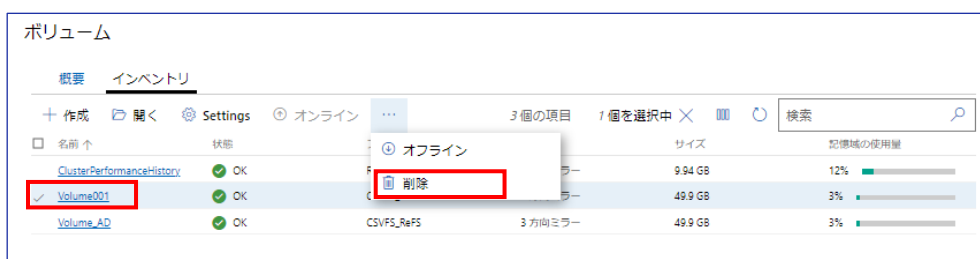
- 1 左ペインのツールから「ボリューム」をクリックし、右ペインのボリュームの情報画面から「インベントリ」をクリックします。



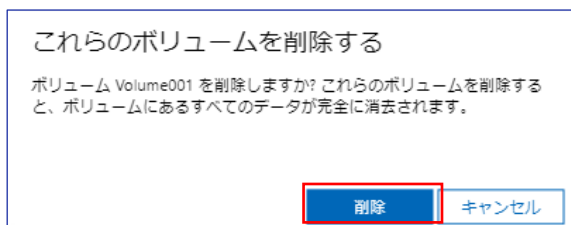
- 2 削除するボリュームの左ヘチェックを入れて選択し、「…(詳細)」をクリックして「削除」をクリックします。

《注意》

3.17.1 節の 5. で作成したボリュームのみを選択してください。



- 3 確認のメッセージが表示されますので表示内容を確認し、「削除」をクリックします。



- 4 「ボリューム」情報画面の「インベントリ」の画面上で S2D ボリュームが削除されたことを確認します。



### 3.19 クラスター管理 AD 用仮想マシンのバックアップ設定の確認

#### 3.19.1 バックアップ保存先の確認

※本項目は、HCS 構築サービスでクラスター管理 AD 用仮想マシンをバックアップしている場合に実施してください。

Windows PC を管理用ネットワークに接続し、管理ノードに接続します。

手順実施に必要なパラメータ

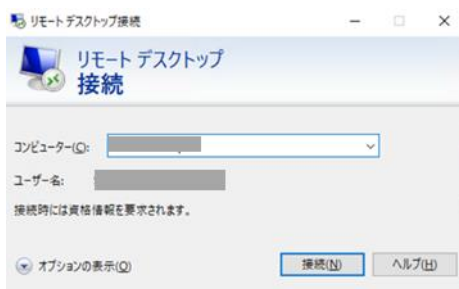
ドキュメント	項目	パラメータ/値 (メモ用)
初期パスワード通知書	Administrator ユーザのパスワード	
SG 仕様書	管理ノードの IP アドレス ([管理ノードの設定]シート「10.管理 用ネットワークのチーミング設定」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホ スト OS)」の「IP アドレス」もしく は、「11.管理用ネットワークの設定」 -「仮想ネットワークアダプター名(ホ スト OS)」の「IP アドレス」)	
SG 仕様書	管理ノードのサブネットマスク ([管理ノードの設定]シート「10.管理 用ネットワークのチーミング設定」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホ スト OS)」の「サブネットマスク」も しくは、「11.管理用ネットワークの設 定」 - 「仮想ネットワークアダプター 名(ホスト OS)」の「サブネットマス ク」)	
SG 仕様書	クラスター管理 AD 用仮想マシンの バックアップ保存先 ([管理ノードの設定]シート「15.クラ スター管理 AD 用仮想マシンのバッ クアップフォルダー設定」)	
	Windows PC に設定する IP アドレス	

## 手順

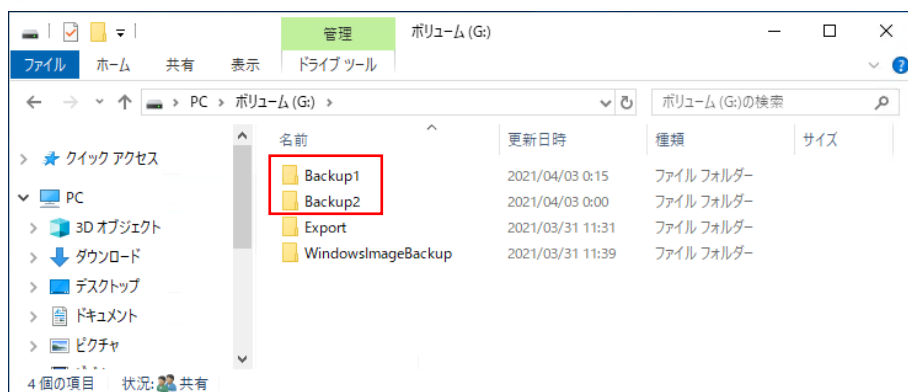
### 1 Windows PC から管理ノードにリモートデスクトップ接続します。

Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、SG 仕様書「管理ノード用の IP アドレス」を入力し、管理ノードに接続します。アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインできるかどうかを確認します。

- コンピューター：SG 仕様書「管理ノードの IP アドレス」
- ユーザー名：初期パスワード通知書「管理ノードのローカル管理者(Administrator)の ID」
- パスワード：初期パスワード通知書「管理ノードのローカル管理者(Administrator)のパスワード」

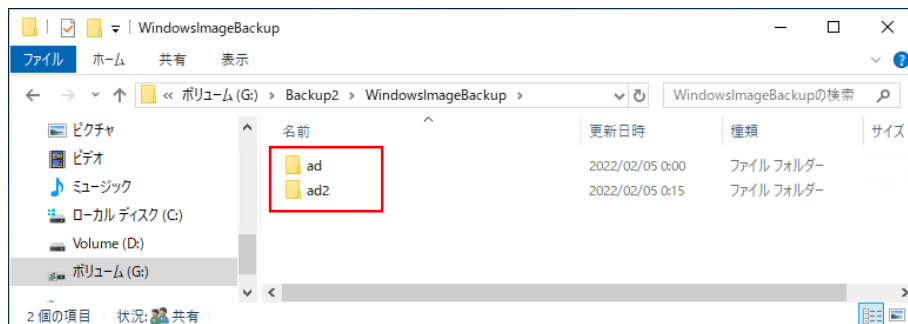


### 2 管理ノードへのリモートデスクトップ接続が成功したら、エクスプローラーを開き、「クラスター管理 AD 用仮想マシンのバックアップ保存先」に 2 世代分のフォルダーが設置されていることを確認してください。

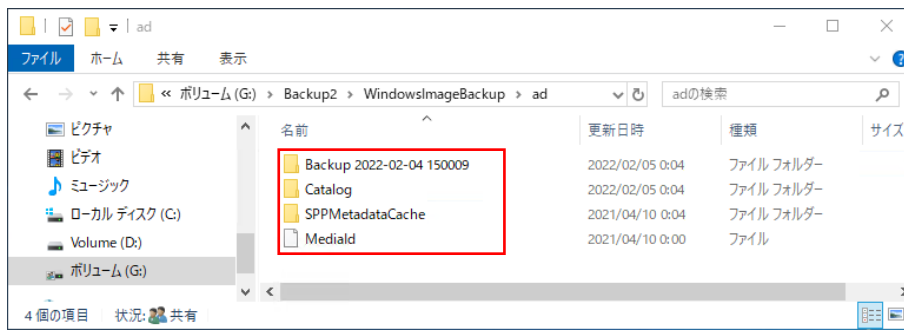


### 3 2 世代目のフォルダー内に「WindowsImageBackup」フォルダーが作成され、クラスター管理 AD 用仮想マシンのフォルダーが作成されていることを確認してください。

AD を冗長化している場合は、クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 のフォルダーとクラスター管理 AD 用仮想マシン 2 のフォルダーがあります。



- 4 フォルダー内に、「Backup yyyy-mm-dd xxxxxx」「Catalog」「SPPMetadataCache」フォルダーと「Mediald」ファイルが作成されていることを確認してください。



### 3.19.2 管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンのタスクの確認

※本項目は、HCS 構築サービスでクラスター管理 AD 用仮想マシンをバックアップしている場合に実施してください。

Windows PC を管理用ネットワークに接続し、クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 に接続します。

手順実施に必要なパラメータ

ドキュメント	項目	パラメータ/値 (メモ用)
初期パスワード通知書	ドメイン管理者(Administrator)の ID とパスワード	
SG 仕様書	クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 の IP アドレス ([管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シート「4.コンピュータ名とネットワーク設定」の「IP アドレス」)	
SG 仕様書	クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 のサブネットマスク ([管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シート「4.コンピュータ名とネットワーク設定」の「サブネットマスク」)	
SG 仕様書	クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 のバックアップ保存先([管理ノードの設定]シート「15.クラスター管理 AD 用仮想マシンのバックアップフォルダー設定」)	
SG 仕様書	クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 のバックアップタスク([管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シート「10.バックアップタスクの設定」)	
	Windows PC に設定する IP アドレス	

#### 手順

- 1 Windows PC からクラスター管理 AD 用仮想マシン 1 にリモートデスクトップ接続します。

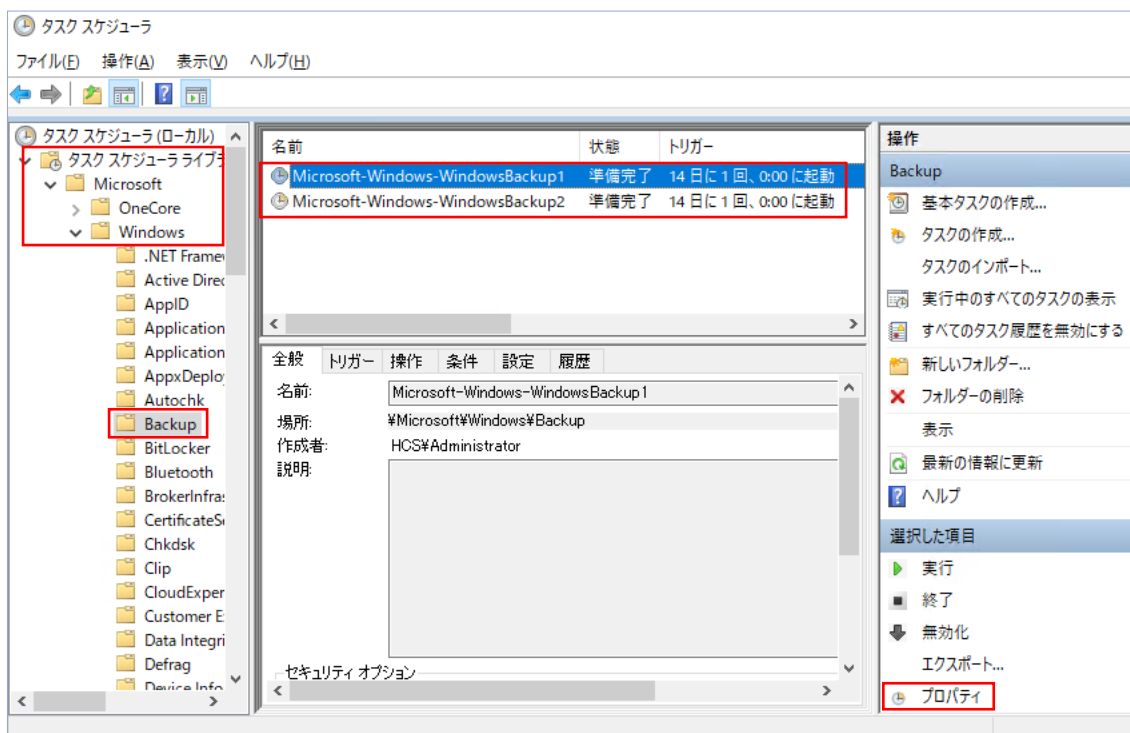
Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、SG 仕様書「クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 の IP アドレス」を入力し、クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 に接続します。アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインできるかどうかを確認します。

- コンピューター：SG 仕様書「クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 の IP アドレス」
- ユーザー名：初期パスワード通知書「ドメイン管理者(Administrator)の ID」
- パスワード：初期パスワード通知書「ドメイン管理者(Administrator)のパスワード」





- 2 クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 にリモートデスクトップ接続が成功したら、「スタート」「Windows 管理ツール」から「タスクスケジューラ」を起動させ、右ペインの[タスクスケジューラ ライブラリ] - [Microsoft] - [Windows] - [Backup]内のタスクを選択し、「プロパティ」をクリックして SG 仕様書「クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 のバックアップ保存先」「クラスター管理 AD 用仮想マシン 1 のバックアップタスク」と相違がないか確認してください。



### 3.19.3 S2D 上のクラスター管理 AD 用仮想マシンのタスクの確認

※本項目は、AD を冗長化している場合に実施してください。

Windows PC を管理用ネットワークに接続し、クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 に接続します。

手順実施に必要なパラメータ

ドキュメント	項目	パラメータ/値 (メモ用)
初期パスワード通知書	ドメイン管理者(Administrator)の ID とパスワード	
SG 仕様書	クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 の IP アドレス ([S2D 上のクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シート「4.コンピュータ名とネットワーク設定」の「IP アドレス」)	
SG 仕様書	クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 のサブネットマスク ([S2D 上のクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シート「4.コンピュータ名とネットワーク設定」の「サブネットマスク」)	
SG 仕様書	クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 のバックアップ保存先([管理ノードの設定]シート「15.クラスター管理 AD 用仮想マシンのバックアップフォルダー設定」)	
SG 仕様書	クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 のバックアップタスク([S2D 上のクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シート「8.バックアップタスクの設定」)	
	Windows PC に設定する IP アドレス	

手順

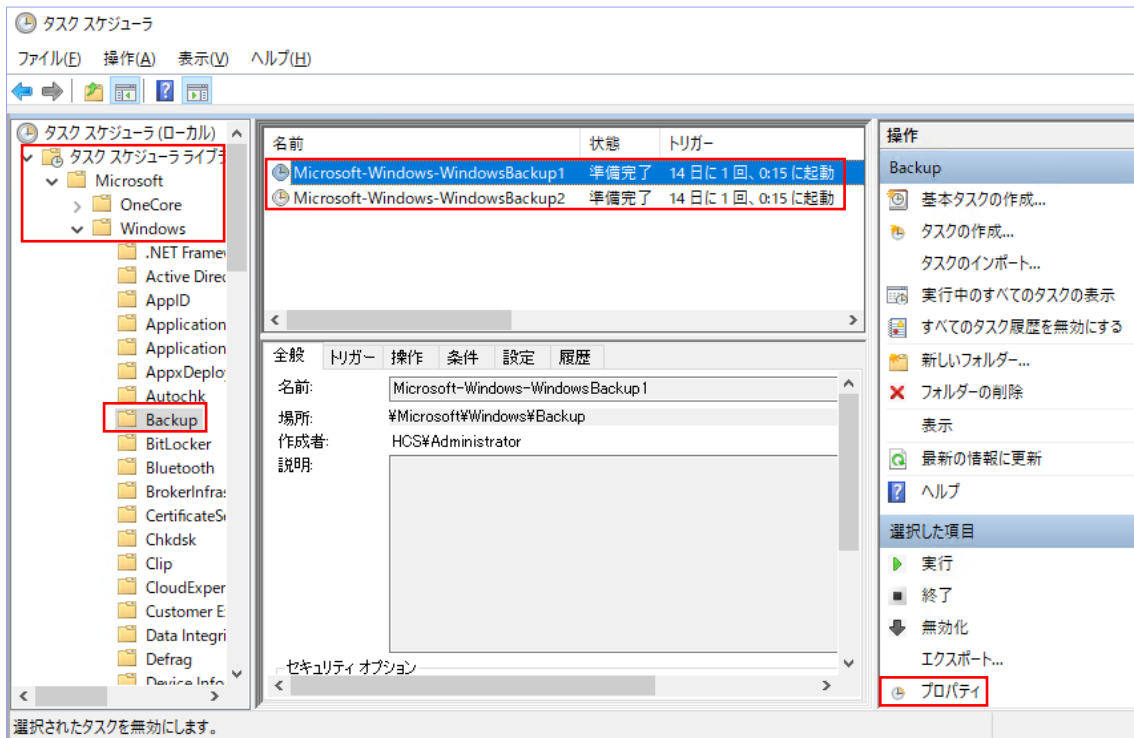
1 Windows PC からクラスター管理 AD 用仮想マシン 2 にリモートデスクトップ接続します。

Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、SG 仕様書「クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 の IP アドレス」を入力し、クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 に接続します。アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインできるかどうかを確認します。

- コンピューター：SG 仕様書「クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 の IP アドレス」
- ユーザー名：初期パスワード通知書「ドメイン管理者(Administrator)の ID」
- パスワード：初期パスワード通知書「ドメイン管理者(Administrator)のパスワード」



- 2 クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 にリモートデスクトップ接続が成功したら、「スタート」「Windows 管理ツール」から「タスクスケジューラ」を起動させ、右ペインの[タスクスケジューラ ライブラリ] - [Microsoft] - [Windows] - [Backup]内のタスクを選択し、「プロパティ」をクリックして SG 仕様書「クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 のバックアップ保存先」「クラスター管理 AD 用仮想マシン 2 のバックアップタスク」と相違がないか確認してください。



## 3.20 システムバックアップの確認

### 3.20.1 バックアップの確認

※本項目は、HCS 構築サービスでシステムバックアップを取得している場合に実施してください。

Windows PC を管理用ネットワークに接続し、管理ノードに接続します。

手順実施に必要なパラメータ

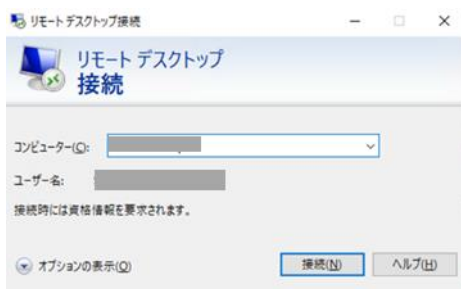
ドキュメント	項目	パラメータ/値 (メモ用)
初期パスワード通知書	Administrator ユーザのパスワード	
SG 仕様書	管理ノードの IP アドレス ([管理ノードの設定]シート「10.管理 用ネットワークのチーミング設定」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホ スト OS)」の「IP アドレス」もしく は、「11.管理用ネットワークの設定」 -「仮想ネットワークアダプター名(ホ スト OS)」の「IP アドレス」)	
SG 仕様書	管理ノードのサブネットマスク ([管理ノードの設定]シート「10.管理 用ネットワークのチーミング設定」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホ スト OS)」の「サブネットマスク」も しくは、「11.管理用ネットワークの設 定」 -「仮想ネットワークアダプター 名(ホスト OS)」の「サブネットマス ク」)	
SG 仕様書	システムバックアップ保存先 ([管理ノードの設定]シート「16. シ ステムバックアップ用フォルダーの 設定」)	
	Windows PC に設定する IP アドレス	

## 手順

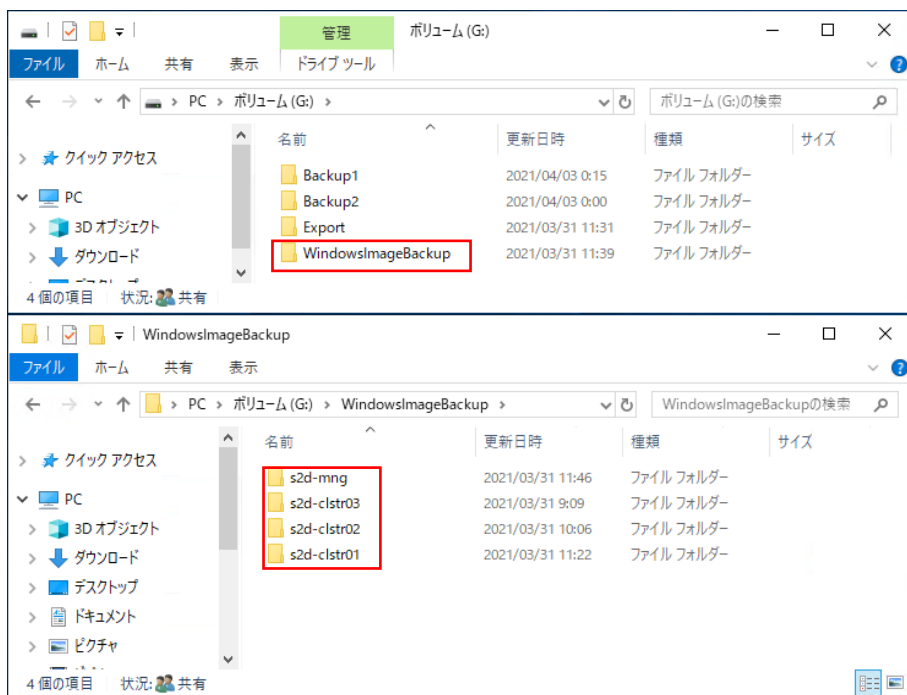
### 1 Windows PC から管理ノードにリモートデスクトップ接続します。

Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、SG 仕様書「管理ノード用の IP アドレス」を入力し、管理ノードに接続します。アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインできるかどうかを確認します。

- コンピューター：SG 仕様書「管理ノードの IP アドレス」
- ユーザー名：初期パスワード通知書「管理ノードのローカル管理者(Administrator)の ID」
- パスワード：初期パスワード通知書「管理ノードのローカル管理者(Administrator)のパスワード」

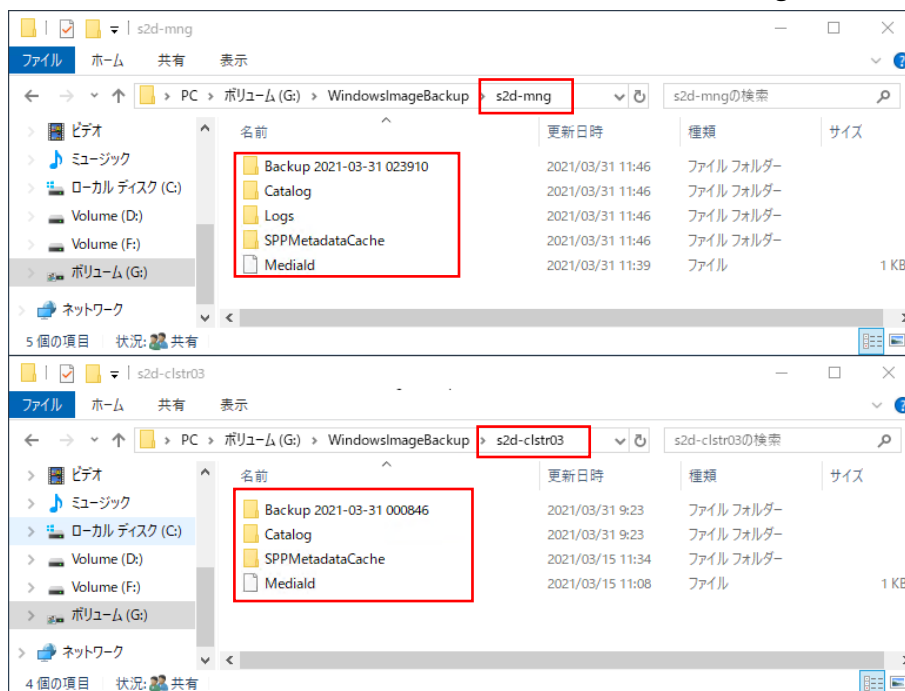


### 2 管理ノードへのリモートデスクトップ接続が成功したら、エクスプローラを開き、「システムバックアップ保存先」の「管理ノード用のフォルダー名」と「クラスターノード用のフォルダー名」に「WindowsImageBackup」フォルダーが作成されており、その中に管理ノードとクラスターノードのホスト名のフォルダーが作成されていることを確認してください。

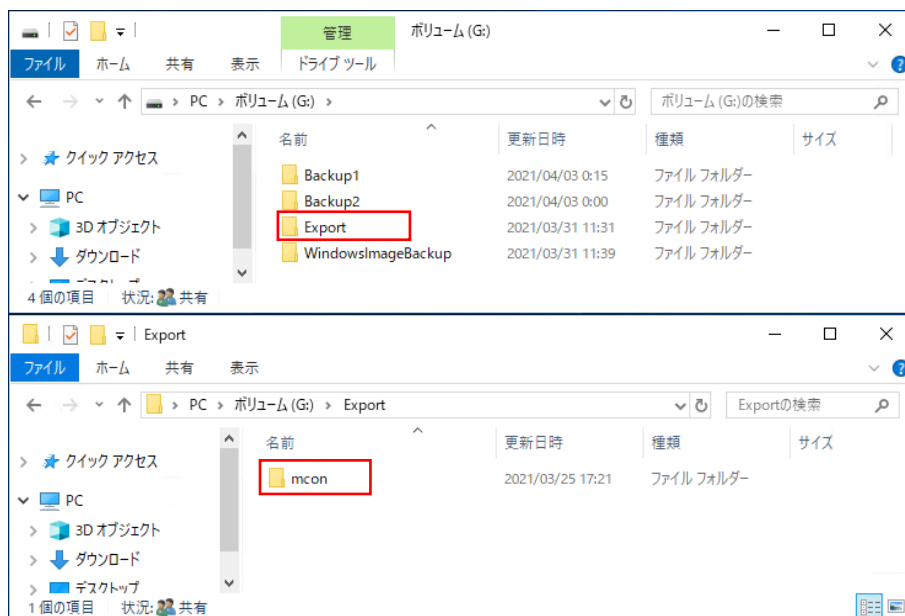


- 3 各ホスト名のフォルダー内に、「Backup yyyy-mm-dd xxxxxx」「Catalog」「SPPMetadataCache」フォルダーと「Mediald」ファイルが作成されていることを確認してください。

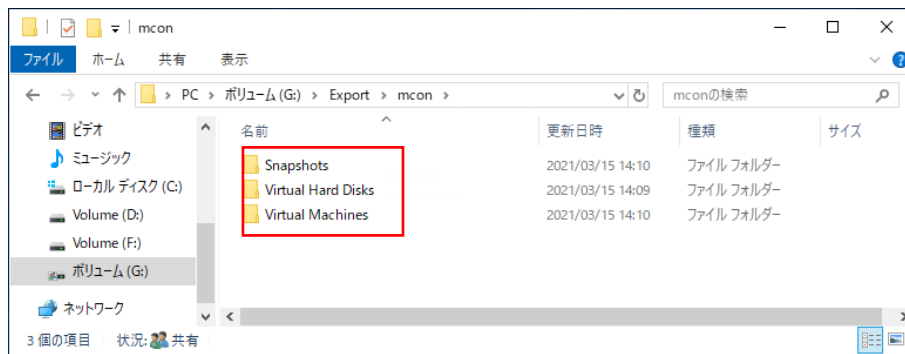
なお、管理ノードのフォルダーにのみ上記フォルダーに加えて「Logs」フォルダーが作成されています。



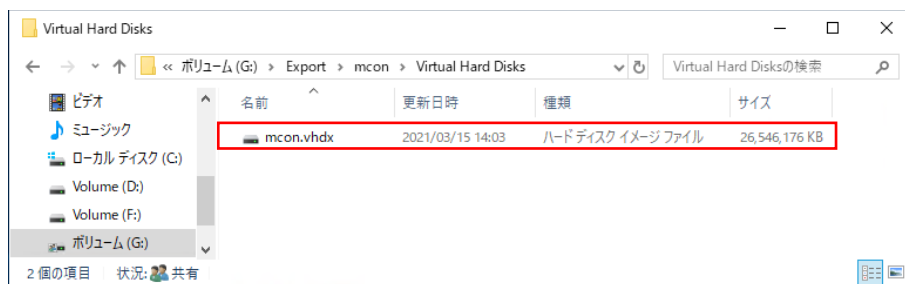
- 4 また、「システムバックアップ保存先」の「サーバ管理用仮想マシンのエクスポート用のフォルダー名」に管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの仮想マシン名のフォルダーが作成されていることを確認してください。



- 5 仮想マシン名のフォルダーに、「Snapshots」「Virtual Hard Disks」「Virtual Machines」フォルダーが作成されていることを確認してください。



- 6 「Virtual Hard Disks」内に「ハードディスクイメージファイル」が取得できていることを確認してください。



## 3.21 SNMP アラートのテスト送信と確認

### 3.21.1 テスト送信

SNMP の動作を確認するため、管理ノードとすべてのクラスターノードで SNMP アラートのテスト送信をします。テスト送信した時間帯を控えておいてください。

1. Windows PC 上の Web ブラウザ(Microsoft Edge)を起動し、BMC の IP アドレスを入力してログイン画面を表示します。

https://<クラスターノードまたは管理ノードの BMC の IP アドレス>/

BMC の IP アドレスは、SG 仕様書の管理ノード・クラスターノードの BMC の IP アドレスになります。

※「接続がプライベートではありません」の画面が表示された場合は、「詳細設定」をクリックして「xxx.xxx.xxx.xxx(IP アドレス)に進む(安全ではありません)」をクリックしてください。

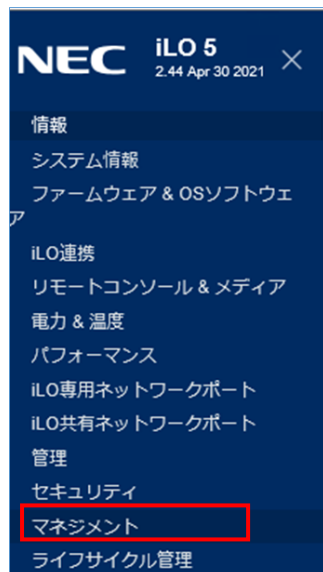


2. ローカルログイン名、パスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。  
(ローカルログイン名、パスワードは、初期パスワード通知書の「2.1. 初期アカウント設定」の管理ノード、クラスターノードの BMC (Administrator) の ID とパスワードになります。)

The image shows the NEC iLO 5 login page. At the top, the NEC logo and "iLO 5" are displayed. Below them are two input fields: "ローカルログイン名" (Local login name) with the text "administrator" entered, and "パスワード" (Password) with masked characters "\*\*\*\*\*". Below these fields is a blue button labeled "ログイン" (Login). At the bottom of the page, it says "ja - 日本語" with a dropdown arrow.



3. 左ペインから「マネジメント」をクリックします。



4. 右ペインの「SNMP 設定」から SNMP アラートの「テストアラート送信」をクリックします。



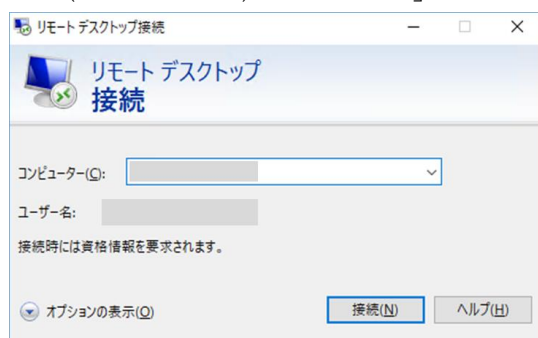
5. 「SNMP テストアラートが送信されました。」が表示されたことを確認します。



6. 管理ノードとすべてのクラスターノードで 1.~5.を繰り返します。

### 3.21.2 テスト送信の確認

1. Windows PC からサーバ管理用仮想マシンにリモートデスクトップ接続して変更します。  
Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、「コンピューター」に「サーバ管理用仮想マシンの IP アドレス」を入力し、サーバ管理用仮想マシンに接続します。  
アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインします。
  - コンピューター：SG 仕様書「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シート「4.コンピューター名とネットワーク設定」「ネットワーク」の「IP アドレス」
  - ユーザー名：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者 (Administrator) の ID」
  - パスワード：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者 (Administrator) のパスワード」



2. リモートデスクトップの画面が表示されます。サーバマネージャーの画面が表示されましたら画面右上の「×」をクリックして閉じます。



3. ブラウザを起動して ESMPRO/ServerManager へ接続します。

[ESMPRO/ServerManager Ver.6 の場合]

- アドレスは、"https://<ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス>:<インストール時に指定した HTTPS 接続ポート>/esmpro"です。
- 「ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「4. コンピュータ名とネットワーク設定」の「コンピュータ名」もしくは、「ネットワーク」-「IP アドレス」です。
- 「インストール時に指定した HTTPS 接続ポート」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「9.ESMPRO/ServerManager の設定」-「HTTPS ポート番号」-「ESMPRO/ServerManager Ver.6」で指定した番号です。

[ESMPRO/ServerManager Ver.7 の場合]

- アドレスは、"https://<ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス>:<インストール時に指定した HTTPS 接続ポート>/esmpro/Login/index"です。
- 「ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「4. コンピュータ名とネットワーク設定」の「コンピュータ名」もしくは、「ネットワーク」-「IP アドレス」です。
- 「インストール時に指定した HTTPS 接続ポート」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「9.ESMPRO/ServerManager の設定」-「HTTPS ポート番号」-「ESMPRO/ServerManager Ver.7」で指定した番号です。



ESMPRO/ServerManager の初期状態では、ESMPRO/ServerManager がインストールされているサーバ管理用仮想マシン以外から ESMPRO/ServerManager にアクセスできないよう、アクセス制限されています。

ESMPRO/ServerManager Ver.6 の場合は、ログインした後、右上のメニューの中の[環境設定]-[アクセス制御]-[アドレス追加]を選択してください。

ESMPRO/ServerManager Ver.7 の場合は、ログインしダッシュボード右上の「クラシックモード」に接続後、右上のメニューの中の[環境設定]-[アクセス制御]-[アドレス追加]を選択してください。

そこで通信を許可する IP アドレスを追加することで、ネットワーク上の他の装置の Web ブラウザからアクセスできるようになります。

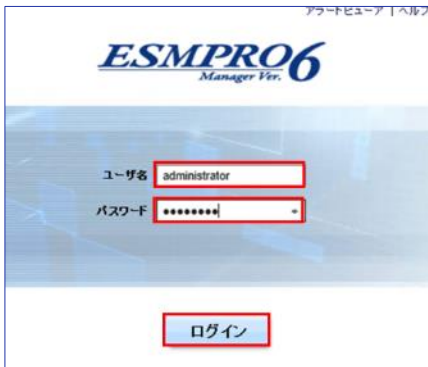
具体的な設定方法は、ESMPRO/ServerManager Ver6 の「ESMPRO サーバ管理ガイド」の「3.3.3 アクセス制御」を参照して設定してください。

ESMPRO/ServerManager Ver6 の「ESMPRO サーバ管理ガイド」は、以下の URL から入手可能です。

<https://jpn.nec.com/esmsm/download.html>

4. ESMPRO/ServerManager のログイン画面で、ユーザ名・パスワードを入力し、ログインします。(ユーザ名、パスワードは初期パスワード通知書の 2.1. 初期アカウント設定の ESMPRO/SM の管理者ユーザの ID とパスワードになります。)

・ ESMPRO/ServerManager Ver.6 のログイン画面



・ ESMPRO/ServerManager Ver.7 のログイン画面

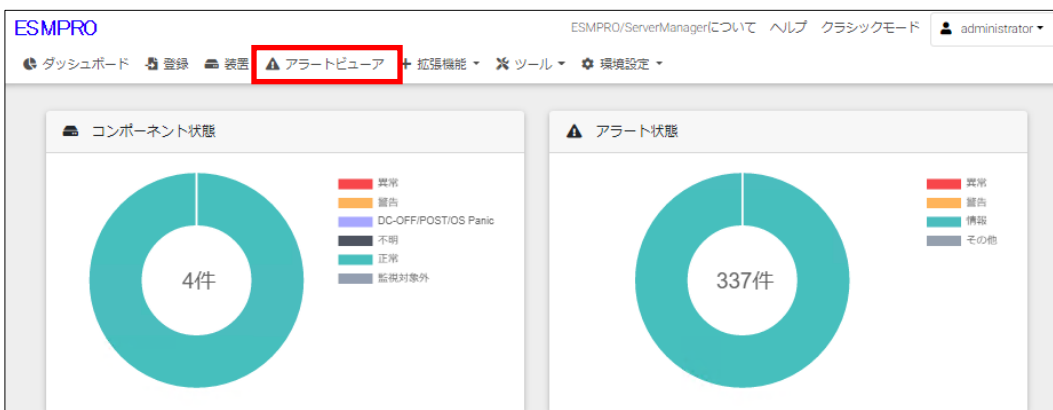


5. ESMPRO/ServerManager のメニュー画面で「アラートビューア」をクリックします。

・ ESMPRO/ServerManager Ver.6 の管理画面



・ ESMPRO/ServerManager Ver.7 のダッシュボード画面



6. 概要が「Generic Trap」をクリックします。

アラートビューア

更新 | カラムの設定 | アラートログ自動保存設定 | アラート受信設定 | オプション | フィルターオプション | SNMPトラップ転送設定 | ヘルプ

499件中 1~25件 25件 すべて表示

前読 未読->既読 既読->未読 保存 すべて保存する (499件) 検索

フィルター { \*全て表示 } 新着アラート受信通知フィルター { \*全て表示 }

	概要	状態	受信時刻	発生時刻	タイプ	マネージャ	コンポーネント	アドレス	製品名	ソース
<input type="checkbox"/>	Generic Trap	成功	2021/12/16 10:52:27	---	ILO SNMP Trap	mgr_moon	S2D-CLSTR03	192.168.0.153	ILO	ILO
<input type="checkbox"/>	ヘルスステータス変化の検出	成功	2021/12/15 12:15:21	---	ILO SNMP Trap	mgr_moon	s2d-clstr01	192.168.0.151	ILO	ILO
<input type="checkbox"/>	ヘルスステータス変化の検出	成功	2021/12/15 12:14:45	---	ILO SNMP Trap	mgr_moon	s2d-clstr01	192.168.0.151	ILO	ILO
<input type="checkbox"/>	ヘルスステータス変化の検出	成功	2021/12/15 12:14:07	---	ILO SNMP Trap	mgr_moon	s2d-clstr01	192.168.0.151	ILO	ILO
<input type="checkbox"/>	Gold Start	成功	2021/12/15 12:13:44	---	ILO SNMP Trap	mgr_moon	s2d-clstr01	192.168.0.151	ILO	ILO
<input type="checkbox"/>	サーバーリセット	成功	2021/12/15 12:11:58	---	ILO SNMP Trap	mgr_moon	s2d-clstr01	192.168.0.151	ILO	ILO
<input type="checkbox"/>	サーバーの電源ON	成功	2021/12/15 12:11:58	---	ILO SNMP Trap	mgr_moon	s2d-clstr01	192.168.0.151	ILO	ILO
<input type="checkbox"/>	necOfcManEventlog	成功	2021/12/15 12:04:43	---	SNMP Trap	mgr_moon	S2D_Switch_10G	192.168.0.250	UNIVERGE_OX	
<input type="checkbox"/>	Smart Array Drive Failed	成功	2021/12/15 12:01:53	---	ILO IML	mgr_moon	s2d-clstr02	192.168.0.152	ILO IML	ILO IML
<input type="checkbox"/>	Smart Array Drive Failed	成功	2021/12/15 12:01:53	---	ILO IML	mgr_moon	s2d-clstr02	192.168.0.152	ILO IML	ILO IML
<input type="checkbox"/>	necLogin	成功	2021/12/15 12:01:00	---	SNMP Trap	mgr_moon	S2D_Switch_10G	192.168.0.250	UNIVERGE_OX	
<input type="checkbox"/>	necSysClockChangedNotification	成功	2021/12/15 12:01:00	---	SNMP Trap	mgr_moon	S2D_Switch_10G	192.168.0.250	UNIVERGE_OX	
<input type="checkbox"/>	necLocOut	成功	2021/12/15 12:01:00	---	SNMP Trap	mgr_moon	S2D_Switch_10G	192.168.0.250	UNIVERGE_OX	
<input type="checkbox"/>	necSSHUserLogout	成功	2021/12/15 12:01:00	---	SNMP Trap	mgr_moon	S2D_Switch_10G	192.168.0.250	UNIVERGE_OX	
<input type="checkbox"/>	necSSHUserLogin	成功	2021/12/15 12:00:58	---	SNMP Trap	mgr_moon	S2D_Switch_10G	192.168.0.250	UNIVERGE_OX	

6. コンポーネント、アドレス、受信時刻(控えておいた時間帯付近であることを確認)、詳細(Remote Insight Test Trap)を確認し、テストアラートが受信されていることを確認します。確認しましたら「閉じる」をクリックします。

詳細

Generic Trap

●一般

コンポーネント: S2D-CLSTR03@mgr\_moon

アドレス: 192.168.0.153

受信時刻: 2021年12月16日 10:52:27

発生時刻(あなたの時間): --

発生時刻(現地時間): --

詳細: Remote Insight Test Trap

●SNMP

コミュニティ: public

エンタープライズ: 1.3.6.1.4.1.232

説明: ILO SNMP Trap

エージェント: 192.168.0.153

一般トラップコード: 6(Enterprise Specific)

特定トラップコード: 11003

タイムスタンプ: 3192時間 45分 3.00秒

●通報ステータス

通報:

閉じる

7. 7.~8.を繰り返して管理ノードとすべてのクラスターノードからテストアラートが受信されていることを確認します。

## 3.22 NEC ESMPRO Extension for Windows Admin Center の動作確認

1. WindowsPC から Web ブラウザ(Microsoft Edge)を起動し、Windows Admin Center へログインします。  
ログイン手順は 3.15.1 節の 1.～5.を参照ください。既に Windows Admin Center へログイン済みの場合は、次へ進んでください。
2. ESMPRO/ServerManagerSSL 証明書のインポート  
以下の URL から取得できる手順書を参照して設定を行ないます。「NEC ESMPRO Extension for Windows Admin Center インストール手順書」の「2.5 SSL の設定」の(2)～(16)を実施してください。  
<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010108237>



ESMPRO/ServerManager への接続はブラウザのアドレス欄へ以下の URL を入力します。

①URL

https : //<ESMPRO/ServerManager アドレス> : <HTTPS 接続ポート>/esmpro

②<ESMPRO/ServerManager アドレス>

SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シート

「4.コンピューター名とネットワーク設定」の「コンピューター名」または、  
「ネットワーク」の「IP アドレス」

③<HTTPS 接続ポート>

SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シート

「9.ESMPRO/ServerManager の設定」の「HTTPS ポート番号」の  
「ESMPRO/ServerManager Ver.6」または、「ESMPRO/ServerManager Ver.7」  
※導入した ESMPRO/ServerManager のバージョンを選択してください。



ESMPRO/ServerManager の初期状態では、ESMPRO/ServerManager がインストールされているサーバ管理用仮想マシン以外から ESMPRO/ServerManager にアクセスできないよう、アクセス制限されています。

ESMPRO/ServerManager Ver.6 の場合は、ログインした後、右上のメニューの中の[環境設定] - [アクセス制御] - [アドレス追加] を選択してください。

ESMPRO/ServerManager Ver.7 の場合は、ログインしダッシュボード右上の「クラシックモード」に接続後、右上のメニューの中の[環境設定] - [アクセス制御] - [アドレス追加] を選択してください。

そこで通信を許可する IP アドレスを追加することで、ネットワーク上の他の装置の Web ブラウザからアクセスできるようになります。

具体的な設定方法は、ESMPRO/ServerManager Ver6 の「ESMPRO サーバ管理ガイド」の「3.3.3 アクセス制御」を参照して設定してください。

ESMPRO/ServerManager Ver6 の「ESMPRO サーバ管理ガイド」は、以下の URL から入手可能です。

<https://jpn.nec.com/esmsm/download.html>

### 3. Windows Admin Center からの動作確認

「NEC ESMPRO Extension for Windows Admin Center インストール手順書」の「3.4. NEC ESMPRO Extension for Windows Admin Center の画面」を参照し、管理ノード、すべてのクラスターノードを選択して動作確認してください。



ESMPRO/ServerManager の認証情報については、以下になります。

#### ①サーバー

- ・手順 2 のヒント②<ESMPRO/ServerManager アドレス>

#### ②ポート

[ESMPRO/ServerManager Ver.6 の場合]

- 手順 2 のヒント③<HTTPS 接続ポート>（「ESMPRO/ServerManager Ver.6」）

[ESMPRO/ServerManager Ver.7 の場合]

SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シート

「9.ESMPRO/ServerManager の設定」の「HTTPS ポート番号」の

「ESMPRO/ServerManager Ver.7 クラシックモード」

（※手順 2 のヒント③<HTTPS 接続ポート>ではありません。）

#### ③ユーザー名とパスワード

- ・初期パスワード通知書の「2.1. 初期アカウント設定」の ESMPRO/ServerManager の管理者ユーザーの ID とパスワード

### 3.23 AD ドメインの保守用アカウントのログイン確認

各ノードのログイン画面から AD 保守用アカウントのログインを確認します。

1. Windows PC から各ノードへリモートデスクトップ接続します。Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、コンピューターへ各ノードの IP アドレスを入力して接続します。アカウント認証画面が表示されますので、下記ユーザー名とパスワードを入力し、ログインします。
  - コンピューター：各ノードの IP アドレスは、「クラスターノードの設定」シートの「11.管理用ネットワークのチーミング設定(全クラスターノードで共通)」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホスト OS)」の「IP アドレス」もしくは、「12.管理用ネットワークの設定(全クラスターノードで共通)」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホスト OS)」の「IP アドレス」と「管理ノードの設定」シートの「10.管理用ネットワークのチーミング設定」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホスト OS)」の「IP アドレス」もしくは、「11.管理用ネットワークの設定」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホスト OS)」の「IP アドレス」です。
  - ユーザー名：初期パスワード通知書の「2.1. 初期アカウント設定」の AD ドメインの保守用アカウントの ID です。
  - パスワード：初期パスワード通知書の「2.1. 初期アカウント設定」の AD ドメインの保守用アカウントのパスワードです。

2. デスクトップ画面が表示されたことを確認します



3. 1.～2.を繰り返して管理ノードとすべてのクラスターノードで確認します。



## 4 ライセンス登録

### 4.1 Windows Server のライセンス登録

#### 《注意》

本製品に搭載された Windows Server はお客様の保有されているライセンス形態に合わせるためライセンス認証をしていない状態となっております。

保有されているライセンス形態の猶予期間以内にライセンス認証を行ってください。

また、ライセンス認証方式によりお客様 LAN への接続が必要になる場合は、お客様のセキュリティポリシーに従った形でご対応頂きますようお願い致します。

管理ノード、クラスターノード、管理ノード上の仮想マシン(クラスター管理 AD 用仮想マシン 1、サーバ管理用仮想マシン)です。AD を冗長化している場合は、クラスターノード上の仮想マシン(クラスター管理 AD 用仮想マシン 2)もライセンス認証が必要となります。

なお、OEM 版で Windows Server をプレインストールした場合は、管理ノード、クラスターノードはすでにライセンス認証が行われております。そのため、ライセンス認証を行う必要があるのは、管理ノード上の仮想マシン(クラスター管理 AD 用仮想マシン 1、サーバ管理用仮想マシン)です。AD を冗長化している場合は、クラスターノード上の仮想マシン(クラスター管理 AD 用仮想マシン 2)もライセンス認証が必要となります。

#### 4.1.1 ライセンス認証状態の確認

#### 《注意》

OEM 版で Windows Server をプレインストールした場合、管理ノード、クラスターノードはライセンス認証されていますので確認と認証は不要です。

#### 1 対象のサーバへリモートデスクトップで接続します。

対象サーバの各 IP アドレスは、SG 仕様書の以下を参照してください。

- ・管理ノード：[管理ノードの設定]シート 『10.管理用ネットワークのチーミング設定』 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホスト OS)」の「IP アドレス」もしくは、『11.管理用ネットワークの設定』 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホスト OS)」の「IP アドレス」
- ・クラスターノード：[クラスターノードの設定]シート 『11.管理用ネットワークのチーミング設定(全クラスターノードで共通)』項目の「IP アドレス」もしくは、『12.管理用ネットワークの設定(全クラスターノードで共通)』項目の「IP アドレス」
- ・クラスター管理 AD 用仮想マシン 1：[管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シート 『4.コンピュータ名とネットワーク設定』項目の「IP アドレス」
- ・サーバ管理用仮想マシン：[管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築]シート 『4.コンピュータ名とネットワーク設定』項目の「IP アドレス」

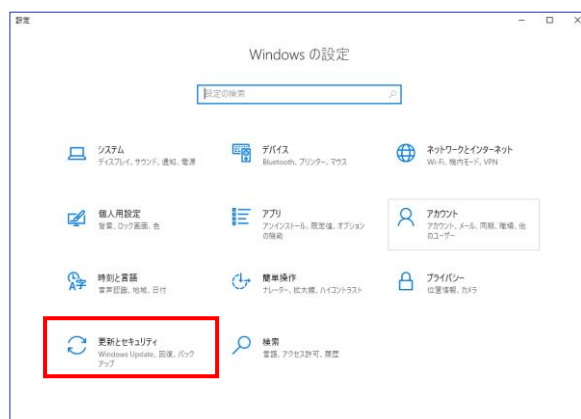
AD を冗長化している場合は、以下も実施してください。

- ・クラスター管理 AD 用仮想マシン 2：[S2D 上のクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シート 『4.コンピュータ名とネットワーク設定』項目の「IP アドレス」

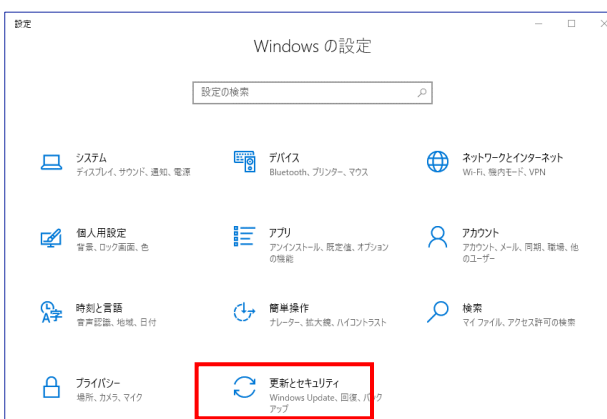
#### 2 画面の左下の Windows アイコンをクリックし、 アイコンをクリックします。

### 3 「更新とセキュリティ」をクリックします。

[Windows Server 2019 の場合]

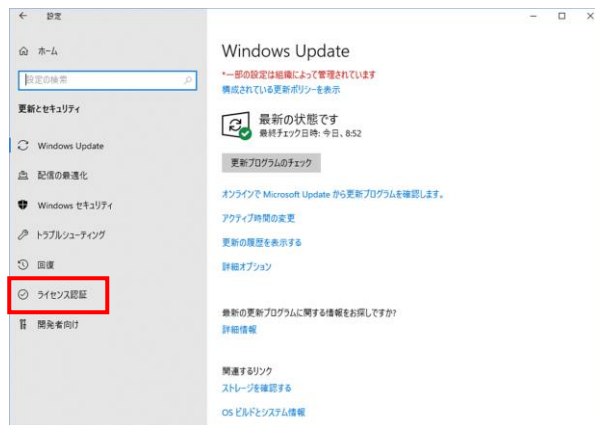


[Windows Server 2022 の場合]

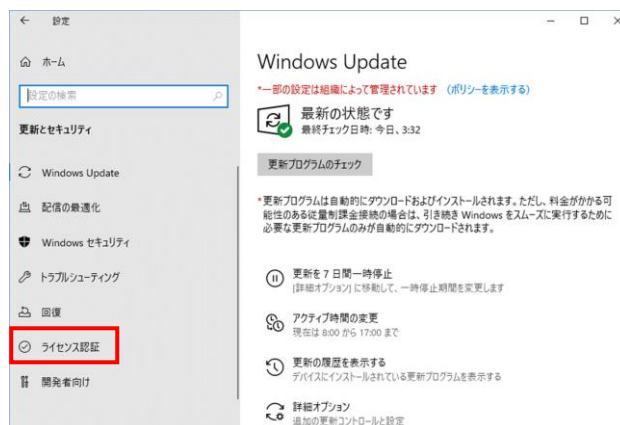


### 4 「ライセンス認証」をクリックします。

[Windows Server 2019 の場合]



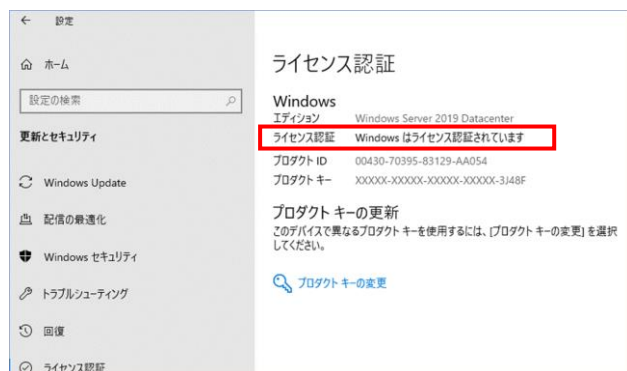
[Windows Server 2022 の場合]



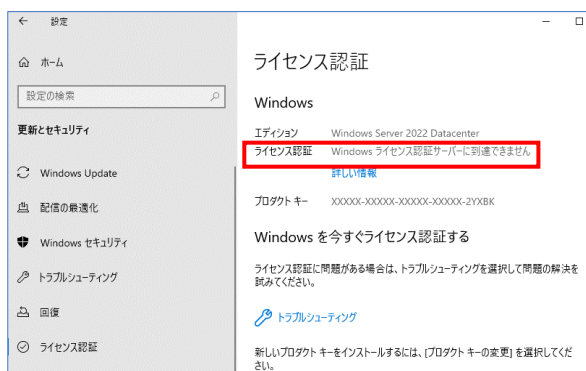
### 5 ライセンス認証欄へ「ライセンス認証されています」の表示がされていなければライセンス認証が必要です。同様に Windows が搭載されているすべてのサーバのライセンス認証状態を確認してください。

確認後、ライセンス認証を実施してください。4.1.2 及び 4.1.3 節へライセンス認証の例を記載します。

[Windows Server 2019 の場合]



[Windows Server 2022 の場合]



#### 4.1.2 管理ノードとクラスターノードのペアレント OS の認証

[Windows Server 2019 の場合]

以下の URL から「インストールガイド(Windows Server 2019 編)」を入手し、「3.6 ライセンス認証の手続き」を参照して手続きを行ってください。

<<https://www.support.nec.co.jp/TopHWGuidanceContents.aspx>>

- ・「型番・モデル名から探す」を選択します。
- ・使用する型番または、モデル名で検索します。
- ・対象モデルのユーザズガイドページから「OS と Starter Pack の対応表」を参照し、使用する Starter Pack のサイトから入手します。

[Windows Server 2022 の場合]

以下の URL から「インストールガイド(Windows Server 2022 編)」を入手し、「3.6 ライセンス認証の手続き」を参照して手続きを行ってください。

<<https://www.support.nec.co.jp/TopHWGuidanceContents.aspx>>

- ・「型番・モデル名から探す」を選択します。
- ・使用する型番または、モデル名で検索します。
- ・対象モデルのユーザズガイドページから「OS と Starter Pack の対応表」を参照し、使用する Starter Pack のサイトから入手します。

#### 4.1.3 仮想マシン(クラスター管理 AD 用仮想マシン、サーバ管理用仮想マシン)の認証

[Windows Server 2019 の場合]

以下の URL から「Windows Server 2019 Hyper-V のサポートについて」の「注意・制限事項」をクリックし、「ゲスト OS のライセンス認証について」を参照して手続きを行ってください。

<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=3140106666>>

[Windows Server 2022 の場合]

以下の URL から「Windows Server 2022 Hyper-V のサポートについて」の「注意・制限事項」をクリックし、「ゲスト OS のライセンス認証について」を参照して手続きを行ってください。

<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=3140108387>>

## 5 パスワード変更

《重要》

本製品の運用を開始する前に、本手順に従い、必ずお客様のセキュリティポリシーに則ったパスワードへ変更してください。

### 5.1 概要

本節で初期パスワード通知書に記載されているパスワードを変更する手順を示します。

本製品の以下のパスワードを変更します。

- ①管理ノード、クラスターノードの BMC のパスワード変更
- ②Active Directory(AD)ドメインアカウントのパスワード変更
- ③ローカル管理者(Administrator)パスワード変更
- ④ディレクトリサービス復元モードのパスワードの変更
- ⑤サーバ管理用仮想マシンの ESMPRO/ServerManager のパスワード変更
- ⑥ESMPRO/ServerManager のコンポーネント登録情報の変更
- ⑦ESMPRO/SM Web Service サービスの証明書のパスワードの変更
- ⑧ESMPRO/ServerManager SSL 用キーストアのパスワードの変更
- ⑨UPS の SNMP カードログインユーザ(管理者権限ユーザー)パスワード変更

#### 5.1.1 準備

本書の事前準備および受入確認の手順を完了し、本製品の電源がオンになり、利用できる状態としてください。

Windows PC を、管理用ネットワークに接続してください。管理用ネットワーク上の管理ノード、クラスターノード、仮想マシン(クラスター管理 AD 用仮想マシン、サーバ管理用仮想マシン)に接続できるよう、ネットワーク設定を合わせて変更してください。

### 5.1.2 ID・パスワードの依存関係について



**ID・パスワードを変更した場合は、以下の関係表に従って、影響を受けるソフトウェアにID・パスワードの再登録をして下さい。**

設定登録方法は、各ソフトウェアのマニュアルを参考にして下さい。

変更対象の ID・パスワード	影響を受けるソフトウェア			影響を受けるソフトウェア (その他)
	ESMPRO/ Server Manager	Windows Admin Center	その他	
BMC のパスワード	○	—	—	
Active Directory(AD) アカウントの ドメイン管理者 (Administrator)のパスワード	—	△	—	
ローカル管理者(Administrator)のパスワード	○(※1)	—	—	
ディレクトリサービス復元モードのパスワード	—	—	—	
ESMPRO/ServerManager のパスワード	△(※2)	△(※2)	—	
ESMPRO/SM Web Service サービスの証明書のパス ワード(※3)	—	—	△(※5)	ESMPRO/ServerMan ager に接続するブラウ ザ
ESMPRO/ServerManager SSL 用キーストアのパス ワード(※4)	—	—	△(※5)	ESMPRO/ServerMan ager に接続するブラウ ザ
保守アカウント(HCIAdmin)のパスワード	—	—	—	
バックアップ用アカウント(backup)の パスワード(※6)	—	—	○	WindowsServer バックアップ用 タスクスケジューラ
OperationHelper サービスログオンアカウント (ohadmin) のパスワード(※7)	—	—	○	CLUSTERPRO X OperationHelper
UPS の SNMP カードログインユーザパスワード(※8)	—	—	○	SNMP カード

※1 ペアレント OS のみ。(仮想マシンは ESMPRO の監視対象外)

※2 ログイン時に変更後の情報入力が必要

※3 ESMPRO/ServerManager の Ver.7 を使用している場合のみ。

※4 ESMPRO/ServerManager の Ver.6 を使用している場合のみ。

※5 エラー表示回避のために新しい証明書のインポートが必要。

※6 HCS 構築サービスでクラスター管理 AD 用仮想マシンのバックアップを取得している場合のみ。

※7 UPS を導入しており、CLUSTERPRO X OperationHelper を使用している場合のみ。

※8 UPS を導入している場合のみ。

○: 設定変更が必要

△: パスワード変更後は、(※)の対応が必要

—: 不要

## 5.2 管理ノード、クラスターノードの BMC のパスワード変更

### 5.2.1 BMC パスワード変更

《注意》

BMC(NEC iLO 5)のパスワードを変更した場合は、変更後に ESMPRO/ServerManager のコンポーネントへ登録されている BMC のパスワード情報を更新いただく必要があります。パスワード変更におけるシステム影響を及ぼす関係表は 5.1.2 節を、BMC のパスワード情報を更新する手順は 5.6 節を参照ください。

- 1 Windows PC 上の Web ブラウザ(Microsoft Edge)を起動し、BMC の IP アドレスを入力してログイン画面を表示します。

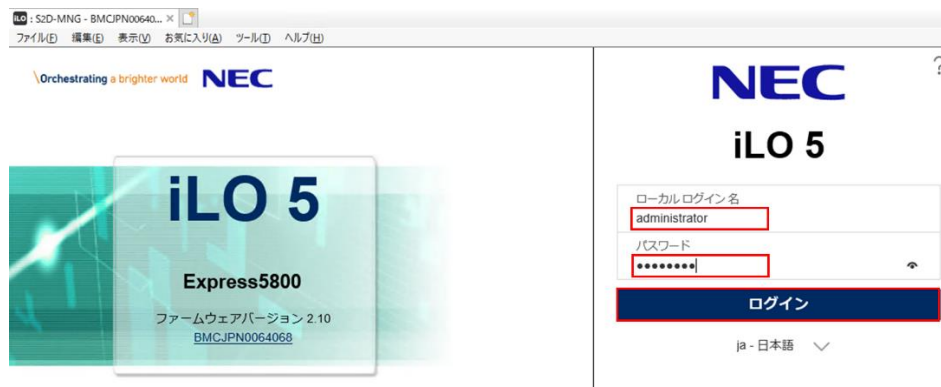
https://<クラスターノードまたは管理ノードの BMC の IP アドレス>/

BMC の IP アドレスは、SG 仕様書の管理ノード・クラスターノードの BMC の IP アドレスになります。

※「接続がプライベートではありません」の画面が表示された場合は、「詳細設定」をクリックして「xxx.xxx.xxx.xxx(IP アドレス)に進む(安全ではありません)」をクリックしてください。



- 2 Web ブラウザに BMC のログイン画面が表示されます。
- 3 ローカルログイン名、パスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。  
(ローカルログイン名、パスワードは、初期パスワード通知書の「2.1. 初期アカウント設定」の管理ノード、クラスターノードの BMC (Administrator) の ID とパスワードになります。)



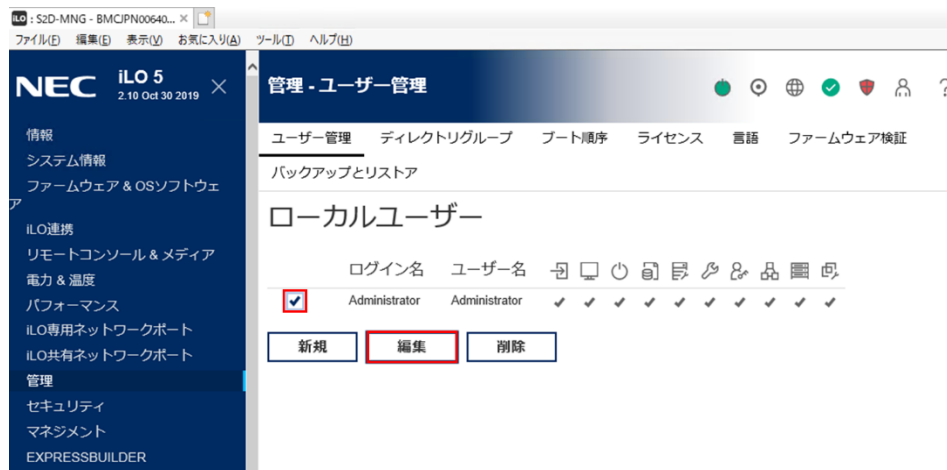
4 正常にログインすると、Web ブラウザに「情報-iLO 概要」画面が表示されます。

5 左ツリーから「管理」をクリックします。



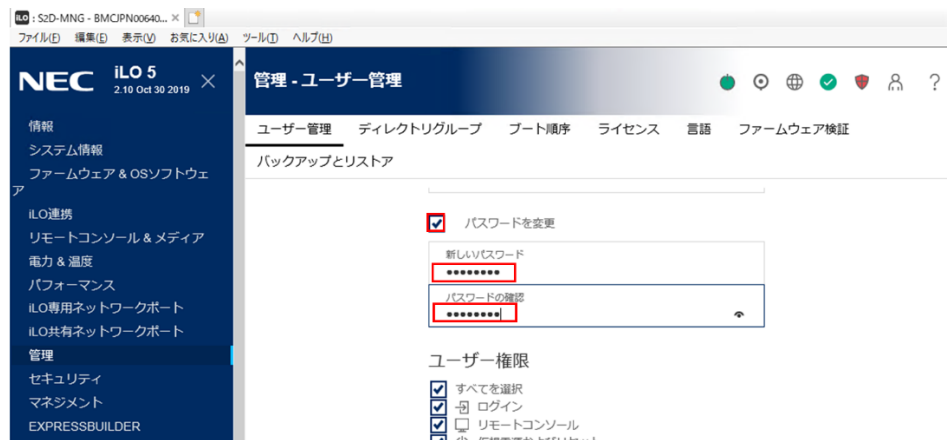
6 「管理-ユーザー管理」のローカルユーザ画面に遷移されることを確認します。

7 画面内に表示されたローカルユーザーにて、パスワードを変更したいユーザー名のチェックボックスをクリックし「編集」をクリックします。



8 ローカルユーザーの追加/編集画面に遷移されることを確認します。

9 「パスワードを変更」チェックボックスをクリックし、新しいパスワード、パスワードの確認項目に変更したいパスワードを入力します。



※ パスワードの要件は、初期パスワード通知書の「2.2.パスワード要件」を参照ください。



10 画面をスクロールし、下部にある「ユーザーのアップデート」をクリックします。



11 パスワードが正常に変更され、ローカルユーザー画面に戻ることを確認します。

12 画面右上のアカウントアイコンをクリックし、「ログアウト」をクリックします。



13 BMC から正常にログアウトすると、BMC のログイン画面が表示されます。

14 すべてのクラスターノード、管理ノードで BMC のパスワード変更をおこなってください。



## 5.3 Active Directory(AD)ドメインアカウントのパスワード変更

次の AD ドメインアカウントのパスワードを変更します。

- ・ドメイン管理者(Administrator)
- ・保守用アカウント(HCIAdmin)
- ・OperationHelper サービスログオンアカウント(ohadmin) ※CLUSTERPRO X OperationHelper  
を使用している場合
- ・バックアップ用アカウント(backup) ※HCS 構築サービスでクラスター管理 AD 用仮想マシン  
のバックアップを取得している場合

Windows PC からクラスター管理 AD 用仮想マシンにリモートデスクトップ接続して Active Directory の管理ツールを使い変更を行います。以下、ドメイン管理者(Administrator)のパスワード変更を例として記述します。

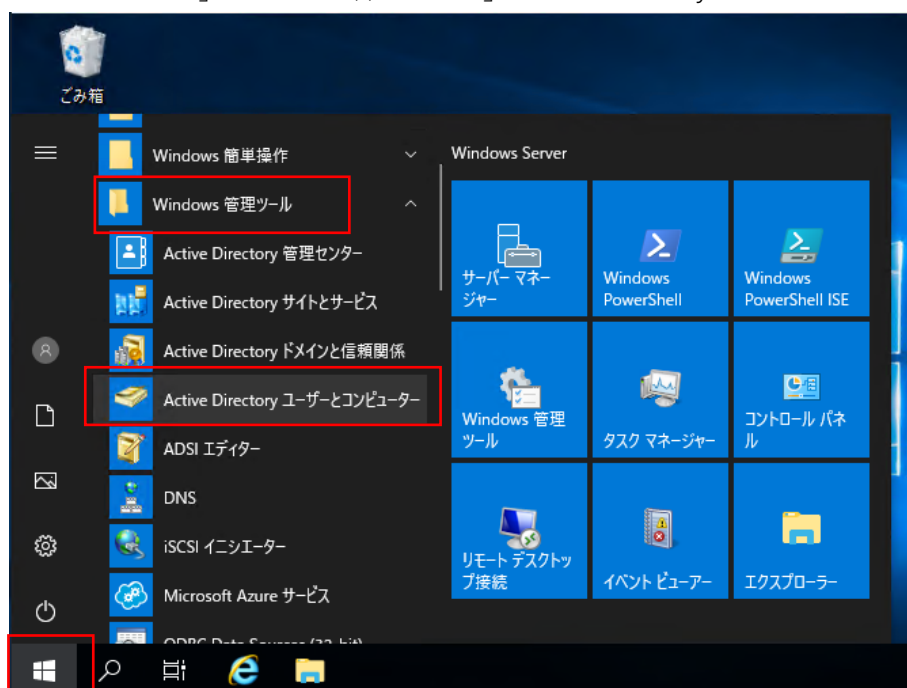
1. Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、「コンピューター」に「管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンの IP アドレス」を入力し、管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンに接続します。

アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインします。

- コンピューター：SG 仕様書「管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築」シート  
「4.コンピューター名とネットワーク設定」「ネットワーク」の「IP アドレス」
- ユーザー名：初期パスワード通知書「AD ドメインのドメイン管理者(Administrator)の ID」
- パスワード：初期パスワード通知書「AD ドメインのドメイン管理者(Administrator)のパスワード」



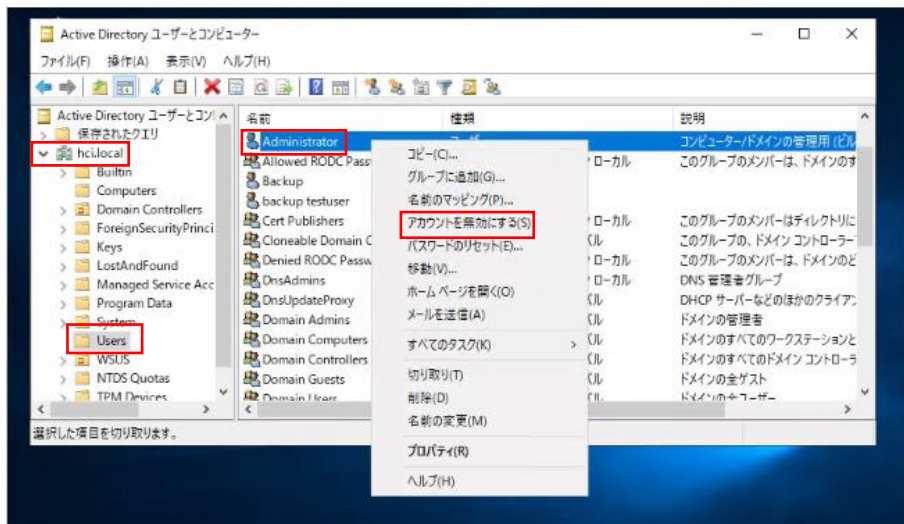
2. 「スタート」「Windows 管理ツール」「Active Directory ユーザーとコンピューター」をクリックします。



3. 「Active Directory ユーザーとコンピューター」の画面が表示されます。Active Directory のドメイン名、Users コンテナをクリックして Administrator アカウントをクリックし、マウスを右クリックして表示されたメニューから「パスワードのリセット」をクリックします。

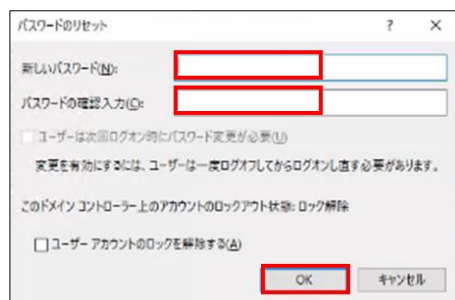
※他のアカウントの場合は、ここで対象のアカウントを指定してください。

(Active Directory のドメイン名は SG 仕様書の[管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築]シートの「7.Active Directory の設定」の「ルートドメイン名」になります。)



4. 「パスワードのリセット」画面が表示されますので「新しいパスワード」と「パスワードの確認入力」を入力し、「OK」をクリックします。

※ パスワードの要件は、初期パスワード通知書の「2.2.パスワード要件」を参照ください。



5. 下記メッセージが表示されますので確認し、「OK」をクリックして終了します。



## 5.4 ローカル管理者(Administrator)パスワード変更

Windows Server のローカル管理者(Administrator)のパスワードを変更します。

対象のサーバは管理ノード、クラスターノード、サーバ管理用仮想マシンになります。

Windows PC から各サーバにリモートデスクトップ接続して変更します。

1. Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、「コンピューター」に「各サーバの IP アドレス」を入力し、各サーバに接続します。

アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインします。

- 管理ノード

- ・コンピューター：SG 仕様書「[管理ノードの設定]シート「10.管理用ネットワークのチーミング設定」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホスト OS)」の「IP アドレス」もしくは、「11.管理用ネットワークの設定」 - 「仮想ネットワークアダプター名(ホスト OS)」の「IP アドレス」
- ・ユーザー名：初期パスワード通知書「管理ノードのローカル管理者(Administrator)の ID」
- ・パスワード：初期パスワード通知書「管理ノードのローカル管理者(Administrator)のパスワード」

- クラスターノード

- ・コンピューター：SG 仕様書[クラスターノードの設定]シート「11.管理用ネットワークのチーミング設定(全クラスターノードで共通)」の「IP アドレス」もしくは、「12.管理用ネットワークの設定(全クラスターノードで共通)」の「IP アドレス」※クラスター台数分
- ・ユーザー名：初期パスワード通知書「クラスターノードのローカル管理者(Administrator)の ID」
- ・パスワード：初期パスワード通知書「クラスターノードのローカル管理者(Administrator)のパスワード」

- サーバ管理用仮想マシン

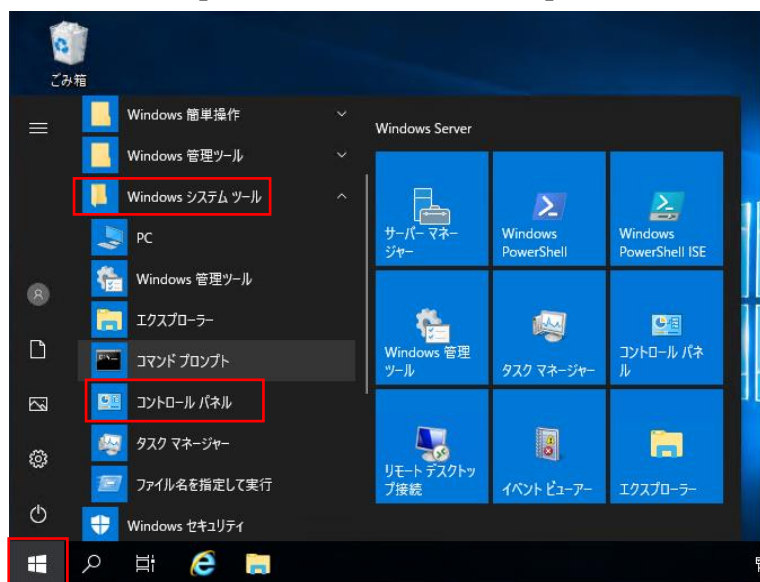
- ・コンピューター：SG 仕様書「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シート「4.コンピューター名とネットワーク設定」「ネットワーク」の「IP アドレス」
- ・ユーザー名：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者(Administrator)の ID」
- ・パスワード：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者(Administrator)のパスワード」



2. サーバーマネージャーの画面を画面右上の「×」をクリックして閉じます。



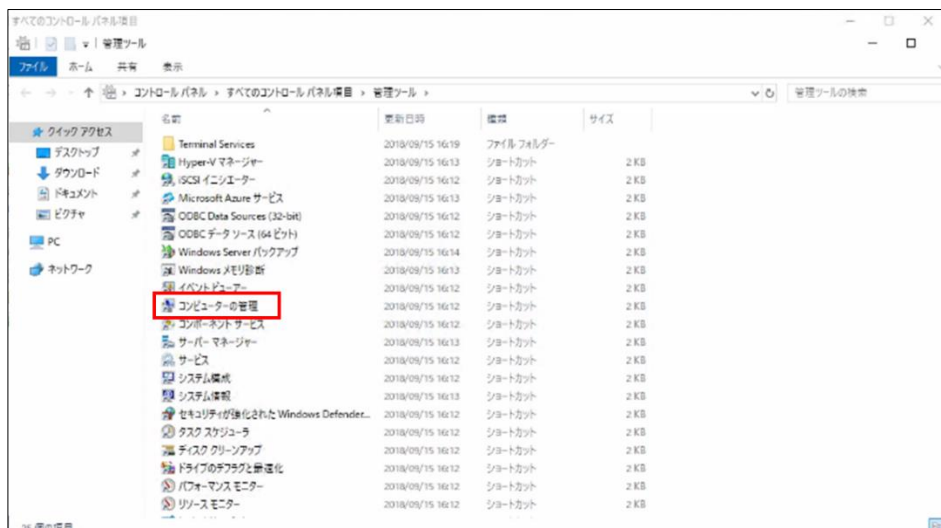
3. 「スタート」「Windows システムツール」「コントロールパネル」をクリックします。



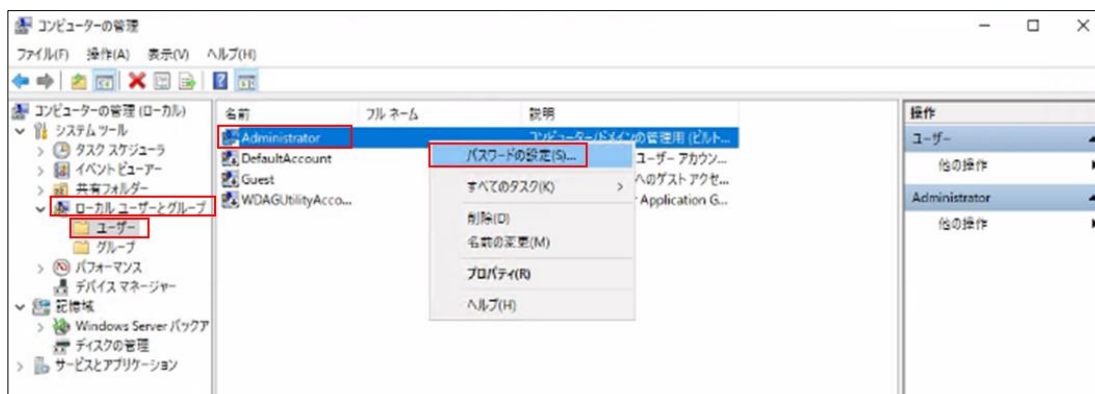
4. 管理ツールをクリックします。



5. コンピューターの管理をクリックします。



6. 「コンピューターの管理」の画面が表示されます。左ペインから「ローカルユーザーとグループ」、「ユーザー」をクリックし、中央ペインの Administrator アカウントをクリックしてマウスの右ボタンをクリックして表示されたメニューから「パスワードの設定」をクリックします。

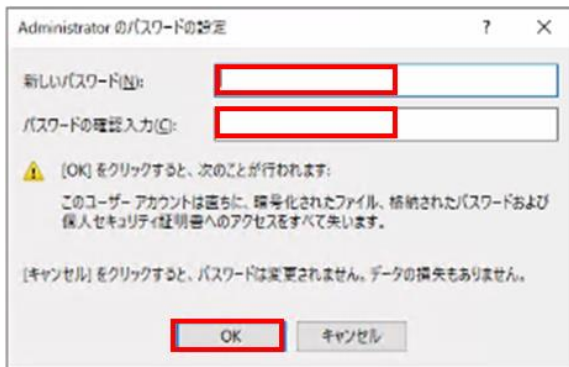


7. 下記の画面が表示されたら「続行」をクリックします。

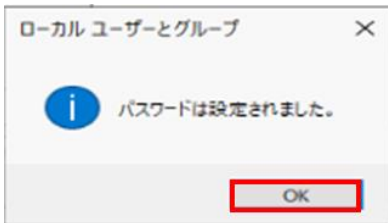


8. 「新しいパスワード」と「パスワードの確認入力」へ変更後のパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

※ パスワードの要件は、初期パスワード通知書の「2.2.パスワード要件」を参照ください。



9. 下記メッセージが表示されますので確認し、「OK」をクリックして終了します。



## 5.5 ディレクトリサービス復元モードのパスワード変更

AD が破損した際、修復するために使用するディレクトリサービス復元モードのパスワードを変更します。対象のサーバはクラスター管理 AD 用仮想マシンになります。AD を冗長化している場合は、2 台ともが変更の対象サーバとなります。

Windows PC から各サーバにリモートデスクトップ接続して変更します。

1. Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、「コンピューター」に「各サーバの IP アドレス」を入力し、各サーバに接続します。

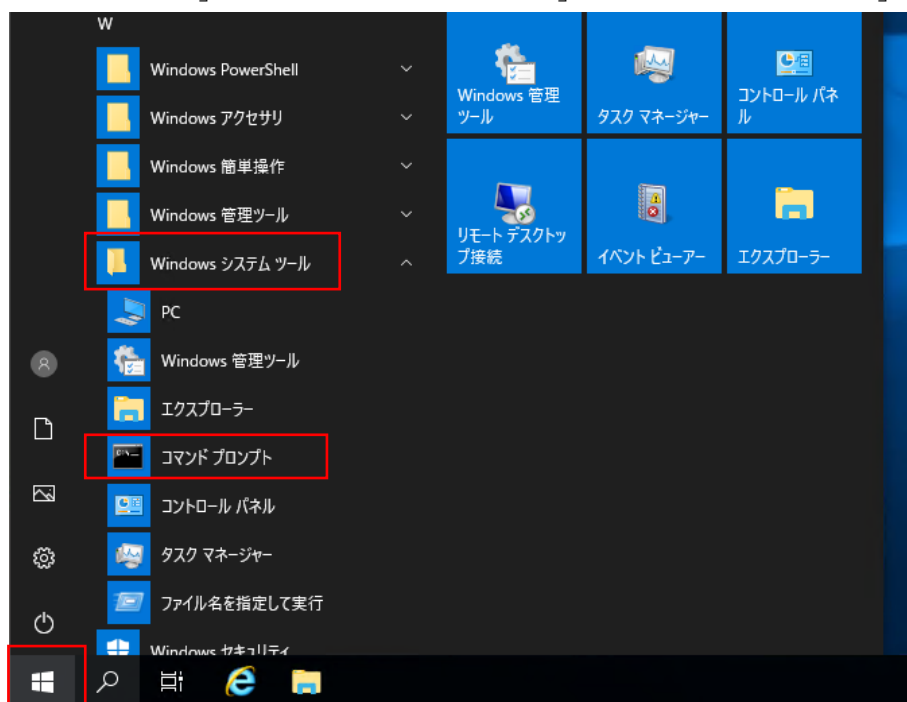
アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインします。

- 管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシン
  - ・コンピューター：SG 仕様書「管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築」シート「4. コンピューター名とネットワーク設定」「ネットワーク」の「IP アドレス」
  - ・ユーザー名：初期パスワード通知書「AD ドメインのドメイン管理者(Administrator)の ID」
  - ・パスワード：初期パスワード通知書「AD ドメインのドメイン管理者(Administrator)のパスワード」
- S2D 上のクラスター管理 AD 用仮想マシン
  - ・コンピューター：SG 仕様書「S2D 上のクラスター管理 AD 用仮想マシンの構築」シート「4. コンピューター名とネットワーク設定」「ネットワーク」の「IP アドレス」
  - ・ユーザー名：初期パスワード通知書「AD ドメインのドメイン管理者(Administrator)の ID」
  - ・パスワード：初期パスワード通知書「AD ドメインのドメイン管理者(Administrator)のパスワード」

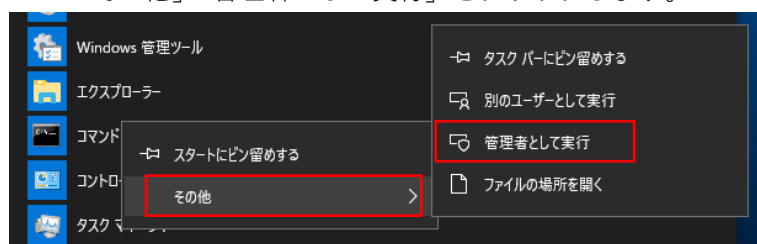




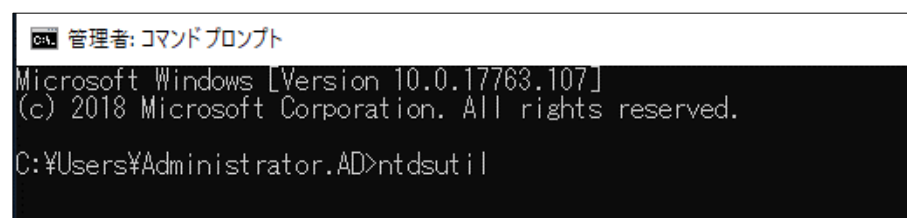
2. 「スタート」「Windows システム ツール」の「コマンドプロンプト」を右クリックします。



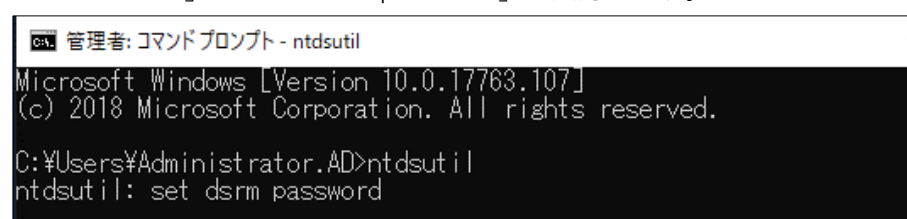
3. 「その他」「管理者として実行」をクリックします。



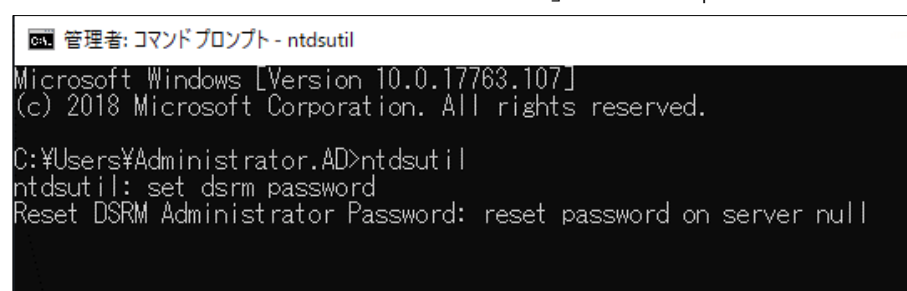
4. コマンド プロンプトが起動したら「ntdsutil」と入力します。



5. 「ntdsutil」に「set dsrm password」と入力します。



6. 「Reset DSRM Administrator Password」に「reset password on server null」と入力します。





7. 「DS 復元モードの管理者パスワードを入力してください」に、新しく設定するパスワードを入力します。

※既存のパスワードを入力する必要はありません。また、パスワードの要件は、初期パスワード通知書の「2.2.パスワード要件」を参照ください。

```
CA 管理者: コマンドプロンプト - ntdsutil
Microsoft Windows [Version 10.0.17763.107]
(c) 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users¥Administrator.AD>ntdsutil
ntdsutil: set dsrm password
Reset DSRM Administrator Password: reset password on server null
DS 復元モードの管理者アカウントのパスワードを入力してください: *****
```

8. 「新しいパスワードの確認入力をしてください」に、新しく設定するパスワードを再度入力します。

```
CA 管理者: コマンドプロンプト - ntdsutil
Microsoft Windows [Version 10.0.17763.107]
(c) 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users¥Administrator.AD>ntdsutil
ntdsutil: set dsrm password
Reset DSRM Administrator Password: reset password on server null
DS 復元モードの管理者アカウントのパスワードを入力してください: *****
新しいパスワードの確認入力をしてください: *****
```

9. 「パスワードは正しく設定されました。」と表示されれば、パスワードの変更が完了です。

```
CA 管理者: コマンドプロンプト - ntdsutil
Microsoft Windows [Version 10.0.17763.107]
(c) 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users¥Administrator.AD>ntdsutil
ntdsutil: set dsrm password
Reset DSRM Administrator Password: reset password on server null
DS 復元モードの管理者アカウントのパスワードを入力してください: *****
新しいパスワードの確認入力をしてください: *****
パスワードは正しく設定されました。

Reset DSRM Administrator Password:
```

10. 「Reset DSRM Administrator Password」に「q」と入力します。

```
CA 管理者: コマンドプロンプト - ntdsutil
Microsoft Windows [Version 10.0.17763.107]
(c) 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users¥Administrator.AD>ntdsutil
ntdsutil: set dsrm password
Reset DSRM Administrator Password: reset password on server null
DS 復元モードの管理者アカウントのパスワードを入力してください: *****
新しいパスワードの確認入力をしてください: *****
パスワードは正しく設定されました。

Reset DSRM Administrator Password: q
```

11. 「ntdsutil」に「q」と入力し、ntdsutil モードを終了します。

```
管理: コマンドプロンプト - ntdsutil
Microsoft Windows [Version 10.0.17763.107]
(c) 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users¥Administrator.AD>ntdsutil
ntdsutil: set dsrm password
Reset DSRM Administrator Password: reset password on server null
DS 復元モードの管理者アカウントのパスワードを入力してください: *****
新しいパスワードの確認入力をしてください: *****
パスワードは正しく設定されました。

Reset DSRM Administrator Password: q
ntdsutil: q_
```

12. 「exit」を入力し、コマンドプロンプトを終了してください。

```
管理: コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.17763.107]
(c) 2018 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users¥Administrator.AD>ntdsutil
ntdsutil: set dsrm password
Reset DSRM Administrator Password: reset password on server null
DS 復元モードの管理者アカウントのパスワードを入力してください: *****
新しいパスワードの確認入力をしてください: *****
パスワードは正しく設定されました。

Reset DSRM Administrator Password: q
ntdsutil: q

C:\Users¥Administrator.AD>exit_
```

## 5.6 サーバ管理用仮想マシンの ESMPRO/ServerManager のパスワード変更

1. Windows PC からサーバ管理用仮想マシンにリモートデスクトップ接続して変更します。

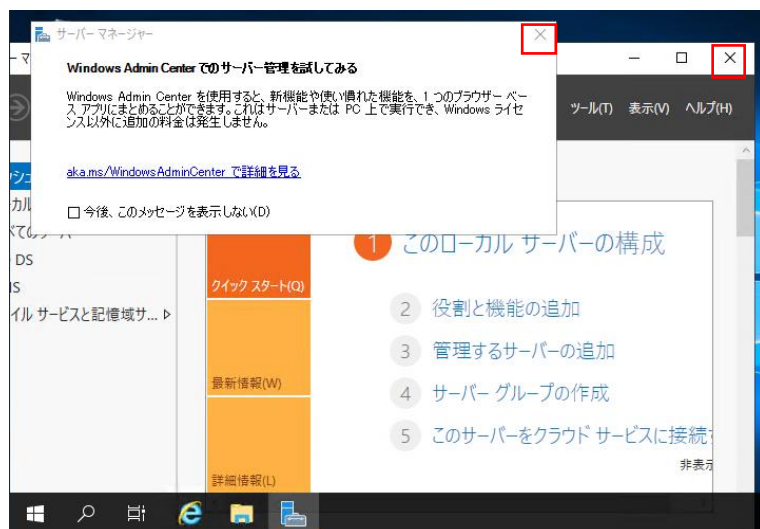
Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、「コンピューター」に「サーバ管理用仮想マシンの IP アドレス」を入力し、サーバ管理用仮想マシンに接続します。

アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインします。

- コンピューター：SG 仕様書「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シート「4.コンピューター名とネットワーク設定」「ネットワーク」の「IP アドレス」
- ユーザー名：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者 (Administrator) の ID」
- パスワード：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者 (Administrator) のパスワード」



2. リモートデスクトップの画面が表示されます。サーバーマネージャーの画面を画面右上の「×」をクリックして閉じます。



3. ブラウザを起動して ESMPRO/ServerManager へ接続します。

[ESMPRO/ServerManager Ver.6 の場合]

- アドレスは、"https://<ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス>:<インストール時に指定した HTTPS 接続ポート>/esmpro"です。
- 「ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「4. コンピュータ名とネットワーク設定」の「コンピュータ名」もしくは、「ネットワーク」-「IP アドレス」です。
- 「インストール時に指定した HTTPS 接続ポート」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「9.ESMPRO/ServerManager の設定」-「HTTPS ポート番号」-「ESMPRO/ServerManager Ver.6」で指定した番号です。

[ESMPRO/ServerManager Ver.7 の場合]

- アドレスは、"https://<ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス>:<インストール時に指定した HTTPS 接続ポート>/esmpro/Login/index"です。
- 「ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「4. コンピュータ名とネットワーク設定」の「コンピュータ名」もしくは、「ネットワーク」-「IP アドレス」です。
- 「インストール時に指定した HTTPS 接続ポート」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「9.ESMPRO/ServerManager の設定」-「HTTPS ポート番号」-「ESMPRO/ServerManager Ver.7」で指定した番号です。



ESMPRO/ServerManager の初期状態では、ESMPRO/ServerManager がインストールされているサーバ管理用仮想マシン以外から ESMPRO/ServerManager にアクセスできないよう、アクセス制限されています。

ESMPRO/ServerManager Ver.6 の場合は、ログインした後、右上のメニューの中の[環境設定]-[アクセス制御]-[アドレス追加]を選択してください。

ESMPRO/ServerManager Ver.7 の場合は、ログインしダッシュボード右上の「クラシックモード」に接続後、右上のメニューの中の[環境設定]-[アクセス制御]-[アドレス追加]を選択してください。

そこで通信を許可する IP アドレスを追加することで、ネットワーク上の他の装置の Web ブラウザからアクセスできるようになります。

具体的な設定方法は、ESMPRO/ServerManager Ver6 の「ESMPRO サーバ管理ガイド」の「3.3.3 アクセス制御」を参照して設定してください。

ESMPRO/ServerManager Ver6 の「ESMPRO サーバ管理ガイド」は、以下の URL から入手可能です。

<https://jpn.nec.com/esmsm/download.html>

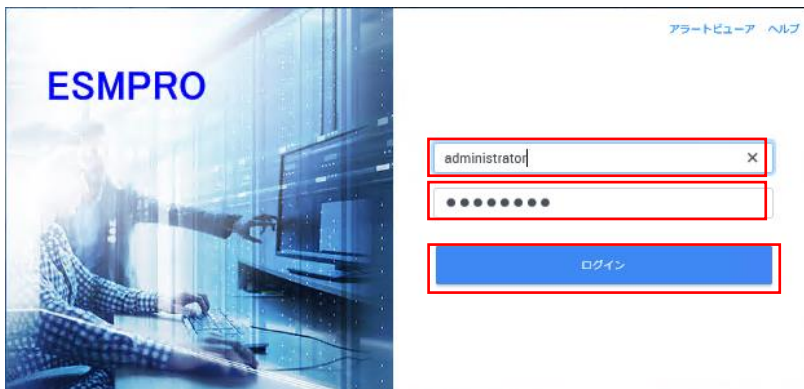
4. ESMPRO/ServerManager のログイン画面で、ユーザ名・パスワードを入力し、ログインします。  
(ユーザ名、パスワードは初期パスワード通知書の 2.1. 初期アカウント設定の ESMPRO/SM の管理者ユーザの ID とパスワードになります。)

・ ESMPRO/ServerManager Ver.6 のログイン画面



The login screen for ESMPRO6 Manager Ver.6. It features a blue header with the logo and navigation links 'アラートビューア' and 'ヘルプ'. The main area has a light blue background with a grid pattern. There are two input fields: 'ユーザ名' (Username) with 'administrator' entered and 'パスワード' (Password) with masked characters. A red box highlights the 'ログイン' (Login) button at the bottom.

・ ESMPRO/ServerManager Ver.7 のログイン画面

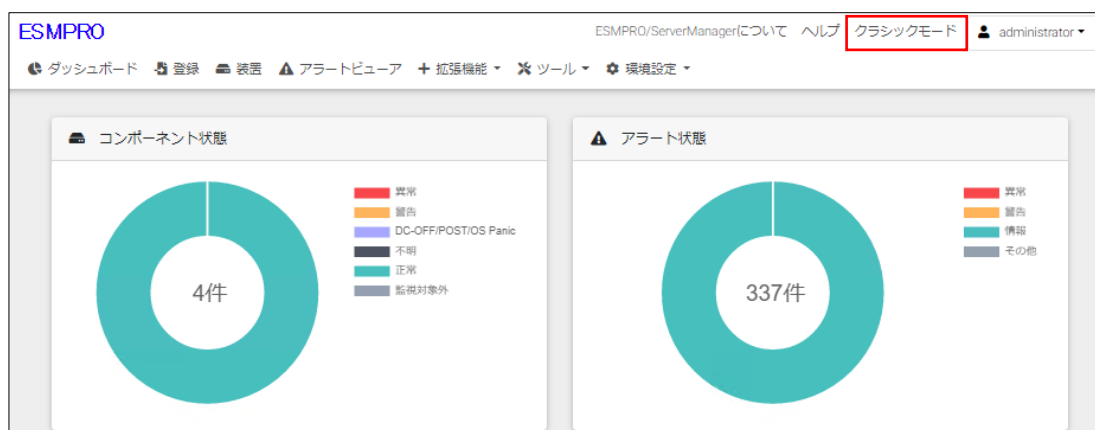


The login screen for ESMPRO. It features a blue header with the logo and navigation links 'アラートビューア' and 'ヘルプ'. The main area has a blue background with a server rack image. There are two input fields: 'administrator' and a masked password. A red box highlights the 'ログイン' (Login) button at the bottom.

ESMPRO/ServerManager Ver.7 を使用している場合は、ダッシュボードが表示されます。

「クラシックモード」を選択してください。

このあとの手順は、Ver.6 と Ver.7 は同様です。



5. ESMPRO/ServerManager のメニュー画面で「環境設定」をクリックして環境設定画面を表示します。



6. 環境設定画面でユーザ名の Administrator をクリックします。



7. ユーザ情報の画面で「パスワードの変更」ボタンをクリックします。

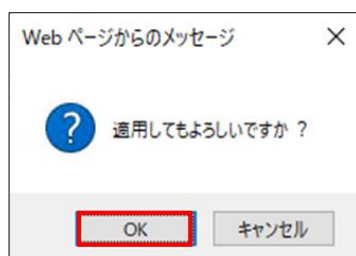


8. パスワード変更画面で現在のパスワードと新しいパスワード（確認用含む）を入力し、[適用]をクリックしてパスワードを変更します。

※ パスワードの要件は、初期パスワード通知書の「2.2.パスワード要件」を参照ください。



9. 下記画面が表示されましたら「OK」をクリックします。



## 5.7 ESMPRO/ServerManager のコンポーネント登録情報の変更

### 《注意》

BMC のパスワードやローカル管理者(Administrator)のパスワードを変更した場合は ESMPRO/ServerManager のコンポーネント登録で管理対象としたサーバのローカル管理者と BMC のパスワード情報を再登録する必要があります。管理対象として登録したサーバは管理ノードとクラスターノードになります。

1. Windows PC からサーバ管理用仮想マシンにリモートデスクトップ接続して変更します。

Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、「コンピューター」に「サーバ管理用仮想マシンの IP アドレス」を入力し、サーバ管理用仮想マシンに接続します。

アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインします。

- コンピューター：SG 仕様書「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シート「4.コンピューター名とネットワーク設定」「ネットワーク」の「IP アドレス」
- ユーザー名：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者(Administrator)の ID」
- パスワード：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者(Administrator)のパスワード」



2. リモートデスクトップの画面が表示されます。サーバーマネージャーの画面を画面右上の「×」をクリックして閉じます。





3. ブラウザを起動して ESMPRO/ServerManager へ接続します。

[ESMPRO/ServerManager Ver.6 の場合]

- アドレスは、"https://<ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス>:<インストール時に指定した HTTPS 接続ポート>/esmpro"です。
- 「ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「4. コンピュータ名とネットワーク設定」の「コンピュータ名」もしくは、「ネットワーク」-「IP アドレス」です。
- 「インストール時に指定した HTTPS 接続ポート」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「9.ESMPRO/ServerManager の設定」-「HTTPS ポート番号」-「ESMPRO/ServerManager Ver.6」で指定した番号です。

[ESMPRO/ServerManager Ver.7 の場合]

- アドレスは、"https://<ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス>:<インストール時に指定した HTTPS 接続ポート>/esmpro/Login/index"です。
- 「ESMPRO/ServerManager をインストールしたサーバ名もしくは IP アドレス」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「4. コンピュータ名とネットワーク設定」の「コンピュータ名」もしくは、「ネットワーク」-「IP アドレス」です。
- 「インストール時に指定した HTTPS 接続ポート」は、SG 仕様書の「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シートの「9.ESMPRO/ServerManager の設定」-「HTTPS ポート番号」-「ESMPRO/ServerManager Ver.7」で指定した番号です。



ESMPRO/ServerManager の初期状態では、ESMPRO/ServerManager がインストールされているサーバ管理用仮想マシン以外から ESMPRO/ServerManager にアクセスできないよう、アクセス制限されています。

ESMPRO/ServerManager Ver.6 の場合は、ログインした後、右上のメニューの中の[環境設定]-[アクセス制御]-[アドレス追加]を選択してください。

ESMPRO/ServerManager Ver.7 の場合は、ログインしダッシュボード右上の「クラシックモード」に接続後、右上のメニューの中の[環境設定]-[アクセス制御]-[アドレス追加]を選択してください。

そこで通信を許可する IP アドレスを追加することで、ネットワーク上の他の装置の Web ブラウザからアクセスできるようになります。

具体的な設定方法は、ESMPRO/ServerManager Ver6 の「ESMPRO サーバ管理ガイド」の「3.3.3 アクセス制御」を参照して設定してください。

ESMPRO/ServerManager Ver6 の「ESMPRO サーバ管理ガイド」は、以下の URL から入手可能です。

<https://jpn.nec.com/esmsm/download.html>



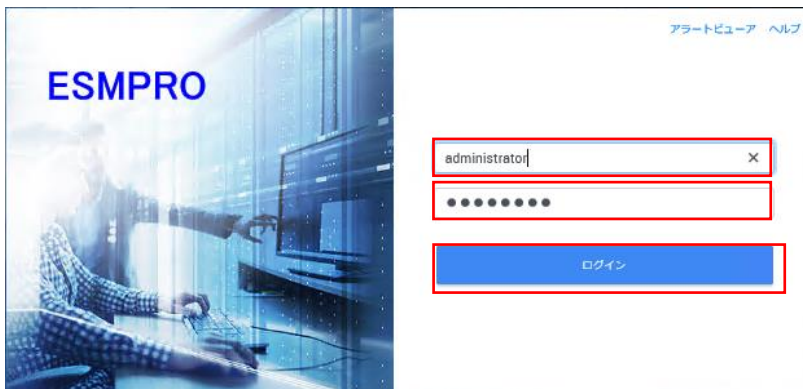
4. ESMPRO/ServerManager のログイン画面で、ユーザ名・パスワードを入力し、ログインします。  
(ユーザ名、パスワードは初期パスワード通知書の 2.1. 初期アカウント設定の ESMPRO/SM の管理者ユーザの ID とパスワードになります。)

・ ESMPRO/ServerManager Ver.6 のログイン画面



The login screen for ESMPRO6 Manager Ver.6. It features a blue header with the logo and the text 'アラートビューア | ヘルプ'. Below the header, there are two input fields: 'ユーザ名' (Username) with 'administrator' entered and 'パスワード' (Password) with '\*\*\*\*\*' entered. A red box highlights the 'ログイン' (Login) button at the bottom.

・ ESMPRO/ServerManager Ver.7 のログイン画面

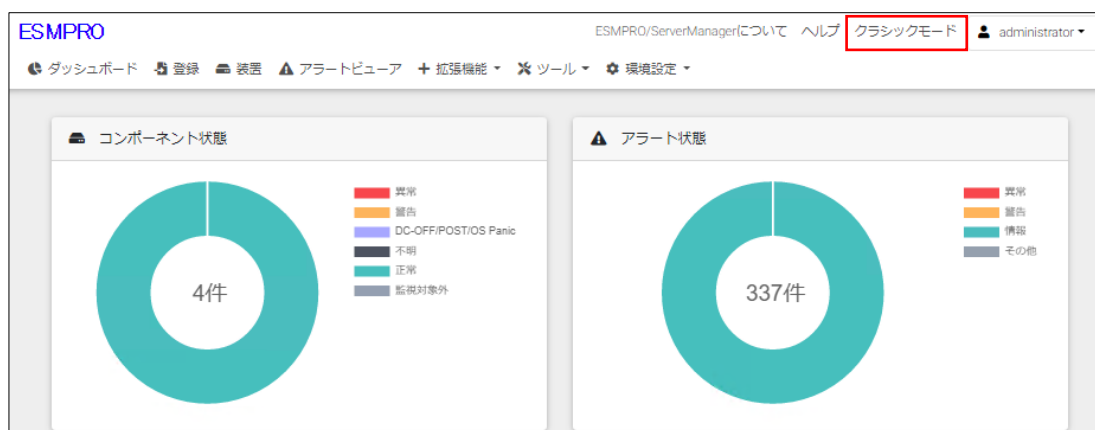


The login screen for ESMPRO. It features a blue header with the logo and the text 'アラートビューア ヘルプ'. Below the header, there is a large image of a person at a computer. To the right of the image, there are two input fields: 'administrator' entered in the first and '\*\*\*\*\*' in the second. A red box highlights the 'ログイン' (Login) button at the bottom.

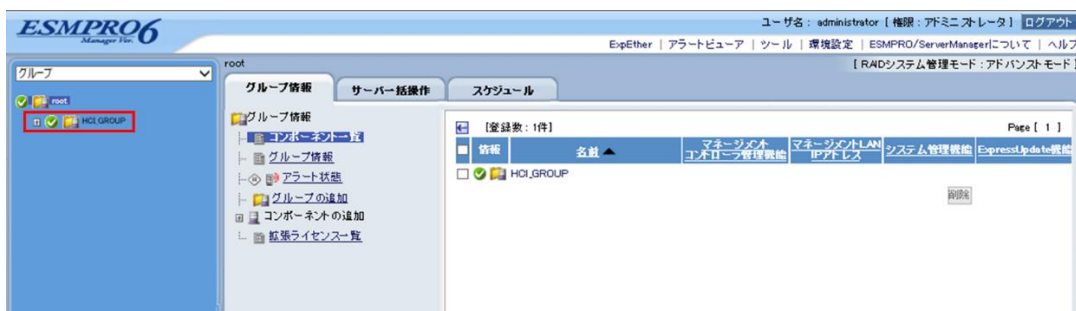
ESMPRO/ServerManager Ver.7 を使用している場合は、ダッシュボードが表示されます。

「クラシックモード」を選択してください。

このあとの手順は、Ver.6 と Ver.7 は同様です。



5. ESMPro/ServerManager のメニュー画面が表示されます。グループ名 (HCI\_Group) をクリックして表示を展開します。



6. 管理対象として登録したサーバが左ペインへ表示されます。



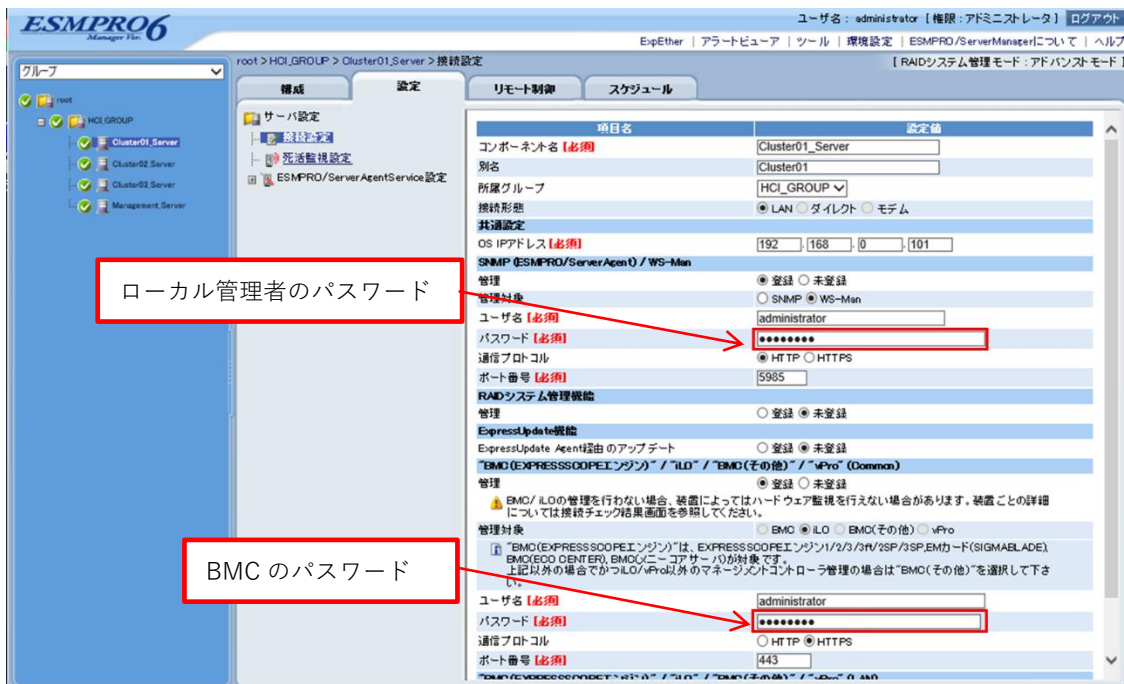
7. サーバ名をクリックし、「設定」タブをクリックします。



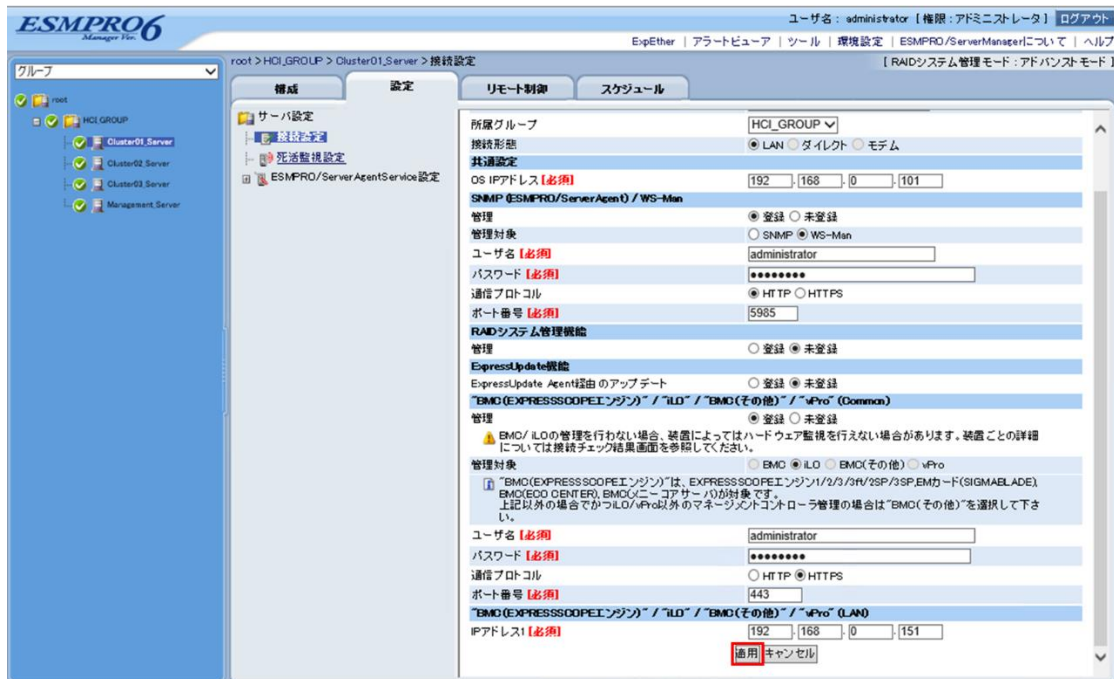
8. 画面下方の「編集」ボタンをクリックします。



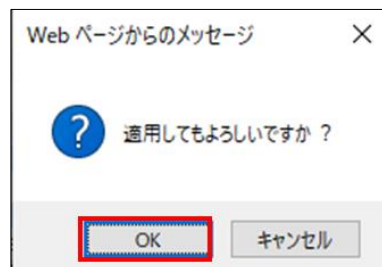
9. 変更したパスワードを再登録します。



10. 入力が完了したら「適用」ボタンをクリックします。



11. 下記のメッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリックします。



12. 「接続チェック」ボタンをクリックして確認します。



13. 「接続チェック実行結果」の詳細の内容を確認します。

問題がある場合の殆どがパスワード誤りですので再度確認の上、接続チェックを実行してください。  
問題が無ければ「接続設定へ戻る」をクリックします。問題が解消しない場合は [1.2](#) 節の問い合わせ窓口までご連絡ください。



14. 他のサーバも同様に [7.~13.](#) を実行し、パスワード情報を変更します。

15. すべての変更が終わりましたら画面右上の「ログアウト」をクリックして終了します。



ESMPro6/ServerManager でのコンポーネント登録情報の変更は以上です。

UPS を導入している場合は、[5.10](#) 節を実行してください。

## 5.8 ESMPRO/SM Web Service サービスの証明書の再作成とパスワード変更

※ESMPRO/ServerManager Ver.6 を導入している場合、以下は実施不要です。

ESMPRO/ServerManager で SSL を使用する際に作成する証明書のパスワードを変更します。

パスワードのみを変更することはできませんので、証明書を再作成してパスワードを変更してください。

なお、ESMPRO/SM Web Service サービスの証明書のパスワードは ESMPRO/ServerManager の設定ファイルに記載する必要があります。

1. Windows PC からサーバ管理用仮想マシンにリモートデスクトップ接続して証明書を再作成します。  
Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、「コンピューター」に「サーバ管理用仮想マシンの IP アドレス」を入力し、サーバ管理用仮想マシンに接続します。  
アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインします。
  - コンピューター：SG 仕様書「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シート「4.コンピューター名とネットワーク設定」「ネットワーク」の「IP アドレス」
  - ユーザー名：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者 (Administrator) の ID」
  - パスワード：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者 (Administrator) のパスワード」



2. 証明書の作成方法と ESMPRO/ServerManager の設定ファイルの記載方法は「ESMPRO/ServerManager Ver.7 インストレーションガイド(Windows 編)」をご覧ください。  
「ESMPRO/ServerManager Ver.7 インストレーションガイド(Windows 編)」は以下の URL から入手可能です。  
<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010110069>>  
→ESMPRO/ServerManager Ver.7 インストレーションガイド(Windows 編)  
「2 章インストール」→「3.インストールを終えた後に」→「■SSL」項目の以下を実行してください。
  - 項番「2.」：証明書の再作成
  - 項番「3.」：作成した証明書のインポート
  - 項番「4.」：appsettings.json ファイルの編集
  - 項番「6.」：ESMPRO/ServerManager のサービスの再起動
  - 項番「7.」：server.xml ファイルの編集
  - 項番「9.」：ESMPRO/ServerManager が動作している管理 PC を再起動



## 5.9 ESMPRO/ServerManager SSL の鍵の再作成とキーストアのパスワード変更

※ESMPRO/ServerManager Ver.7 を導入している場合、以下は実施不要です。

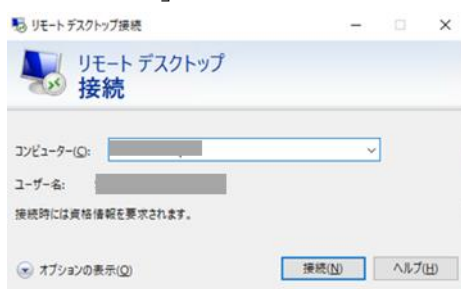
ESMPRO/ServerManager で SSL を使用する際に作成する鍵のパスワードを変更します。

パスワードのみを変更することはできませんので、鍵を再作成してパスワードを変更してください。

なお、ESMPRO/ServerManager SSL 用キーストアのパスワードは ESMPRO/ServerManager の設定ファイルに記載する必要があります。

また、「C:\¥Document and Settings¥<ログオンユーザー>」に「.keystore」ファイルが存在する場合は、事前に移動、もしくは削除しておいてください。

1. Windows PC からサーバ管理用仮想マシンにリモートデスクトップ接続して証明書を再作成します。  
Windows PC でリモートデスクトップ接続(mstsc)を起動し、「コンピューター」に「サーバ管理用仮想マシンの IP アドレス」を入力し、サーバ管理用仮想マシンに接続します。  
アカウント認証画面が表示されますので、下記アカウント情報を入力し、ログインします。
  - コンピューター：SG 仕様書「管理ノードのサーバ管理用仮想マシンの構築」シート「4.コンピューター名とネットワーク設定」「ネットワーク」の「IP アドレス」
  - ユーザー名：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者 (Administrator) の ID」
  - パスワード：初期パスワード通知書「管理ノード上のサーバ管理用仮想マシンのローカル管理者 (Administrator) のパスワード」



2. 鍵の作成方法と ESMPRO/ServerManager の設定ファイルの記載方法は以下のインストレーションガイドをご覧ください。

「ESMPRO/ServerManager Ver.6 インストレーションガイド(Windows 編)」をご覧ください。

「ESMPRO/ServerManager Ver.6 インストレーションガイド(Windows 編)」は以下の URL から入手可能です。

<<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010103524> >

→ESMPRO/ServerManager Ver. 6 インストレーションガイド (Windows 編)

「2 章インストール」→「3.インストールを終えた後に」→「■SSL」を実行してください。

## 5.10 UPS の SNMP カードログインユーザ(管理者権限ユーザー)パスワード変更

※UPS を導入していない場合、以下は実施不要です。

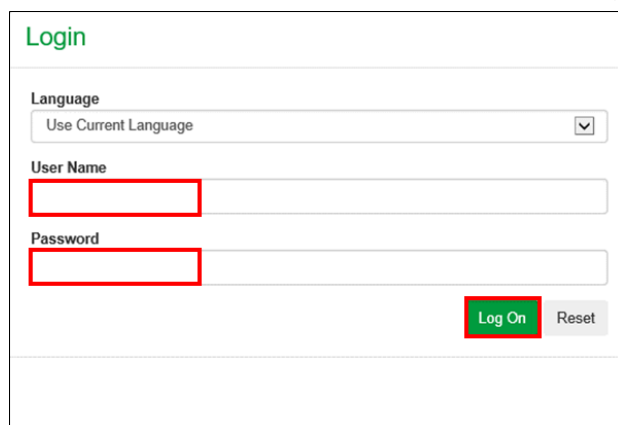
UPS(Uninterruptible Power Supply)：無停電電源装置。停電等によって電力が断たれた場合にも電力を供給し続ける電源装置。

1. Windows PC 上の Web ブラウザを起動し、UPS の SNMP カードの IP アドレスを入力してログイン画面を表示します。

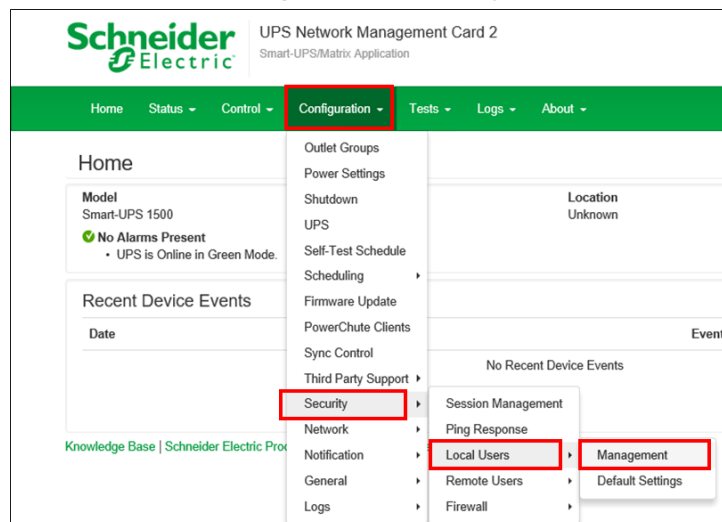
https://<UPS の SNMP カード IP アドレス>/

(UPS の SNMP カード IP アドレスは、SG 仕様書の[電源制御設定]シートの「2.SNMP カードセットアップ」の各ノード用 UPS の IP アドレスになります。)

2. Web ブラウザに SNMP カードのログイン画面が表示されます。
3. ユーザ名とパスワードを入力し、「LogOn」ボタンをクリックします。  
(ユーザ名、パスワードは、初期パスワード通知書の「2.1.初期アカウント設定」の SNMP カードの管理者権限ユーザーの ID とパスワードになります。)

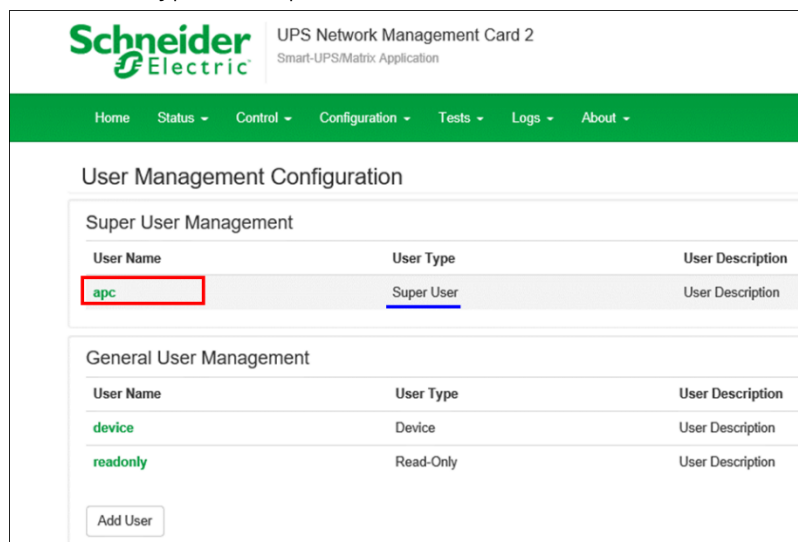


4. メニューの「Configuration」「Security」「Local Users」「Management」の順にクリックします。





5. 「User Type」が「Super User(管理者権限)」のユーザをクリックします。



UPS Network Management Card 2  
Smart-UPS/Matrix Application

Home Status Control Configuration Tests Logs About

### User Management Configuration

#### Super User Management

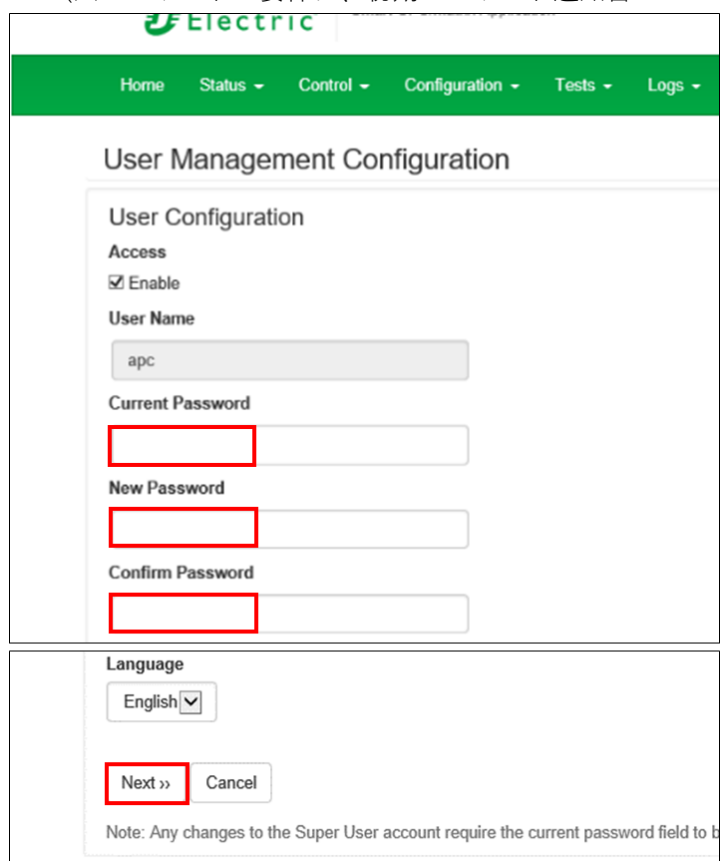
User Name	User Type	User Description
apc	Super User	User Description

#### General User Management

User Name	User Type	User Description
device	Device	User Description
readonly	Read-Only	User Description

Add User

6. 現在のパスワード、新しいパスワード、新しいパスワードの再入力をして「Next」をクリックします。  
(※パスワードの要件は、初期パスワード通知書の「2.2.パスワード要件」を参照ください。)



UPS Network Management Card 2  
Smart-UPS/Matrix Application

Home Status Control Configuration Tests Logs

### User Management Configuration

#### User Configuration

Access

☒ Enable

User Name

apc

Current Password

New Password

Confirm Password

Language

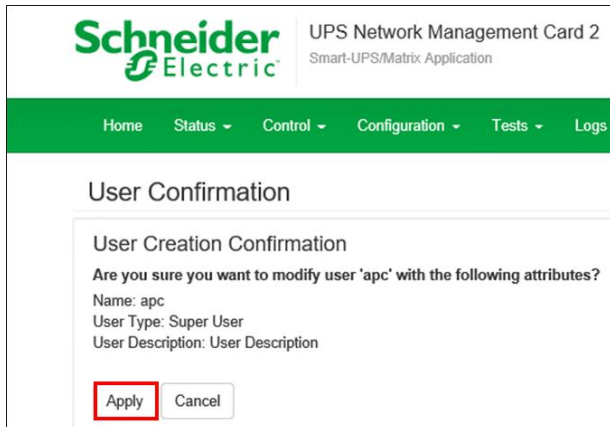
English

Next >> Cancel

Note: Any changes to the Super User account require the current password field to be filled.

7. 「Apply」をクリックして変更の適用を行います。

※変更したパスワードは忘れないようにしてください。忘れた場合はお客様によるリセットや、設定変更が出来なくなります。



The screenshot shows the Schneider Electric UPS Network Management Card 2 interface. The top header includes the Schneider Electric logo and the text "UPS Network Management Card 2" and "Smart-UPS/Matrix Application". Below the header is a green navigation bar with links: Home, Status, Control, Configuration, Tests, and Logs. The main content area displays a "User Confirmation" dialog box. Inside the dialog, it says "User Creation Confirmation" and "Are you sure you want to modify user 'apc' with the following attributes?". The attributes listed are: Name: apc, User Type: Super User, and User Description: User Description. At the bottom of the dialog, there are two buttons: "Apply" (highlighted with a red box) and "Cancel".

同様の手順ですべての UPS の SNMP カードログインユーザ(管理者権限ユーザー)のパスワード変更を行ってください。

## 商標について

EXPRESSBUILDER と ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です

Microsoft Windows, Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国 およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

## 本書に関する注意と補足

1. 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
2. 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
3. NEC の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
4. 本書の内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたら、本書の問い合わせ先にご連絡ください。
5. 運用した結果の影響については、4 項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

# 改版履歴

版数	発行年月	改版内容
1.0	2020/03	初版
1.1	2020/04	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 ノード構成の追加に伴い以下を改訂</li> <li>「1.3 用語の定義」を修正</li> <li>「2.1 ご用意いただくもの」を修正</li> <li>「3.4 ネットワーク装置への接続」を修正</li> <li>「3.8 Windows PC の準備」を修正</li> <li>「改版履歴」を追加。</li> </ul>
1.2	2020/08	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ UPS の導入時の作業追加と作業内容の精査に伴い以下を改訂</li> <li>「3.1 概要」を修正</li> <li>「3.14 クラスターの検証」を修正</li> <li>「3.17 クラスター環境の動作確認」を修正</li> <li>「3.18 動作確認設定の削除」を追記</li> <li>「5.1 概要」の修正</li> <li>「5.3 Active Directory(AD)ドメインアカウントのパスワード変更」を追加</li> <li>「5.7 UPS の SNMP カードログインユーザ(管理者権限)パスワード変更」を追加</li> </ul>
1.3	2020/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Active Directory の冗長化に伴い以下を改訂</li> <li>「1.3 用語の定義」を修正</li> <li>「3.1 概要」を修正</li> <li>「3.10 管理ノードの仮想マシン確認」を修正</li> <li>「3.11 DNS 疎通確認」を修正</li> <li>「3.17.2 クラスターノードの仮想マシン確認」を追記</li> <li>「3.18 動作確認設定の削除」を修正</li> <li>「3.19 クラスター管理用 VM のバックアップ設定の確認」の追加</li> <li>「5.1.2 ID・パスワードの依存関係について」を修正</li> <li>「5.3 Active Directory(AD)ドメインアカウントのパスワード変更」を修正</li> <li>・ 設定の確認資料をヒアリングシートから SG 仕様書に統一</li> </ul>
1.4	2021/01	製品名変更により、旧名称を新名称に変更
1.5	2021/02	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Active Directory の可用性選択に伴い以下を改訂</li> <li>「3.11 DNS 疎通確認」を修正</li> <li>「3.17.2 クラスターノードの仮想マシン確認」を修正</li> <li>「3.18 動作確認設定の削除」を修正</li> <li>「3.19 クラスター管理 AD 用仮想マシンのバックアップ設定の確認」を修正</li> <li>「4 ライセンス登録」を修正</li> <li>「5 パスワード変更」を修正</li> </ul>
1.6	2021/04	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ システムバックアップサービスに伴い以下を改訂</li> <li>「3.20 システムバックアップの確認」を追記</li> </ul>
1.7	2021/06	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.4 導入に伴い以下を改訂</li> <li>「5.1.2 ID・パスワードの依存関係について」を修正</li> <li>「5.3 Active Directory(AD)ドメインアカウントのパスワード変更」を修正</li> </ul>

<b>1.8</b>	2021/06	テンプレート変更による改版
<b>1.9</b>	2021/08	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESMPRO/ServerManager Ver.7 導入に伴い、以下を改訂</li> <li>「5.5 サーバ管理用仮想マシンの ESMPRO/ServerManager のパスワード変更」を修正</li> <li>「5.6 ESMPRO/ServerManager のコンポーネント登録情報の変更」を修正</li> <li>・ リモートデスクトップの接続方法変更に伴い、以下を改訂</li> <li>「5.3 Active Directory(AD)ドメインアカウントのパスワード変更」を修正</li> <li>「5.4 ローカル管理者(Administrator)パスワード変更」を修正</li> </ul>
<b>2.0</b>	2021/08	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows Admin Center バージョン 2103.2 導入に伴い、以下を改訂</li> <li>「3.15.1 Windows Admin Center ログイン」を修正</li> <li>「3.16 WindowsPC から Windows Admin Center での状態確認」を修正</li> <li>「3.17.1 S2D ボリュームの作成」を修正</li> <li>「3.17.2 クラスターノードの仮想マシン確認」を修正</li> <li>「3.17.3 仮想マシンの作成」を修正</li> <li>「3.17.4 仮想マシンの起動」を修正</li> <li>「3.17.5 仮想マシンの移動」を修正</li> <li>「3.18.1 仮想マシンの停止」を修正</li> <li>「3.18.2 仮想マシンの削除」を修正</li> <li>「3.18.3 S2D ボリュームの削除」を修正</li> </ul>
<b>2.1</b>	2021/08	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記載項目の見直しに伴い、以下を改訂</li> <li>「5.1 概要」を修正</li> <li>「5.1.2 ID・パスワードの依存関係について」を修正</li> <li>「5.5 ディレクトリサービス復元モードのパスワード変更」を追記</li> <li>「5.8 ESMPRO/SM Web Service サービスの証明書の再作成とパスワード変更」を追記</li> <li>「5.9 ESMPRO/ServerManager SSL の鍵の再作成とキーストアのパスワード変更」を追記</li> </ul>
<b>2.2</b>	2021/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記載内容の見直しに伴い、以下を改訂</li> <li>「1 本ガイドについて」を修正</li> <li>「2.1 ご用意いただくもの」を修正</li> <li>「3.1 概要」を修正</li> <li>「3.2.1 構成表の確認」を修正</li> <li>「3.4 ネットワーク装置への接続」を修正</li> <li>「3.19.1 バックアップ保存先の確認」を修正</li> <li>「3.19.2 管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンのタスクの確認」を修正</li> <li>「3.20.1 バックアップの確認」</li> <li>「5.1.2 ID・パスワードの依存関係について」を修正</li> <li>「5.3 Active Directory(AD)ドメインアカウントのパスワード変更」を修正</li> </ul>
<b>2.3</b>	2022/01	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記載内容の見直しに伴い、以下を改訂</li> <li>「3.1 概要」を修正</li> <li>「3.5 電源の接続」を修正</li> <li>「3.4 ネットワーク装置への接続」を修正</li> </ul>

		<p>「3.21 SNMP アラートのテスト送信と確認」を追加</p> <p>「3.22 NEC ESMPRO Extension for Windows Admin Center の動作確認」を追加</p> <p>「3.23 AD ドメインの保守用アカウントのログイン確認」を追加</p> <p>「5.2.1 BMC パスワード変更」を修正</p> <p>「5.6 サーバ管理用仮想マシンの ESMPRO/ServerManager のパスワード変更」を修正</p> <p>「5.7 ESMPRO/ServerManager のコンポーネント登録情報の変更」を修正</p> <p>「5.8 ESMPRO/SM Web Service サービスの証明書の再作成とパスワード変更」を修正</p> <p>「5.9 ESMPRO/ServerManager SSL の鍵の再作成とキーストアのパスワード変更」を修正</p>
<b>2.4</b>	2022/03	<p>・ 記載内容の見直しに伴い、以下を改訂</p> <p>「3.19.1 バックアップ保存先の確認」を修正</p> <p>「5.8 ESMPRO/SM Web Service サービスの証明書の再作成とパスワード変更」を修正</p> <p>・ Windows Admin Center バージョン 2110 導入に伴い、以下を改訂</p> <p>「1.4 表記」の追加</p> <p>「3.15.1 Windows Admin Center ログイン」を修正</p> <p>「3.16 WindowsPC から Windows Admin Center での状態確認」を修正</p> <p>「3.17.1 S2D ポリ्यूムの作成」を修正</p> <p>「3.17.2 クラスターノードの仮想マシン確認」を修正</p> <p>「3.17.3 仮想マシンの作成」を修正</p> <p>「3.17.4 仮想マシンの起動」を修正</p> <p>「3.17.5 仮想マシンの移動」を修正</p> <p>「3.18.1 仮想マシンの停止」を修正</p> <p>「3.18.2 仮想マシンの削除」を修正</p> <p>「3.18.3 S2D ポリ्यूムの削除」を修正</p>
<b>2.5</b>	2022/06	<p>・ 記載内容の見直しに伴い、以下を改訂</p> <p>「2.1 ご用意いただくもの」を修正</p> <p>「3.2.2 構成表の確認」を修正</p> <p>「3.9 Windows PC から管理ノードに接続」を修正</p> <p>「3.13 クラスターノードの Ping 応答確認」を修正</p> <p>「3.14 クラスターの検証」を修正</p> <p>「3.17.5 仮想マシンの移動」を修正</p> <p>「4.1.1 ライセンス認証状態の確認」を修正</p> <p>「4.1.2 管理ノードとクラスターノードのペアレント OS の認証」を修正</p> <p>「5.1 概要」を修正</p> <p>「5.2.1 BMC パスワード変更」を修正</p> <p>「5.9 ESMPRO/ServerManager SSL の鍵の再作成とキーストアのパスワード変更」を修正</p>
<b>2.6</b>	2022/09	<p>・ 記載内容の見直しに伴い、以下を改訂</p> <p>「3.12 Windows PC からクラスターノードに接続」を修正</p>

		「3.14 クラスターの検証」を修正 「3.19.2 管理ノードのクラスター管理 AD 用仮想マシンのタスクの確認」を修正 「3.19.3 S2D 上のクラスター管理 AD 用仮想マシンのタスクの確認」を修正 「3.22 NEC ESMPRO Extension for Windows Admin Center の動作確認」を修正
2.7	2022/09	・ Windows Server 2022 対応に伴い、以下を改訂 「2.1 ご用意いただくもの」を修正 「3.4 ネットワーク装置への接続」を修正 「3.9 Windows PC から管理ノードに接続」を修正 「3.12 Windows PC からクラスターノードに接続」を修正 「3.14 クラスターの検証」を修正 「3.19.1 バックアップ保存先の確認」を修正 「3.20.1 バックアップの確認」を修正 「3.23 AD ドメインの保守用アカウントのログイン確認」を修正 「4.1.1 ライセンス認証状態の確認」を修正 「4.1.2 管理ノードとクラスターノードのペアレント OS の認証」を修正 「4.1.3 仮想マシン(クラスター管理 AD 用仮想マシン、サーバ管理用仮想マシン)の認証」を修正 「5.4 ローカル管理者(Administrator)パスワード変更」を修正
2.8	2023/02	・ Windows Admin Center バージョン 2211 導入に伴い、以下を改訂 「3.16 WindowsPC から Windows Admin Center での状態確認」を修正 「3.17.1 S2D ボリュームの作成」を修正 「3.17.2 クラスターノードの仮想マシン確認」を修正 「3.17.3 仮想マシンの作成」を修正 「3.17.4 仮想マシンの起動」を修正 「3.17.5 仮想マシンの移動」を修正 「3.18.1 仮想マシンの停止」を修正 「3.18.2 仮想マシンの削除」を修正 「3.18.3 S2D ボリュームの削除」を修正
2.9	2023/03	・ 記載内容の見直しに伴い、以下を改訂 「3.21.2 テスト送信の確認」を修正 「3.22 NEC ESMPRO Extension for Windows Admin Center の動作確認」を修正 「5.6 サーバ管理用仮想マシンの ESMPRO/ServerManager のパスワード変更」を修正 「5.7 ESMPRO/ServerManager のコンポーネント登録情報の変更」を修正
3.0	2023/07	・ 記載内容の見直しに伴い、以下を改訂 「3.17.1 S2D ボリュームの作成」を修正 「3.17.5 仮想マシンの移動」を修正 「3.18.2 仮想マシンの削除」を修正
3.1	2024/01	■ Windows Admin Center バージョン 2311 導入に伴い、以下を改訂 「3.17.1 S2D ボリュームの作成」を修正

		「3.17.5 仮想マシンの移動」を修正
--	--	----------------------



別紙 受入検査チェックシート

検査日 \_\_\_\_\_  
ご担当 \_\_\_\_\_

No.	項 目	チェック	確認者	備 考
1	構成品の確認	<input type="checkbox"/>		
2	本製品の設置	<input type="checkbox"/>		
3	ネットワーク装置への接続	<input type="checkbox"/>		
4	電源の接続	<input type="checkbox"/>		
5	管理ノードの電源オン	<input type="checkbox"/>		
6	クラスターノードの電源オン	<input type="checkbox"/>		
7	Windows PCの準備	<input type="checkbox"/>		
8	Windows PCから管理ノードに接続	<input type="checkbox"/>		
9	管理ノードの仮想マシン確認	<input type="checkbox"/>		
10	DNS疎通確認	<input type="checkbox"/>		
11	Windows PCからクラスターノードに接続	<input type="checkbox"/>		
12	クラスターノードのPing応答確認	<input type="checkbox"/>		
13	クラスターの検証	<input type="checkbox"/>		
14	Windows PCからWindows Admin Centerへの接続確認	<input type="checkbox"/>		
15	Windows PCからWindows Admin Centerでの状態確認	<input type="checkbox"/>		
16	クラスター環境の動作確認	<input type="checkbox"/>		
17	動作確認設定の削除	<input type="checkbox"/>		
18	クラスター管理AD用仮想マシンのバックアップ設定の確認 ※HCS構築サービスでクラスター管理AD用仮想マシンをバックアップしている場合に実施	<input type="checkbox"/>		
19	システムバックアップの確認 ※HCS構築サービスでシステムバックアップを取得している場合に実施	<input type="checkbox"/>		
20	SNMPアラートのテスト送信と確認	<input type="checkbox"/>		
21	NEC ESMPRO Extension for Windows Admin Centerの動作確認	<input type="checkbox"/>		
22	ADドメインの保守用アカウントのログイン確認	<input type="checkbox"/>		